

釧路沿岸モデル地域にて検討を進めるに当たって

国土交通省 北海道開発局
平成30年2月7日

北海道内の地域構造

1

- P2 北海道型地域構造の類型化
- P3 モデル的な3圏域の生産空間の特徴

2

生産空間を支える取組イメージ

- P4 8期計画における取組の位置付け
- P5 現状と課題、施策例、具体的な取組例

3

釧路沿岸モデル地域の現状分析

- P6 所得・雇用の確保
- P17 生活機能・集落機能の確保
- P21 地域の魅力向上
- P23 安全・安心な社会基盤の形成

4

釧路沿岸モデル地域の取組イメージ例

- P27 釧路沿岸モデル地域の取組イメージ例

5

他の地域の取組事例

- (参考資料) 他地域の事例

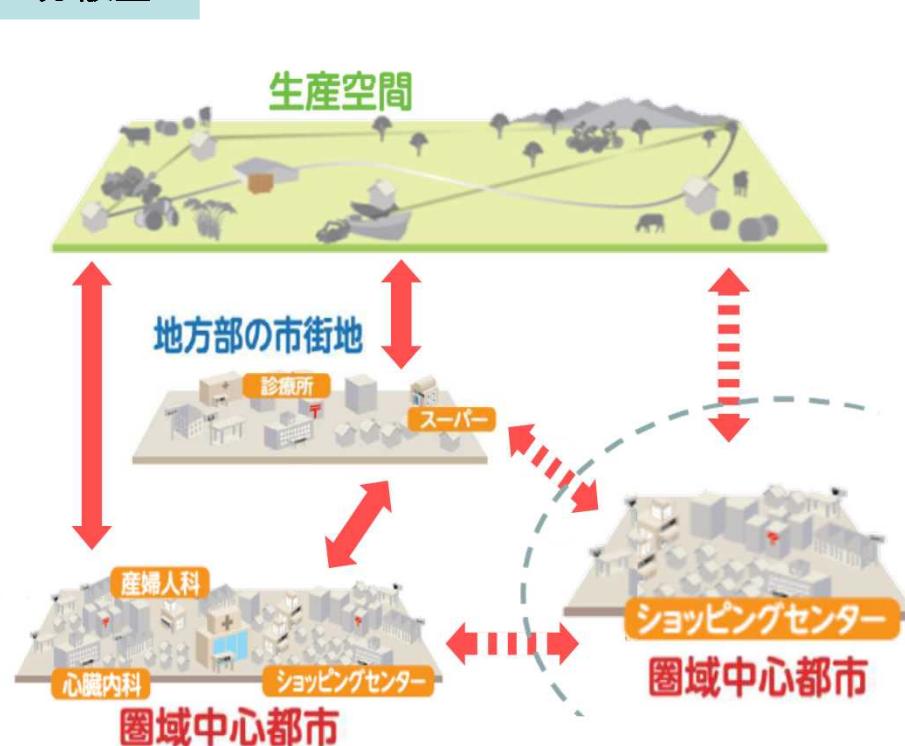
1 北海道型地域構造の類型化

- 医療に着目した圏域をもとに、道路交通網や購買依存も踏まえて、道内の地域構造をパターン化した場合、その関係は、概ね以下の2パターンに分類されると考えられる。

集中型



分散型



【このような圏域の特色】

- 圏域中心都市における都市機能・生活機能の充実度が圏域内において高く、又、アクセスしやすいため圏域中心都市への依存度が高い。

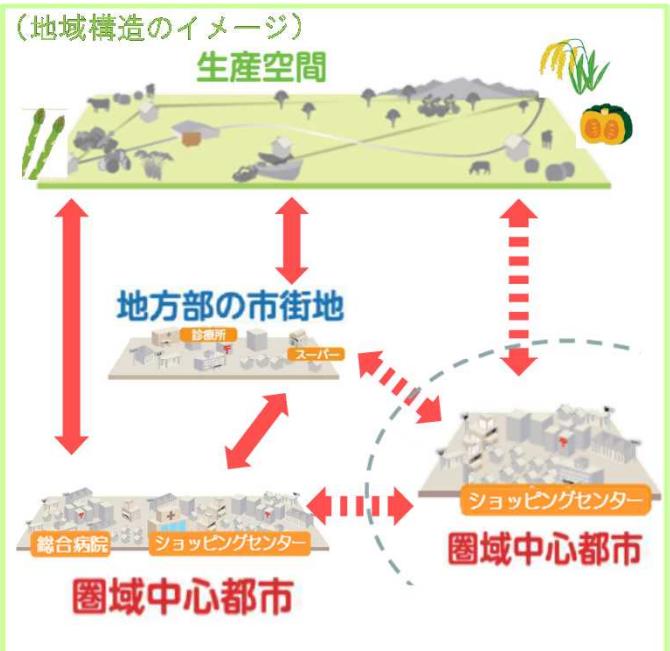
【このような圏域の特色】

- 圏域内に、圏域中心都市と同程度の都市機能・生活機能を有する市街地が存在するなど、各層間で一定の依存が見られる。
- 圏域外への購買依存があるなど行動が多様。

○『圏域検討会』を発足する「道内3圏域」については、生産空間における産業構造や地理的特性を踏まえて、以下の3つをモデル的に選定。

名寄周辺

産業構造: 稲作その他
地理的特性: 内陸(分散型)



十勝南

産業構造: 畑作・酪農(大規模経営)
地理的特性: 内陸(集中型)



釧路沿岸

産業構造: 酪農・水産業(港湾・漁港機能を有する)
地理的特性: 沿岸(集中型)



【このような圏域の特色】

- 稲作・畑作のほか、酪農や林業等、多彩な一次産業が見られる。
- 圏域内各層間で一定の依存が見られるほか、医療面での圏域とは別の圏域への購買依存があるなど、行動が多様。

【このような圏域の特色】

- 主に畑作や酪農などで大規模経営がなされている。
- 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。

【このような圏域の特色】

- 生産空間(漁港)と市街地が隣接しており、圏域内に点在している。
- 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。

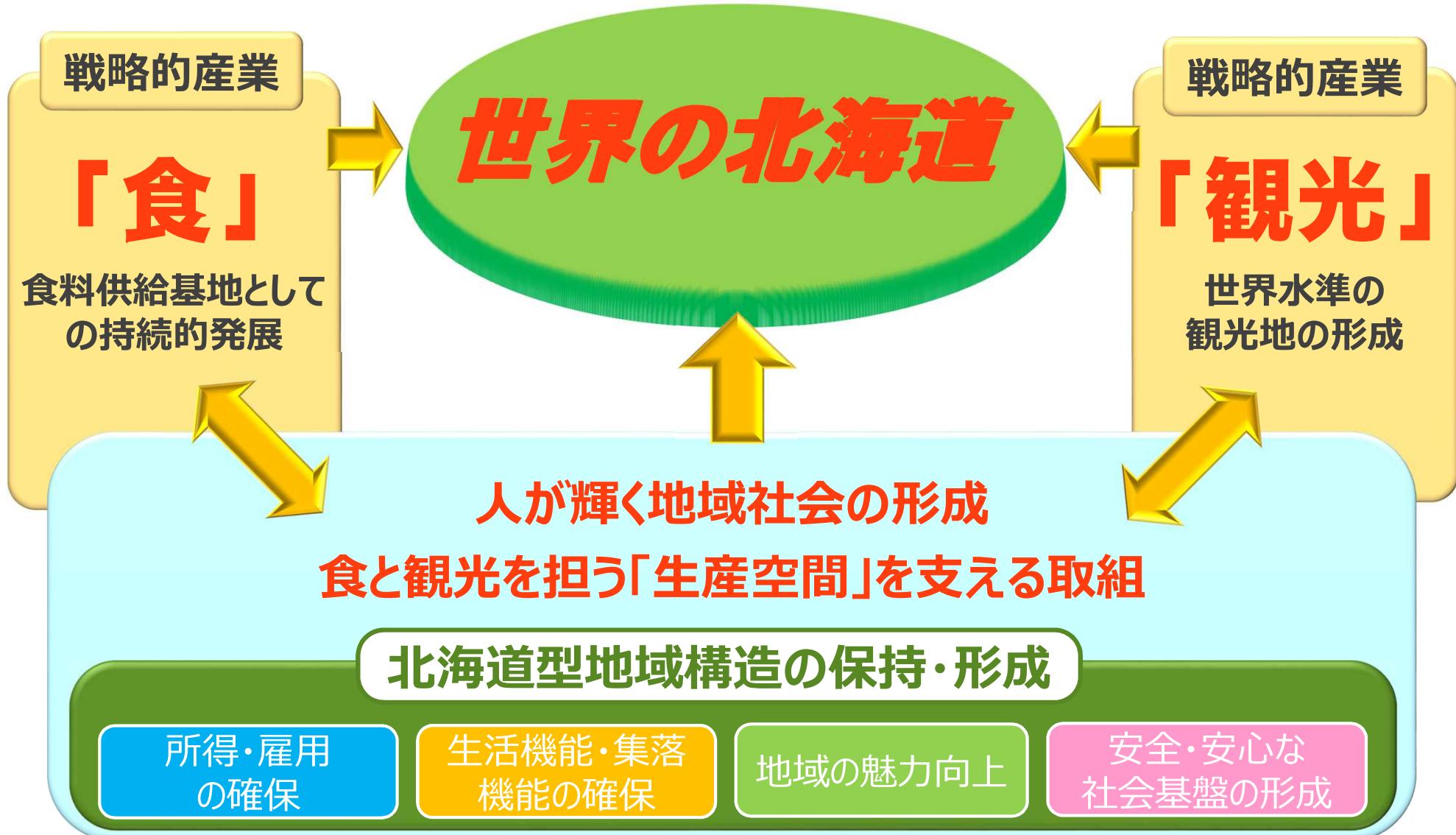
(参考) 地域構造の類型化による主な4パターン

集中型  内陸 …①(十勝南)
沿岸 …②(釧路沿岸)

分散型  内陸 …③(名寄周辺)
沿岸 …④

2 生産空間を支える取組イメージ①

- 第8期北海道総合開発計画において、北海道の強みである「食」と「観光」が戦略的産業と位置付けられた。
- 農林水産業、観光等を担う「生産空間」を支え、「世界の北海道」を目指す。



2 生産空間を支える取組イメージ②

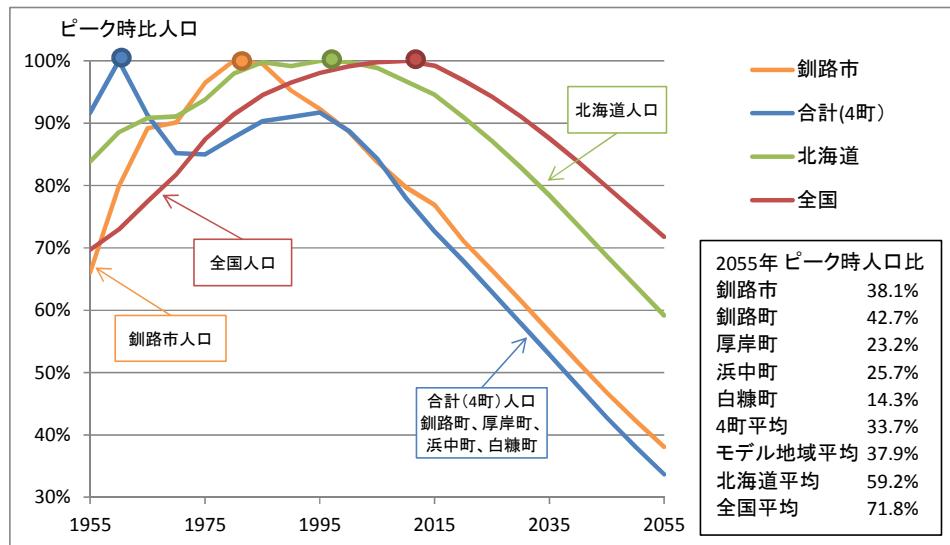
- 生産空間は、主として農業・漁業に係る生産の場として、我が国の食料供給に大きく貢献し、観光その他の多面的・公益的機能を提供
- 今後もその役割を果たし続けるためには、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される基礎圏域を形成し、生産空間での暮らしを広域的に支えつつ、人々の活発な対流を促進するなど、生産空間に住み続けられる環境づくりが必要



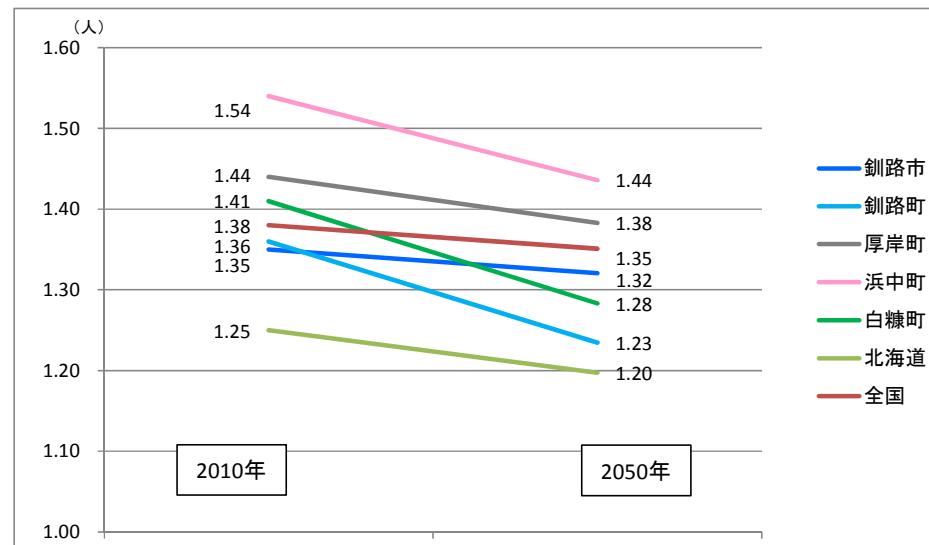
3 所得・雇用の確保（人口①）

- 釧路沿岸モデル地域（1市4町）は、人口減少が著しく、2055年にはピーク時比人口が40%を下回る。
- モデル地域の現在の高齢化率は30%で北海道平均と同程度だが、2055年の4町平均は道平均を超える予測。
- 合計特殊出生率は、全ての市町で北海道平均よりも高い。

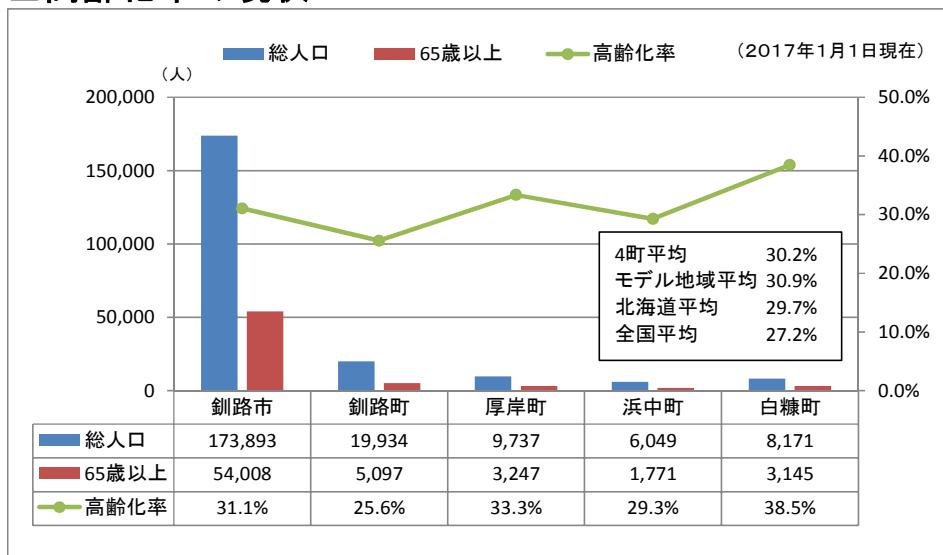
■人口の推移と予測



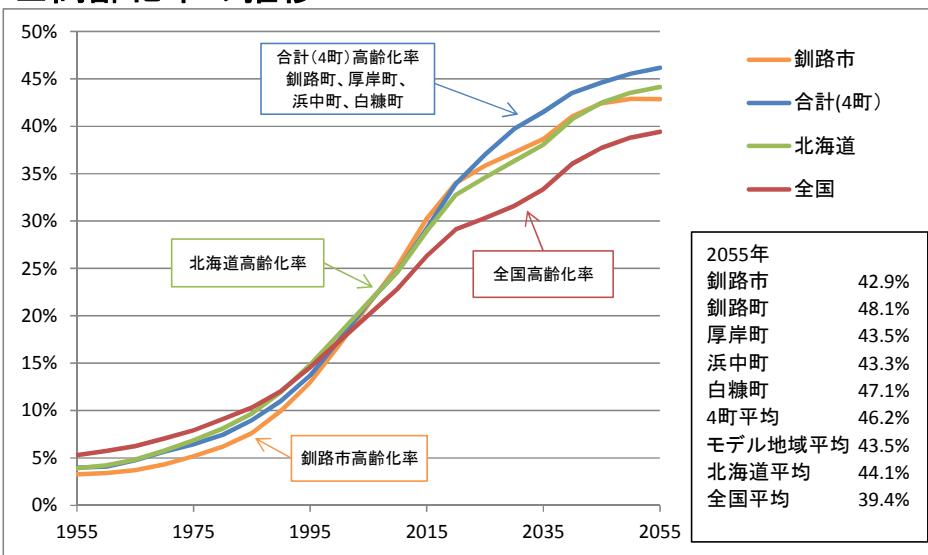
■合計特殊出生率の予測



■高齢化率の現状

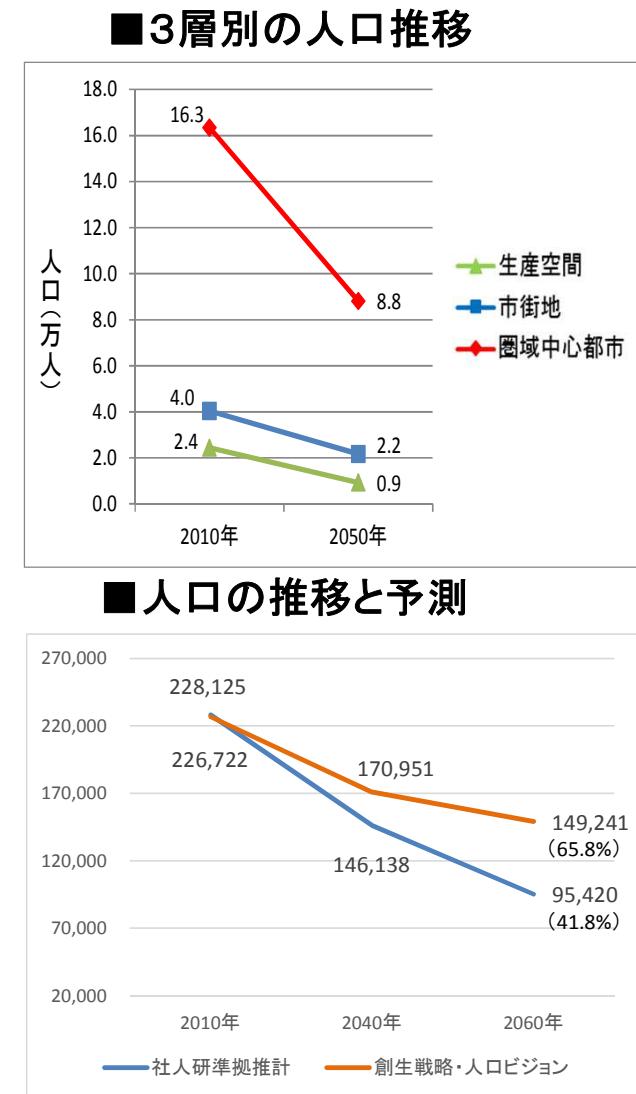
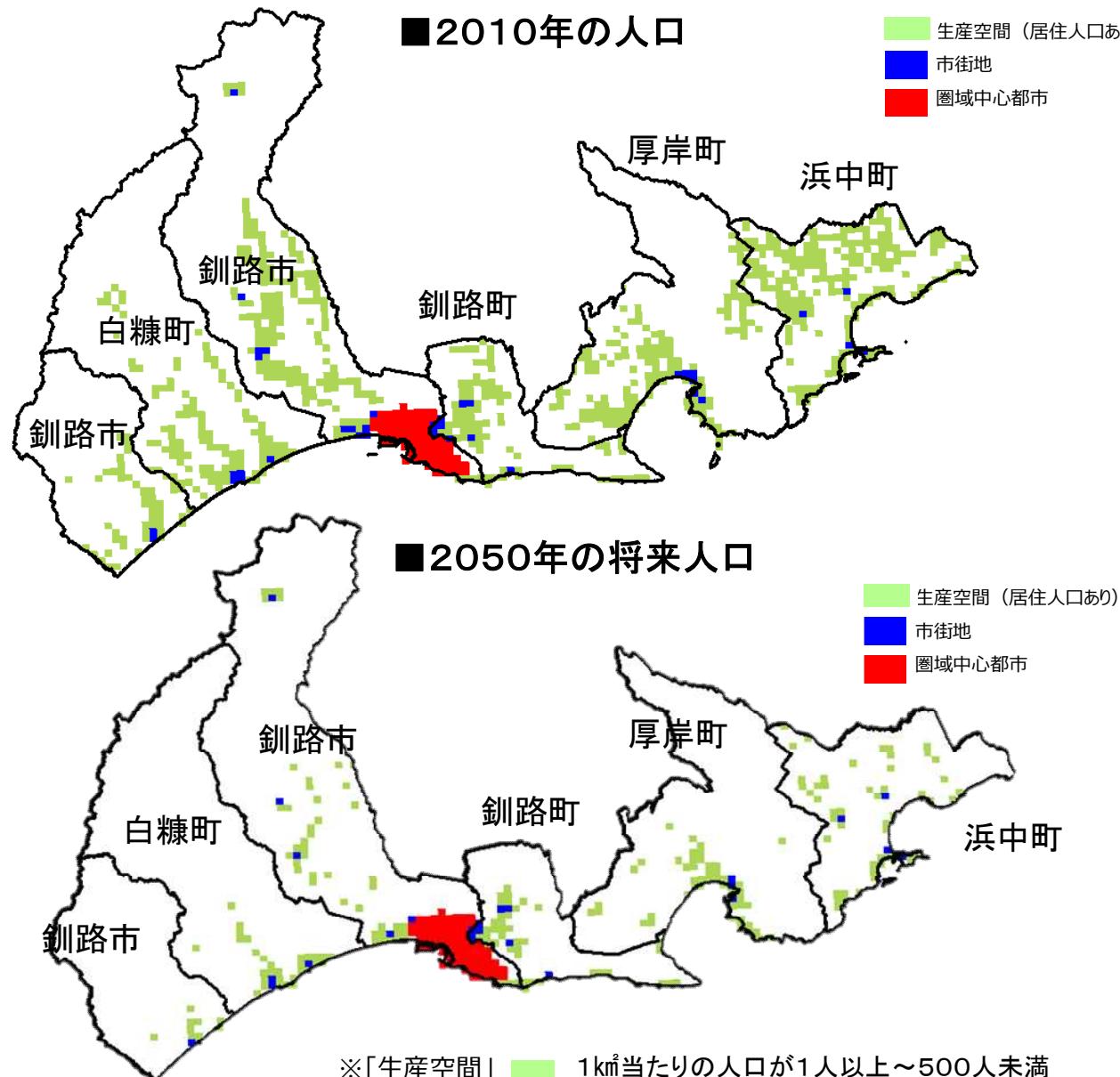


■高齢化率の推移



3 所得・雇用の確保（人口②）

- 2010年と2050年(推計)の人口分布を比較すると、生産空間の無人化が進行していくことが予想される。
○各市町村においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略により、めざすべき将来人口を展望している。



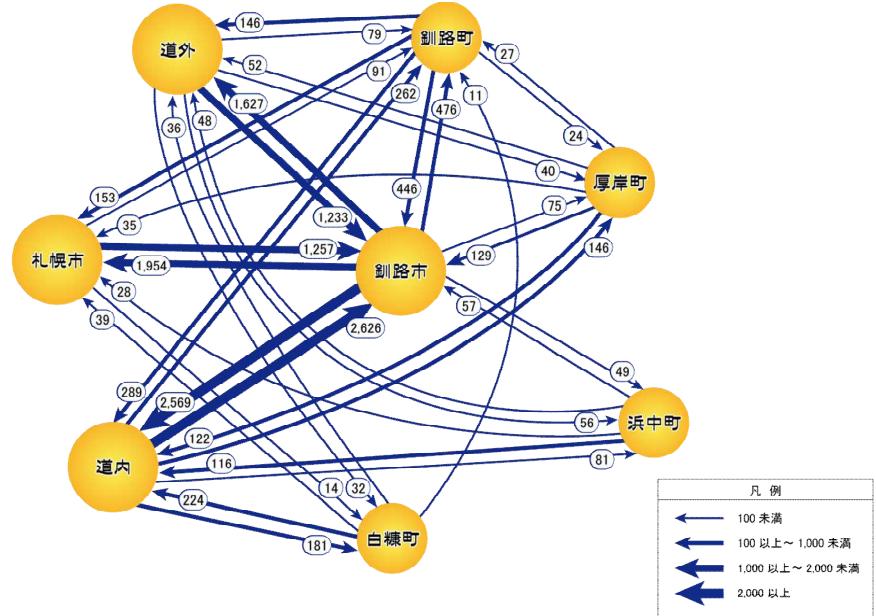
オレンジ:5市町の創生総合戦略・人口ビジョンによりめざす将来人口

青:社人研準拠推計（国立社会保障・人口問題・研究所の将来人口推計値）

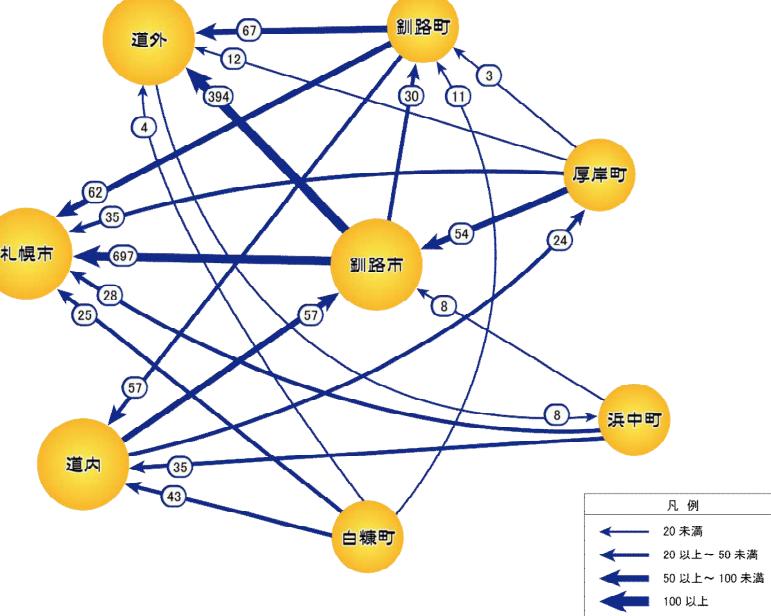
3 所得・雇用の確保（人口③-1）

- 人口の社会動態は、釧路市や釧路町への移動がみられるが、札幌市・道外への流出も多い。
- 転入者、転出者ともに、20～39歳の移動割合が大きい。

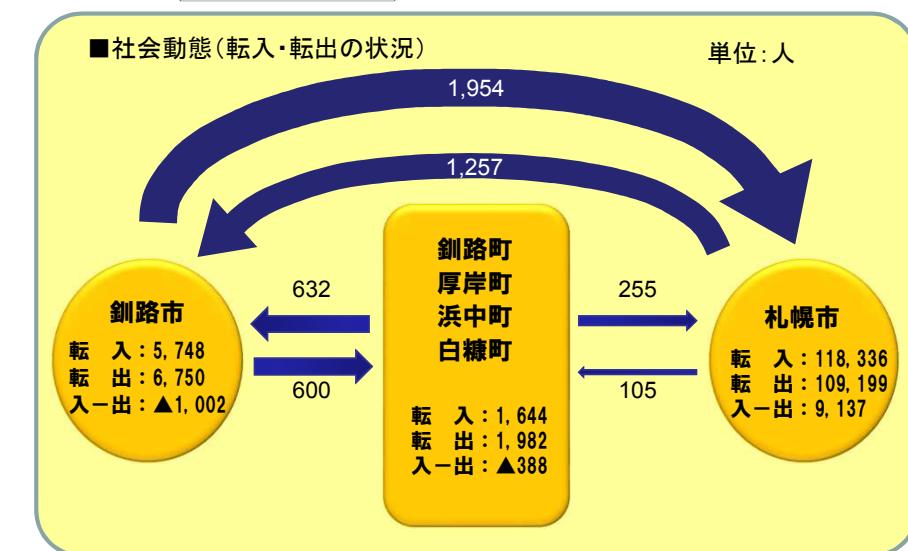
■社会動態(転入・転出の状況) 単位:人



■社会動態(転入と転出の差引結果) 単位:人



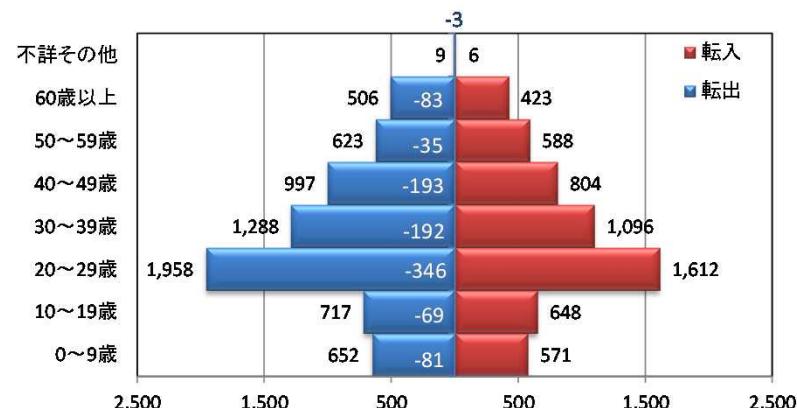
■社会動態(転入・転出の状況) 単位:人



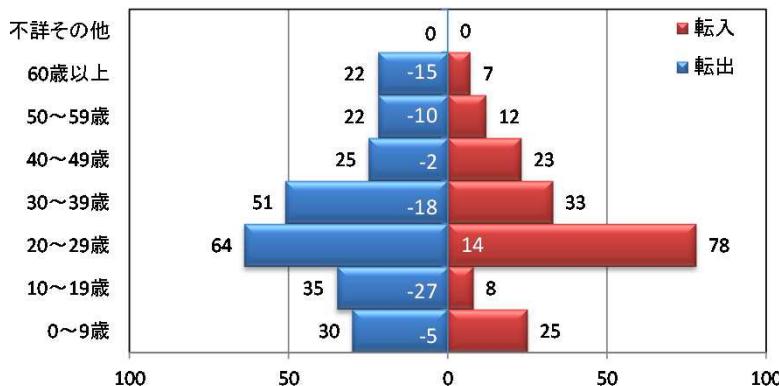
3 所得・雇用の確保（人口③-2）

■年齢階層別転出・転入者数

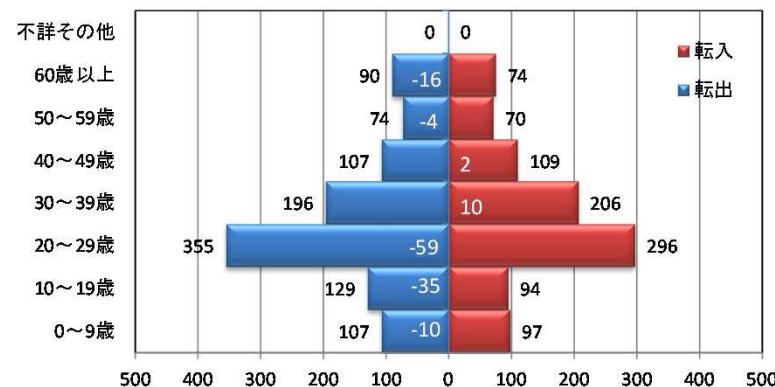
■釧路市



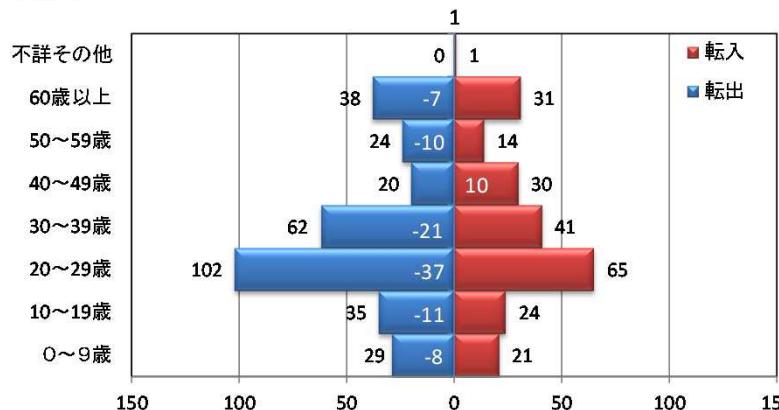
■浜中町



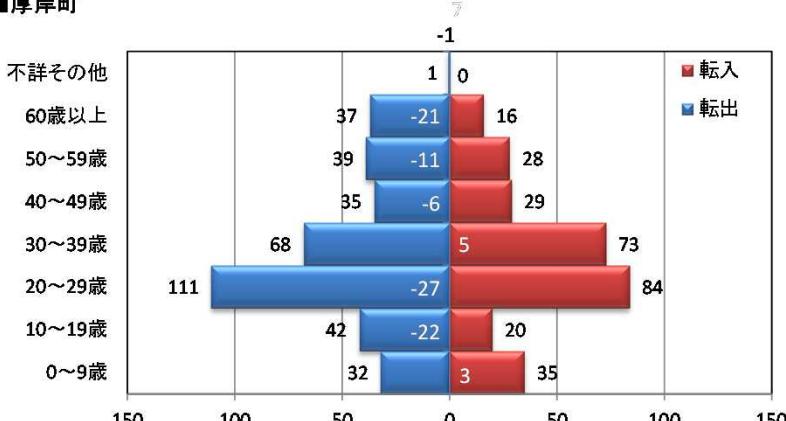
■釧路町



■白糠町



■厚岸町



■自治体別の要因(自治体ヒアリング結果)

【釧路市】10~20代が転出超過、進学や就職で札幌や東京へ転出。

【釧路町】子育て環境の整備により30~40代の若い世代を取込。

【厚岸町】カキの生産増加に伴い、後継者のUターン、漁協生産施設の新規雇用による転入あり。

【浜中町】平成29年4月より新規学卒やUターン等で町内の農業、漁業、商工業に就業する者に対する支援を行い、これまでに12件の実績。

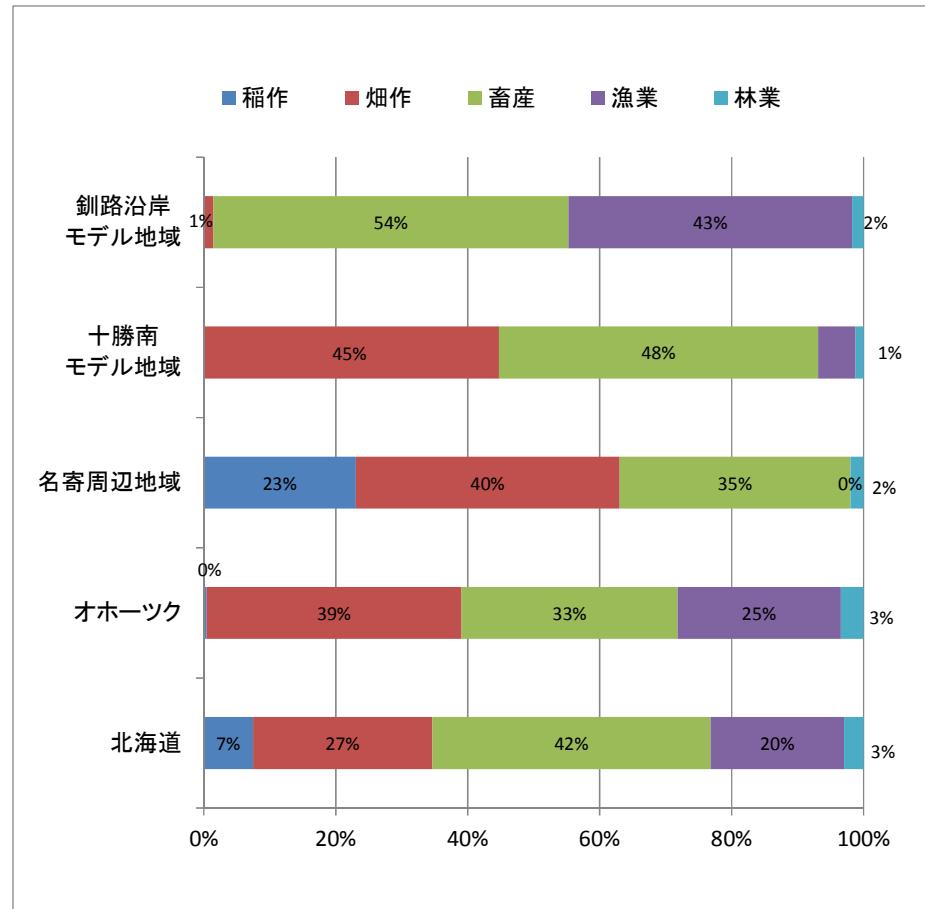
【白糠町】平成29年度から人口減少対策として、移住・定住支援、子ども医療支援、保育・教育支援を開始。

3 所得・雇用の確保(産業①)

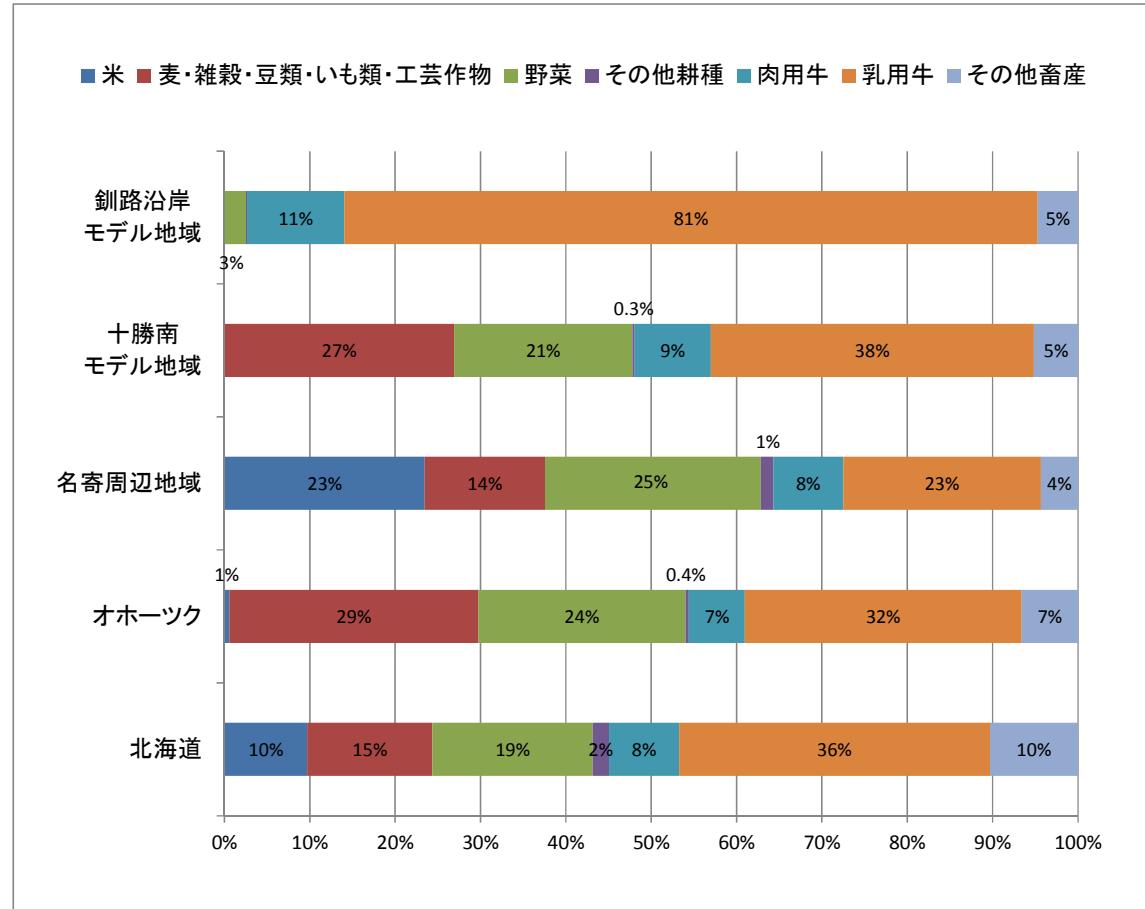
○釧路沿岸モデル地域の第1次産業は、**畜産、漁業を主体**としている。

○農業産出額の構成を見ると、乳用牛(酪農)が主体となっている。

■農業、林業、水産業の産出額の構成



■農業産出額(品目等)の構成



出展:農林水産省「平成27年 市町村別農業産出額(推計)」

北海道「平成27年水産現勢」

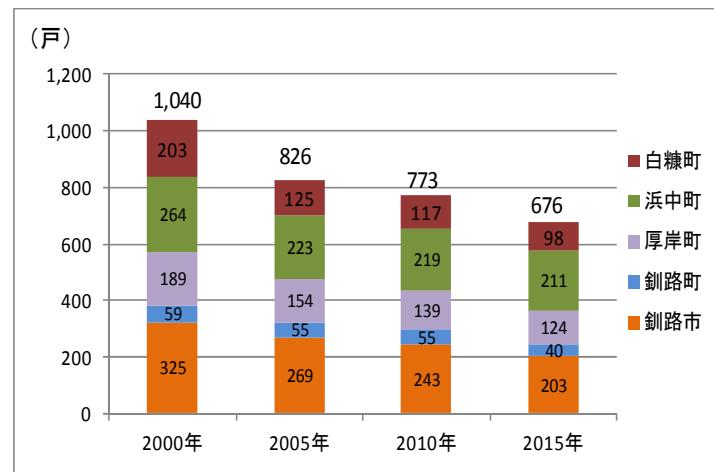
林業は農林水産省「2015年農林業センサス」。北海道総体の林業産出額を市町村別素材生産量で按分し推計。

出展:農林水産省「平成27年 市町村別農業産出額(推計)」

3 所得・雇用の確保(産業②)

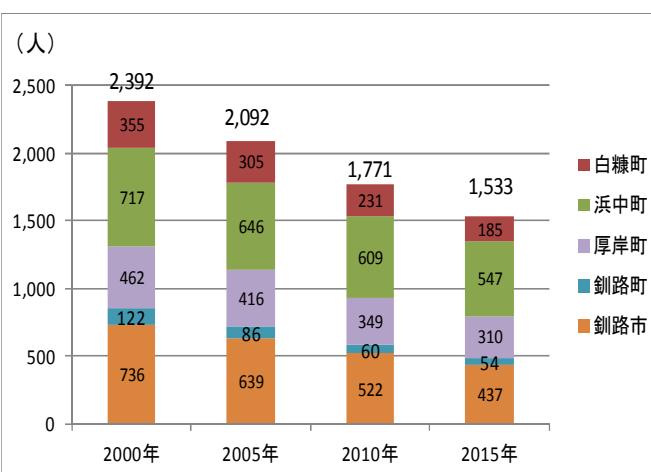
- 釧路沿岸モデル地域の農家数は2015年で676戸、ここ15年で35%の減少。
- モデル圏域の農業就業人口は2015年で1,533人、ここ15年で36%の減少。
- 農業就業人口の高齢化が進行しており、2015年は65歳以上が27%、50歳以上が65%。
- 農業生産額は乳用牛、肉用牛ともに増加傾向。(ただし、乳価及び肉用子牛価格の一時的な上昇に起因)
- 2015年の耕地面積は40,294haで、ここ15年で4%の減少。

■総農家数の推移

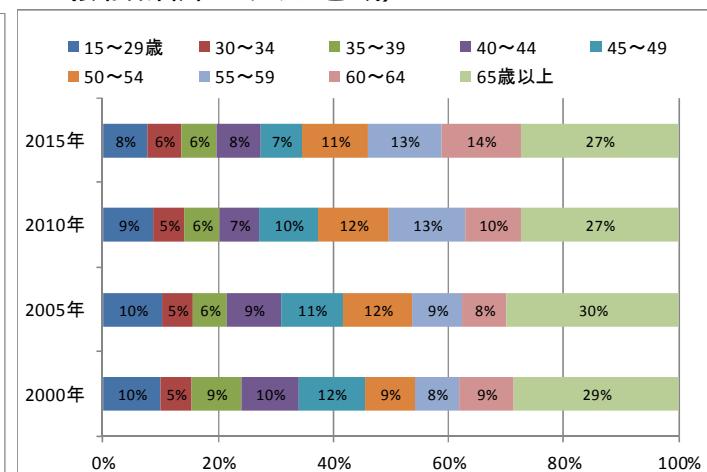


出展:農林水産省「農林業センサス」

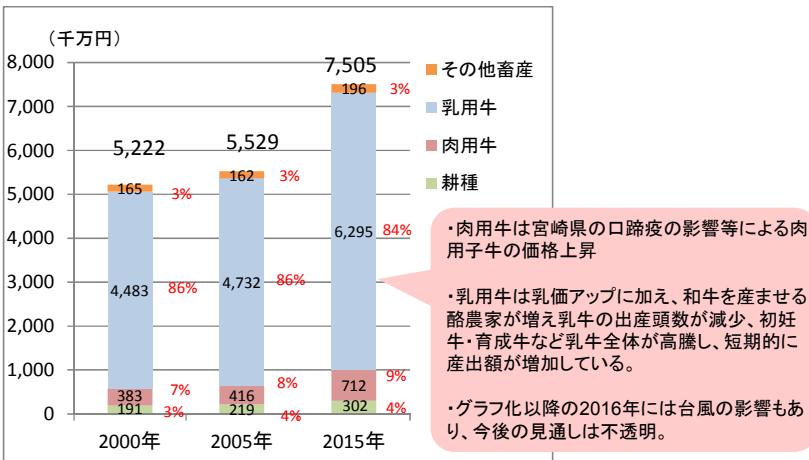
■農業就業人口の推移



■年齢階層別農業就業人口の構成 (釧路沿岸モデル地域)

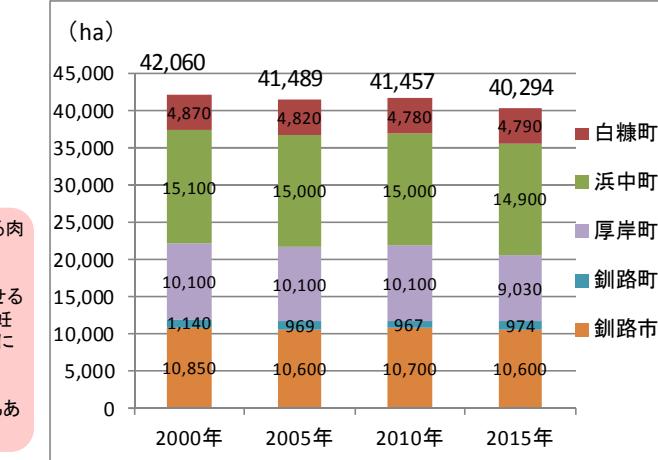


■農業生産額の推移 (釧路沿岸モデル地域)



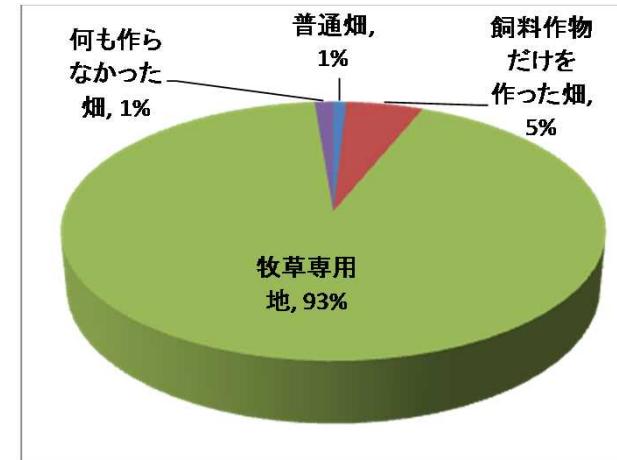
出展:農林水産省「生産農業所得統計」

■総耕地面積の推移 (釧路沿岸モデル地域)



出展:農林水産省「耕地面積統計」

■経営耕地の状況 (釧路沿岸モデル地域)

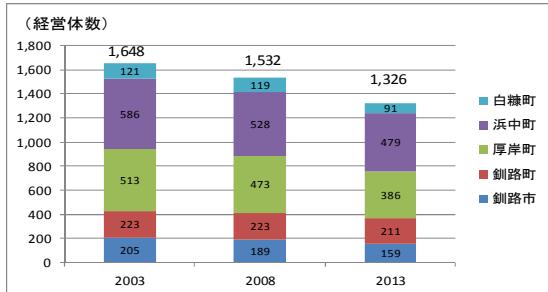


出展:農林水産省「2015年農林業センサス」

3 所得・雇用の確保(産業③)

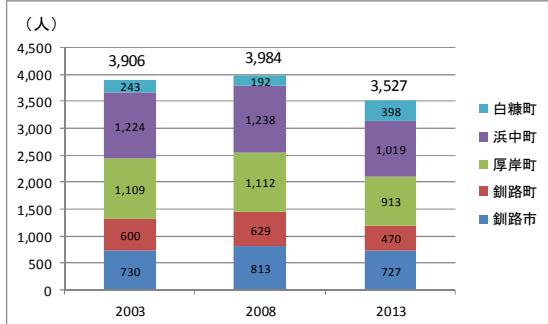
- 釧路沿岸モデル地域の漁業経営体数は2013年で1,326経営体、ここ10年で20%の減少。
- モデル圏域の漁業就業人口は2013年で3,527人、ここ10年で10%の減少。
- 漁業就業人口の高齢化が進行しており、2015年は65歳以上が31%、50歳以上が68%
- 漁業生産は数量・金額ともに減少傾向。**

■漁業経営体数の推移



出展:総務省「漁業センサス」

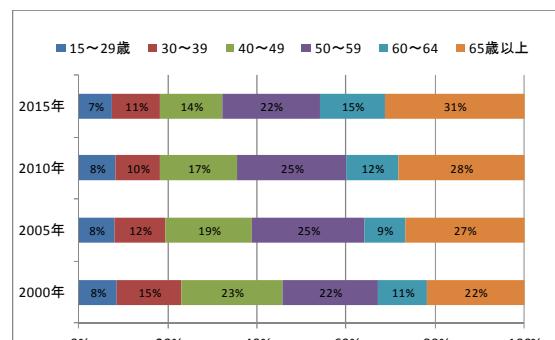
■漁業就業人口の推移



出展:総務省「漁業センサス」

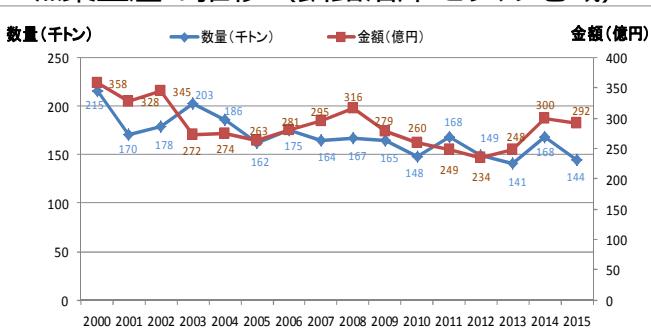
白糠町は未公表のため、「2000年国勢調査」の漁業就業者数とした。

■漁業就業者の年齢構成 (釧路沿岸モデル地域)



出展:総務省「国勢調査」

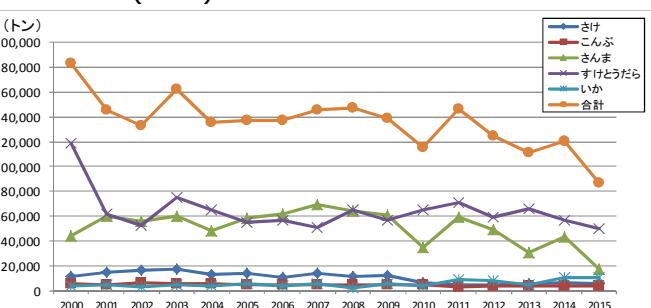
■漁業生産の推移 (釧路沿岸モデル地域)



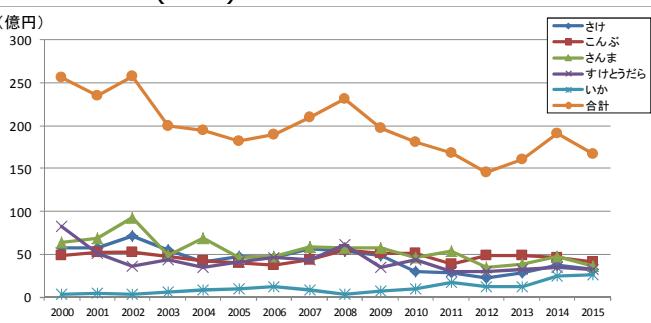
出展:北海道「北海道水産現勢」

■主要魚種の生産推移 (釧路沿岸モデル地域)

【漁獲量(トン)】



【漁獲金額(億円)】

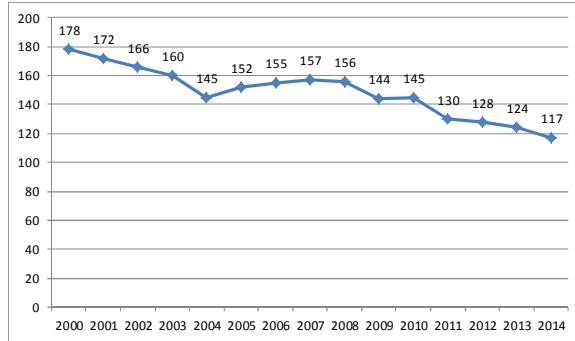


出展:北海道「水産現勢」

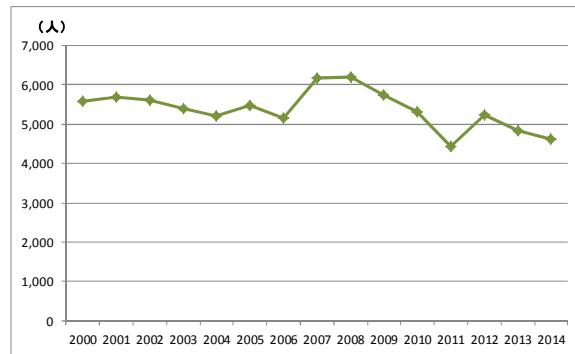
3 所得・雇用の確保(産業④)

- 釧路沿岸モデル地域の食料品製造業事業者数は2014年で117であり、ここ10年で19%の減少。従業者数は2014年で4,633人であり、ここ10年で11%の減少。食料品製造業出荷額は2014年1,443億円であり、ここ10年で7%の増加。
- 1事業所あたりの従業員数は全道平均や全国平均をやや下回るもの、出荷額は大きい。
- 我が国の1世帯当たりの生鮮魚介類に対する年間購入量は減少を続けており、2015年では年間28.0kgと2006年と比較して約3割も減少している。

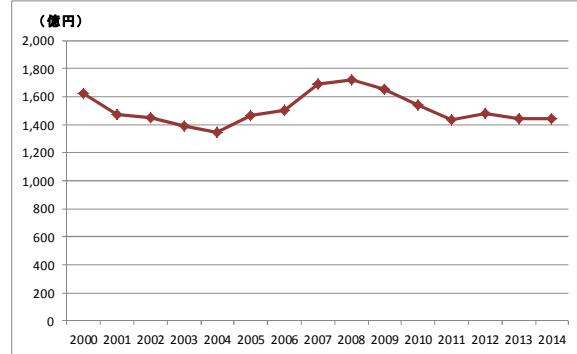
■食料品製造業事業者数の推移
(釧路沿岸モデル地域)



■食料品製造業従業者数の推移
(釧路沿岸モデル地域)

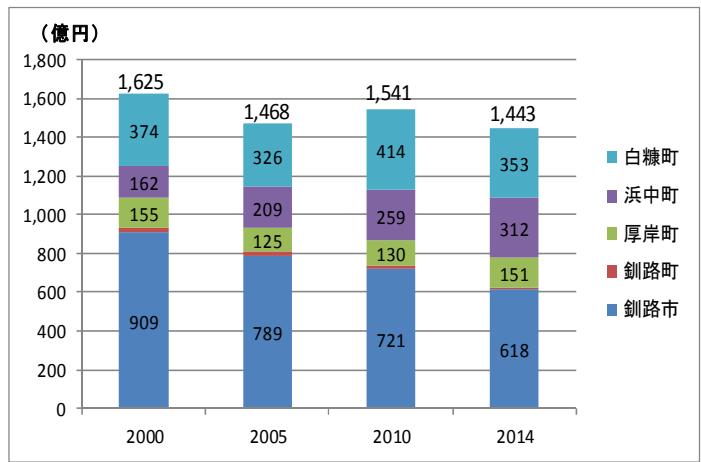


■食料品製造業出荷額の推移
(釧路沿岸モデル地域)



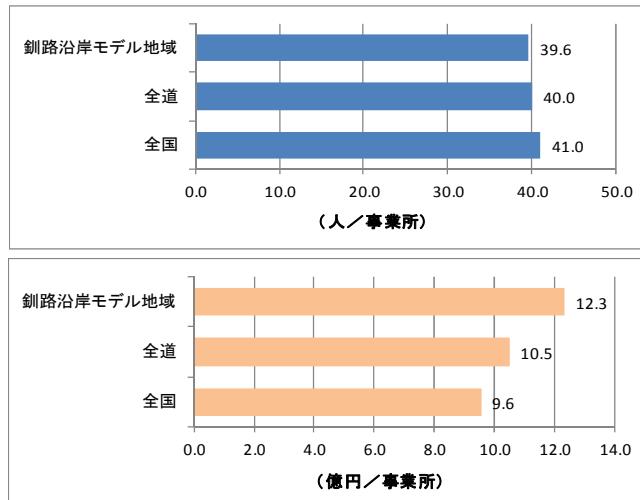
出典: 経済産業省「工業統計調査」

■食料品製造業出荷額の推移
(釧路沿岸モデル地域)



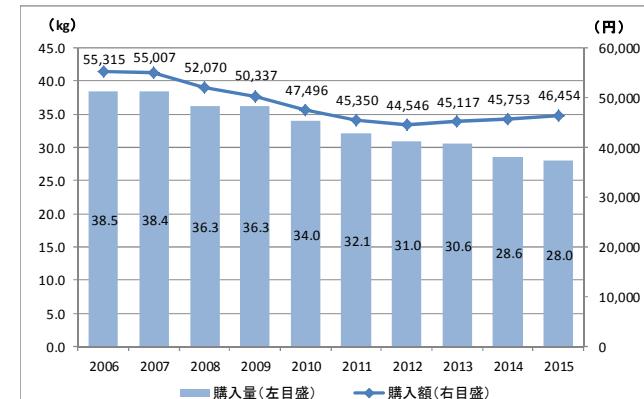
出典: 経済産業省「工業統計調査」

■1事業所あたりの従業員数 (上)
及び出荷額 (下)



出典: 経済産業省「工業統計調査・平成28年度」

■生鮮魚介類の1世帯当たり
年間支出額・購入量の推移

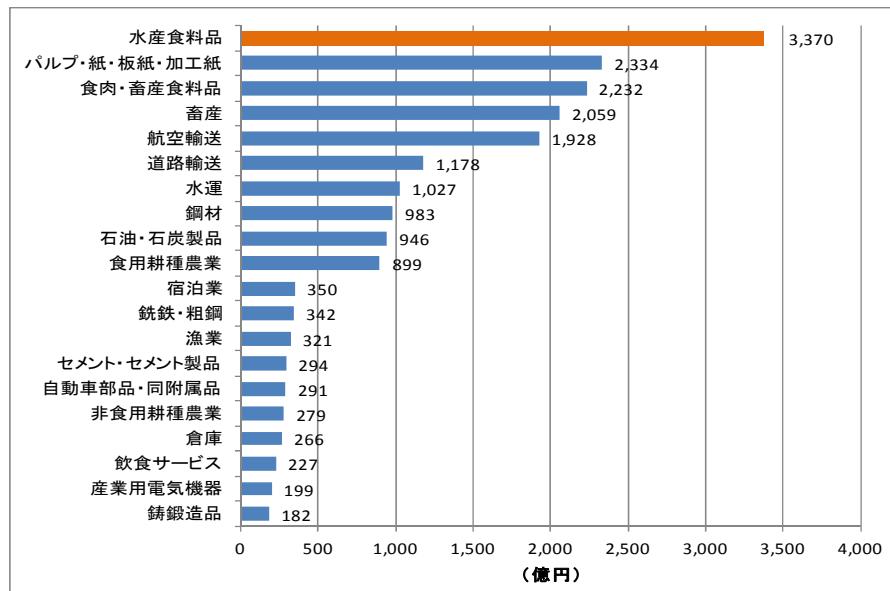


出典: 総務省「家計調査」

3 所得・雇用の確保(産業⑤)

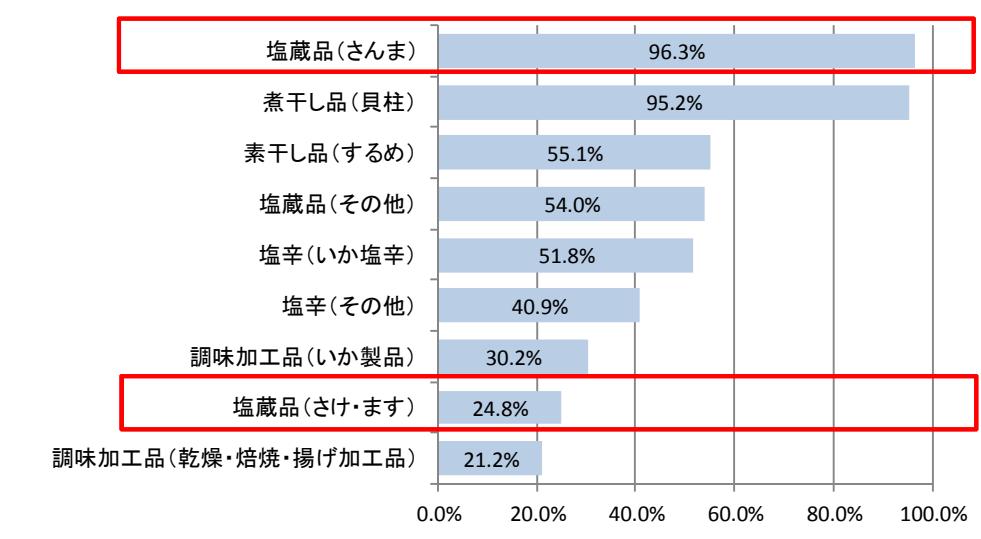
- 北海道の分野別の域際収支※をみると「水産食料品」は3,370億円の黒字となっており、104部門の中で最も「稼ぐ力」が強い産業となっている。
- 水産加工品の北海道のシェアが高い分野のうち、釧路沿岸モデル地域の漁獲量シェアが高い品目には塩蔵品(さんま)や塩蔵品(さけ・ます)などがある。

■ 北海道の産業別の域際収支（上位20部門）



出典: 北海道開発局「北海道産業連関表(平成23年)」

■ 北海道の水産加工品の対全国シェア（シェア20%以上の品目）



出典: 農林水産省「水産加工統計調査(平成28年)」

■ 釧路沿岸モデル地域における水産加工場数

| | 北海道 | 釧路市 | 釧路町 | 浜中町 | 厚岸町 | 白糠町 | 釧路沿岸モデル地域 | 北海道に占める割合 |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|
| 冷凍・冷蔵工場数 | 569 | 23 | — | 2 | 8 | 9 | 42 | 7% |
| 水産加工場数(実数) | 994 | 45 | 3 | 5 | 15 | 12 | 80 | 8% |
| 常んだ加工種類別延べ工場数 | | | | | | | | |
| 冷凍水産物 | 419 | 18 | — | 3 | 9 | 6 | 36 | 9% |
| ねり製品 | 63 | 4 | — | — | 1 | — | 5 | 8% |
| 冷凍食品 | 182 | 7 | — | 1 | 3 | 2 | 13 | 7% |
| 素干し品 | 125 | 1 | — | — | — | 1 | 2 | 2% |
| 塩干し品 | 239 | 10 | 2 | — | 5 | 3 | 20 | 8% |
| 煮干し品 | 48 | — | — | — | — | — | 0 | 0% |
| 塩蔵品 | 351 | 17 | 2 | — | 4 | 6 | 29 | 8% |
| くん製品 | 80 | 4 | — | — | 1 | 1 | 6 | 8% |
| 節製品 | 8 | — | — | — | — | — | 0 | 0% |

出典: 農林水産省「漁業センサス(2013年)」

■ 釧路沿岸モデル地域の漁獲量シェア（対全道）



出典: 北海道「北海道水産現勢(平成27年)」

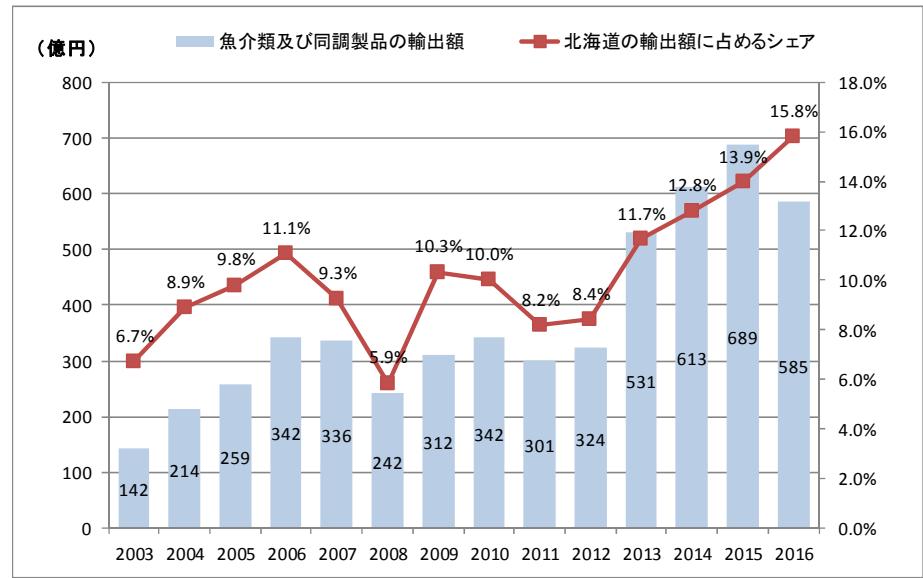
※域際収支

域際収支とは、地域外へモノやサービスを売った金額(移輸出額)から、地域外からモノやサービスを買った金額(移輸入額)を差し引いたもの。

3 所得・雇用の確保(産業⑥)

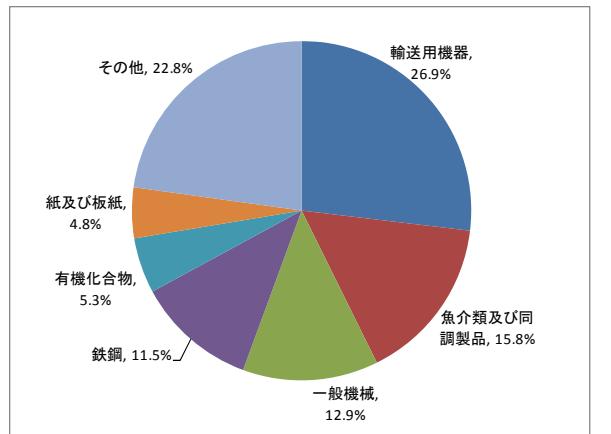
- 道内の水産品輸出額及びシェアは近年増加傾向にある。輸出額(2016年道内通関分)に占める水産品のシェアは15.8%に及び、輸送用機器(自動車部品が主)に次ぐ重要な輸出品目となっている。
- 函館税関釧路税関支所からの食料品輸出額は年間約34億円で、そのうち約30億円が魚介類で占めている。

■北海道の水産品の輸出額の推移（道内通関分のみ）



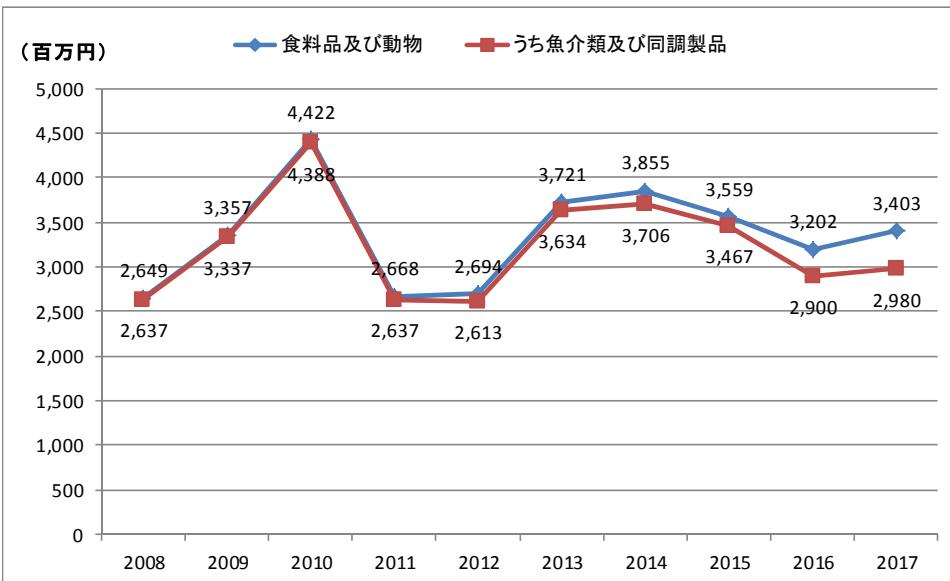
出典:財務省函館税関「北海道貿易概況」

■品目別輸出額シェア（道内通関分のみ、2016年）



出典:財務省函館税関「北海道貿易概況」

■函館税関釧路税関支所における食料品類輸出額の推移



出典:税務商「貿易統計」

3 所得・雇用の確保(地域経済)

RESASによる各市町の地域経済循環について (地域経済分析システム (RESAS : リーサス) 経済産業省と内閣官房 (まち・ひと・しごと創生本部事務局) 提供

- 生産(付加価値額)GDP : 地域の稼ぎを分配する前の「もうけ」の総額。
 - 分配(所得) : 地域内の企業が経済活動を通じて生産した「付加価値額」が、所得として地域の住民 (及び企業など) にどの程度分配されているかを示す。
 - 支出 : 地域の住民の方々が得た所得が、消費や投資等を通じて地域の中で巡っているかどうかを示す。
 - 地域循環率 : 「生産 (付加価値額) ÷ 分配 (所得)」より算出域内で生み出された所得がどの程度域内に環流しているかを示す。
- (参考) 北海道全体 85.6%

釧路市

地域経済循環率
82.1%

地域経済循環図
2013年
指定地域: 北海道釧路市



釧路町

地域経済循環率
80.4%

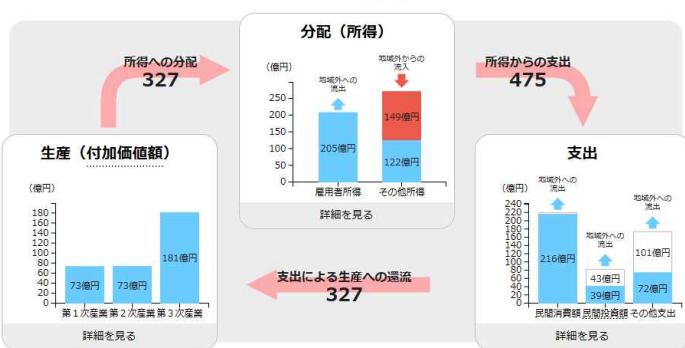
地域経済循環図
2013年
指定地域: 北海道釧路町



厚岸町

地域経済循環率
68.9%

地域経済循環図
2013年
指定地域: 北海道厚岸町



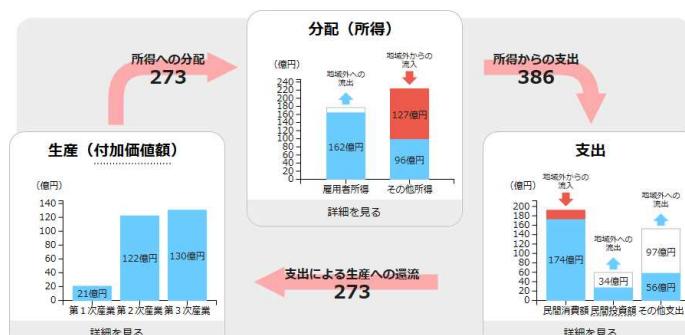
浜中町

地域経済循環率
81.4%

白糠町

地域経済循環率
70.8%

地域経済循環図
2013年
指定地域: 北海道白糠町

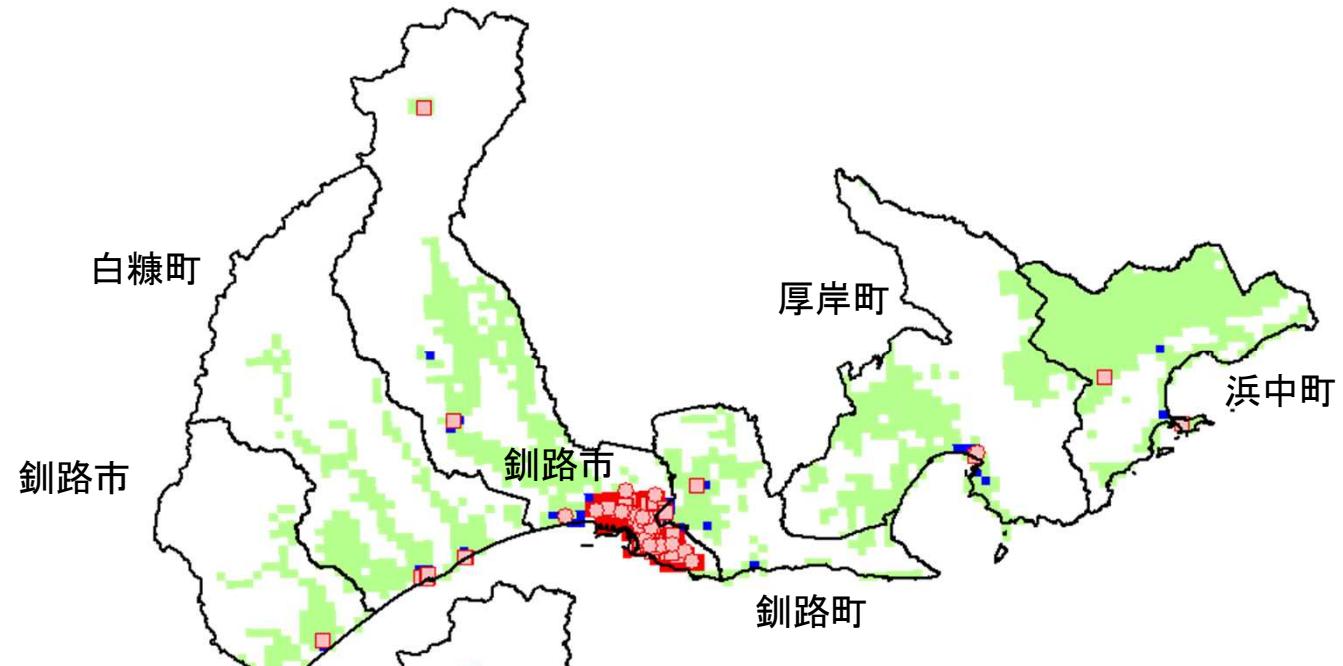


3 生活機能・集落機能の確保(医療、商業、教育施設等①)

○医療施設、商業施設とともに、市街地や圏域中心都市に集中している。

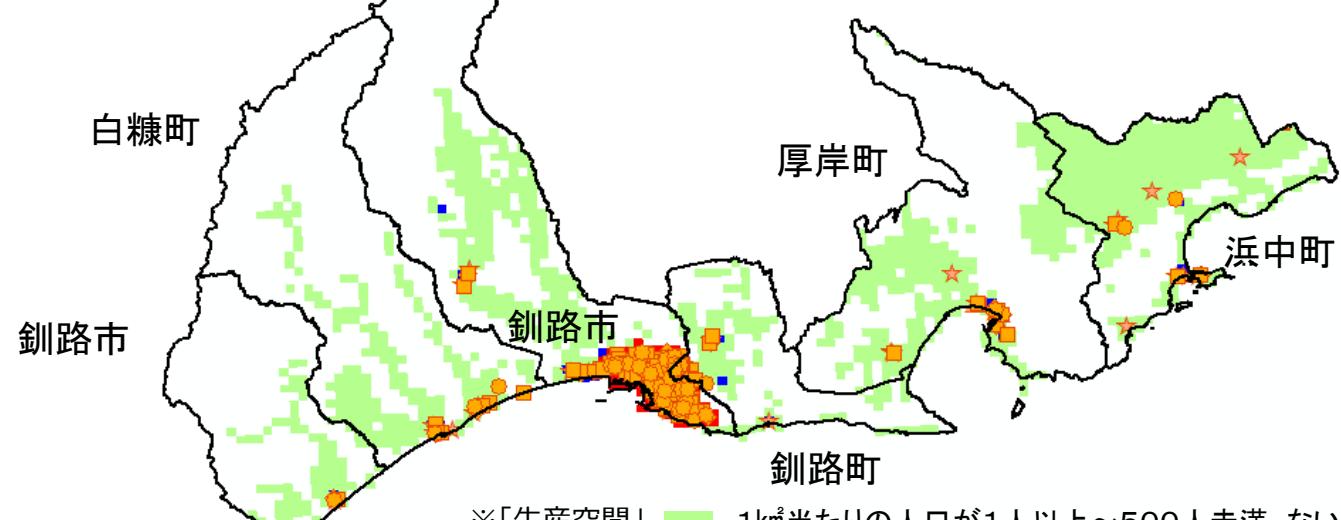
■医療施設の分布

- 生産空間
- 市街地
- 圏域中心都市
- 病院
- 診療所



■商業施設の分布

- 生産空間
- 市街地
- 圏域中心都市
- スーパー
- コンビニ
- 薬局
- ホームセンター
- ガソリンスタンド



資料:北海道開発局調べ(H27時点国土数値情報などを基に作成)

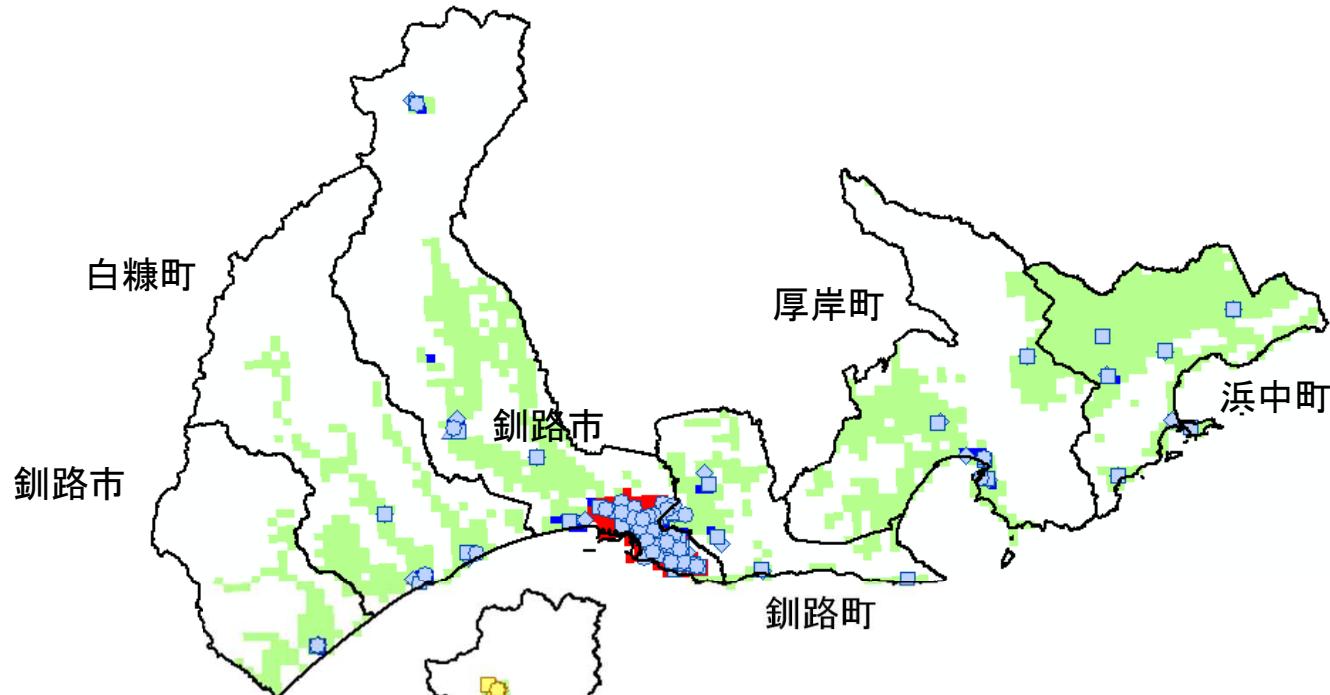
※「生産空間」 1km²当たりの人口が1人以上～500人未満 ないし
1km²当たりに占める田畠の面積が20%以上

3 生活機能・集落機能の確保(医療、商業、教育施設等②)

- 教育施設のうち、小・中学校は市街地や圏域中心都市以外の地域にも比較的多い。
- 公共・公益施設のうち、集会施設や郵便局は生産空間に広く分布している。

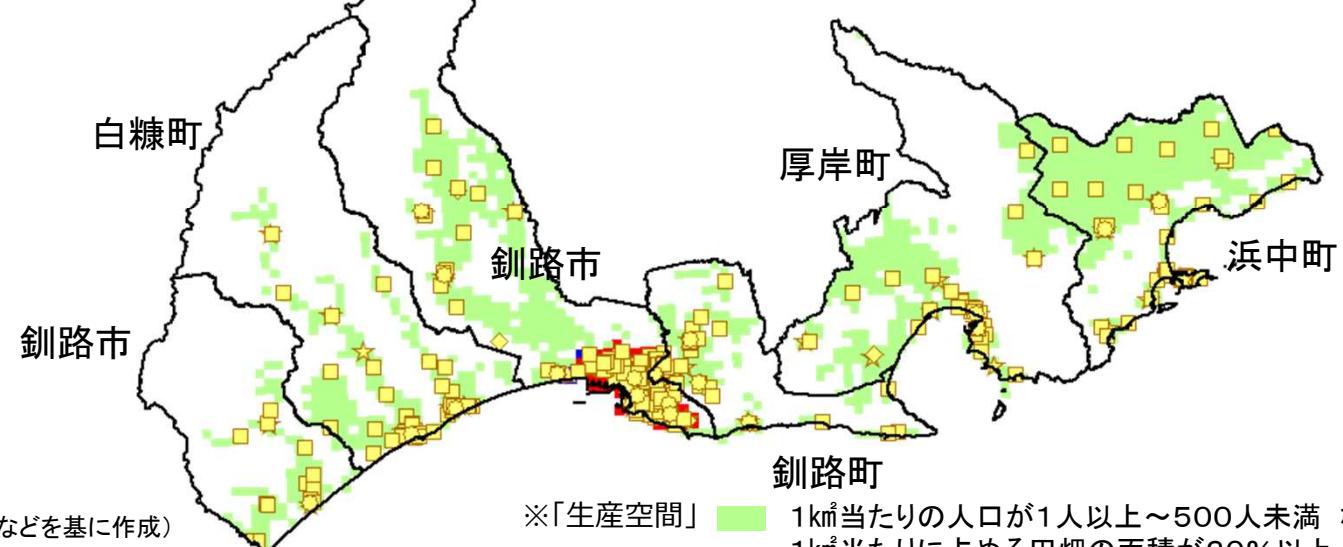
■教育施設の分布

- 生産空間
- 市街地
- 圏域中心都市
- 幼稚園
- 小学校
- ◆ 中学校
- △ 高校



■公共・公益施設の分布

- 生産空間
- 市街地
- 圏域中心都市
- 市町村役場
- 集会施設
- ◆ 警察
- ▲ 消防
- ★ 郵便局



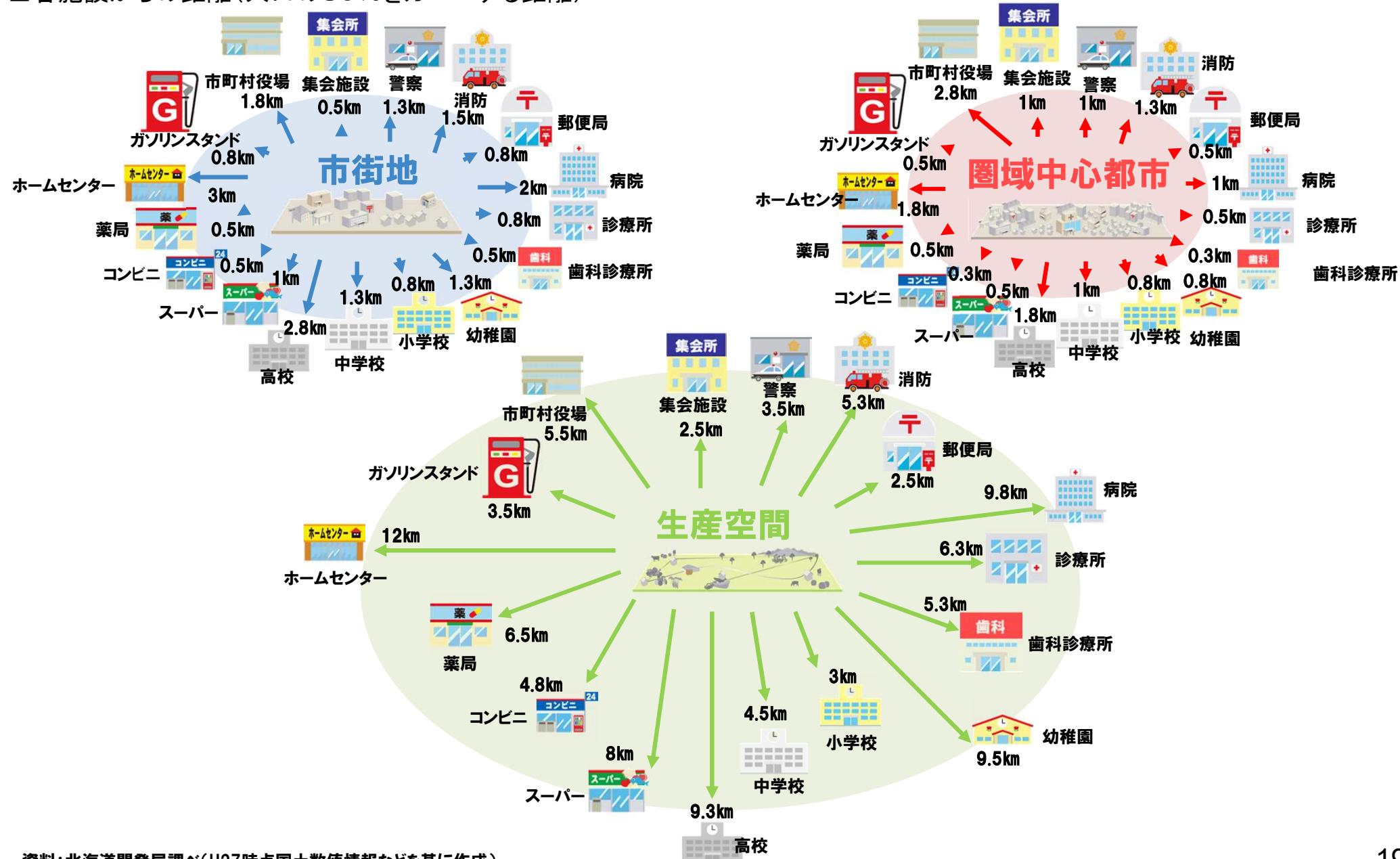
資料:北海道開発局調べ(H27時点国土数値情報などを基に作成)

※「生産空間」 ■ 1km²当たりの人口が1人以上～500人未満 ないし
1km²当たりに占める田畠の面積が20%以上

3 生活機能・集落機能の確保(生活施設へのアクセス距離)

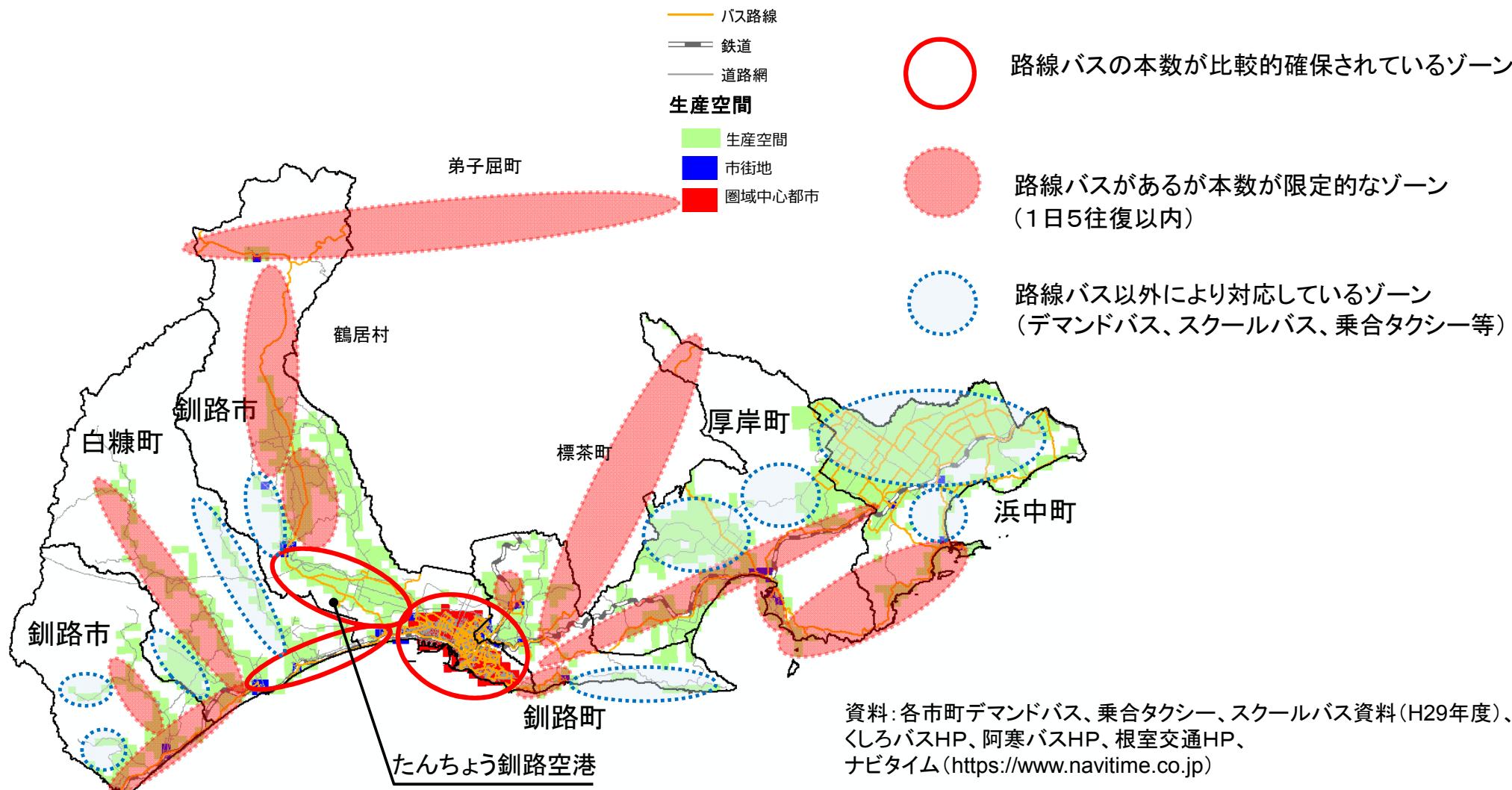
○生活施設の立地状況を見ると、市街地や圏域中心都市以外の地域では、小学校や郵便局などを除き遠く位置し、アクセスが課題となっている。

■各施設からの距離(人口の80%をカバーする距離)



3 生活機能・集落機能の確保(バス、乗合タクシー)

- 釧路市中心部及び、釧路～阿寒本町地区、釧路町曙地区、白糠町中心部など、人口が多く釧路市への通学・通勤圏と考えられる地区との間で路線バスの本数が確保されている。
- また国道38号・44号沿線では限定的ではあるものの路線が確保されているが、山間部においてはスクールバスや乗合タクシーにより対応している状況である。

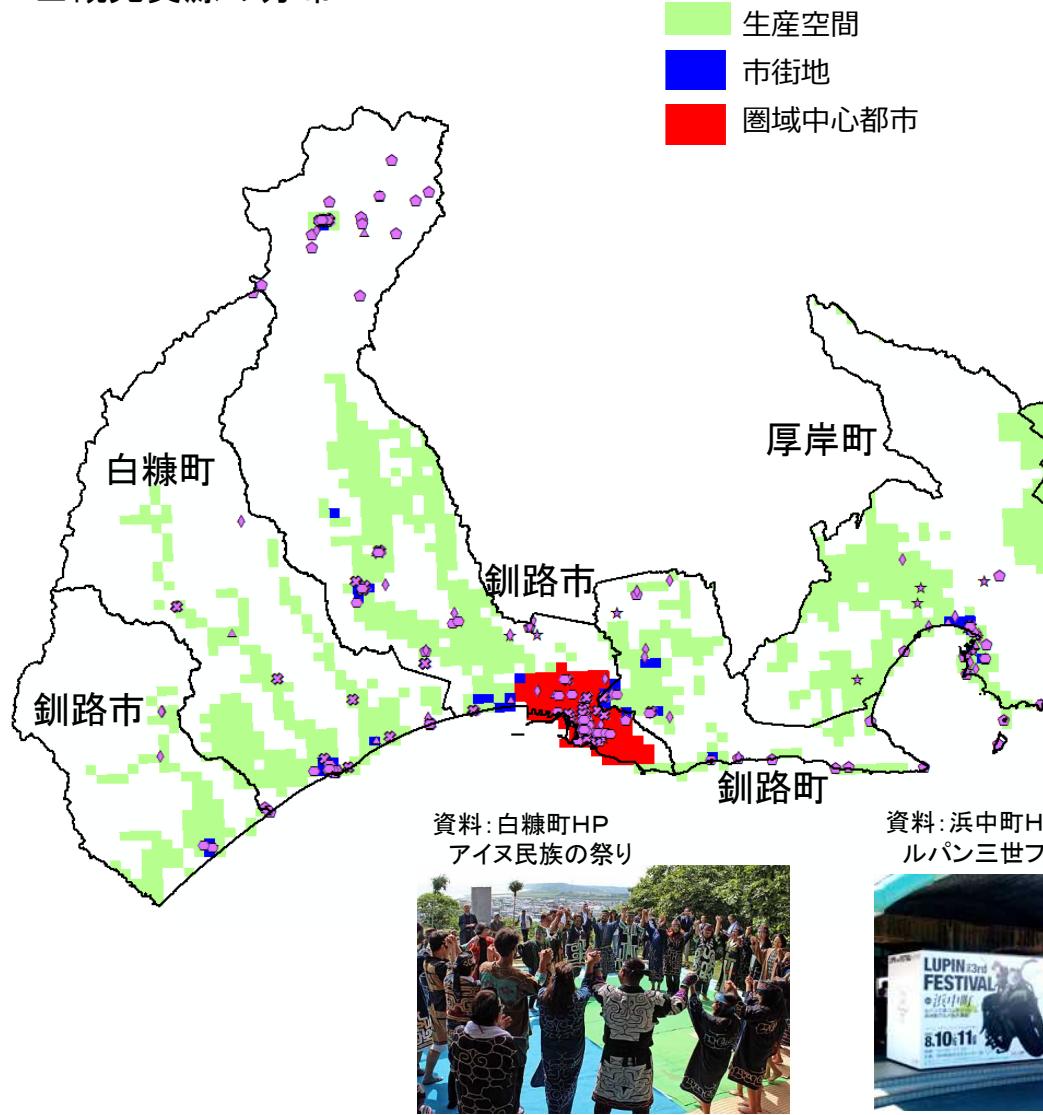


※「生産空間」 1km²当たりの人口が1人以上～500人未満 ないし
1km²当たりに占める田畠の面積が20%以上

3 地域の魅力向上(地域資源、観光資源の分布)

- 市街地や圏域中心都市にはイベント、宿泊施設が多く、それ以外の地域には自然、体験施設が多い。
 - イベントは夏や秋に多く、海産物を中心とした食イベントのほか、アイヌの伝統的な祭りやアニメフェスティバルなどの特色あるイベントが開催されている。

■観光資源の分布



※「牛産空間」

1km²当たりの人口が1人以上～500人未満ないし 1km²当たりに占める田畠の面積が20%以上

■主な地域イベント

| | | | |
|---|-----|-----|--------------------------------|
| 春 | 3月 | 白糠町 | 白糠町ロードレース大会 |
| 春 | 5月 | 釧路町 | 桜まつり |
| 春 | 5月 | 厚岸町 | あっけし桜・牡蠣まつり |
| 春 | 5月 | 浜中町 | はまなか桜まつり |
| 春 | 5月 | 釧路市 | くしろチューリップ&花フェア |
| 夏 | 6月 | 釧路市 | 北のビーナス路まつり |
| 夏 | 6月 | 白糠町 | 港in白糠大漁まつり |
| 夏 | 7月 | 釧路市 | くしろ霧フェスティバル |
| 夏 | 7月 | 浜中町 | 浜中うまいもん市 |
| 夏 | 8月 | 釧路市 | くしろ港まつり |
| 夏 | 8月 | 釧路市 | くしろ市民北海盆踊り |
| 夏 | 8月 | 白糠町 | ふるさとまつり(祖先供養祭) |
| 夏 | 8月 | 釧路町 | 別保パークフェス |
| 秋 | 9月 | 釧路市 | 釧路大漁どんばく |
| 秋 | 9月 | 釧路町 | 釧路町キッズフェスタ |
| 秋 | 9月 | 釧路市 | 釧路Oh!さかなまつり |
| 秋 | 9月 | 白糠町 | カミング・パラダイス |
| 秋 | 9月 | 浜中町 | きりたっぷ岬まつり |
| 秋 | 9月 | 浜中町 | ルパン三世フェスティバルIN浜中町 |
| 秋 | 9月 | 釧路市 | まりも祭り |
| 秋 | 10月 | 厚岸町 | あっけし牡蠣まつり |
| 秋 | 10月 | 釧路町 | 昆布森みなとまつり |
| 冬 | 1月 | 釧路町 | 長ぐつアイスホッケー |
| 冬 | 1月 | 釧路市 | くしろ冬まつり |
| 冬 | 2月 | 釧路市 | 阿寒湖氷上フェスティバル ICE・愛す・阿寒『冬華美』 |
| 冬 | 2月 | 厚岸町 | カキDEござ~る |

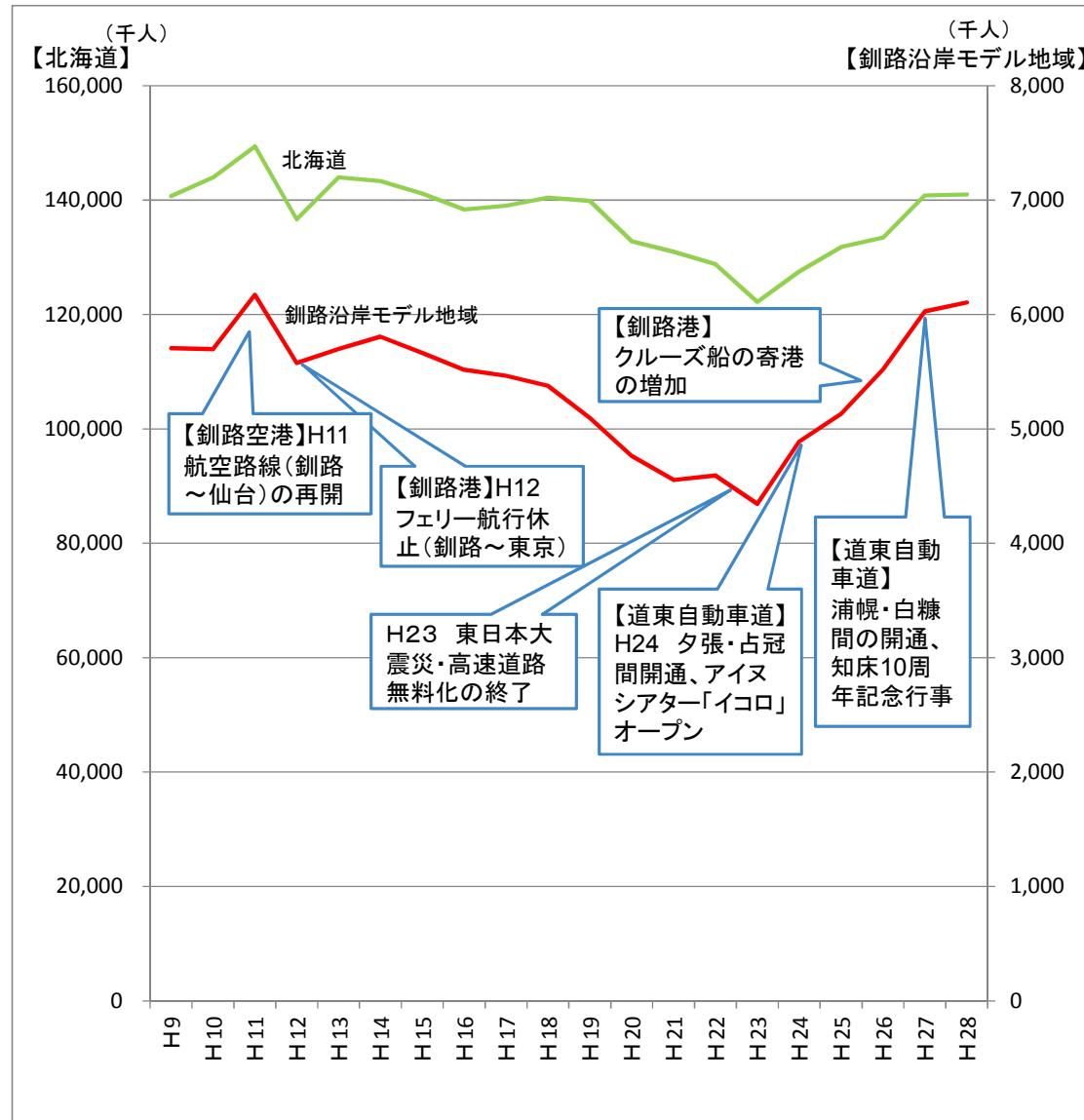
データ:

各市町村観光協会・市町村のホームページに記載のあるもの
資料:北海道開発局調べ

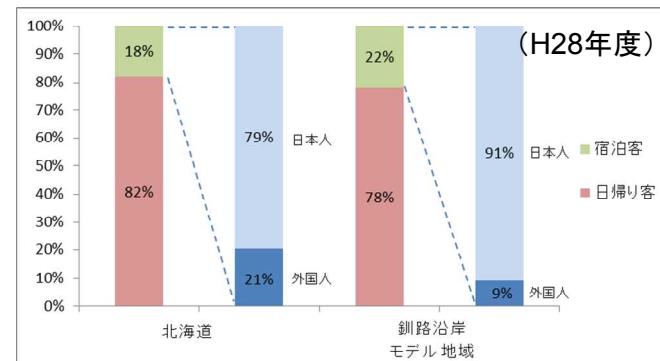
3 地域の魅力向上(観光入込客数)

- 釧路沿岸モデル地域では、平成23年以降増加傾向にあり、年間600万人となっている。
- モデル地域全体の宿泊客の割合は22%と、北海道全体と同程度であるが、宿泊客は釧路市に集中している。
- モデル地域全体の道外客の割合は35%と、北海道全体と同程度であるが、市町村間で差がある。

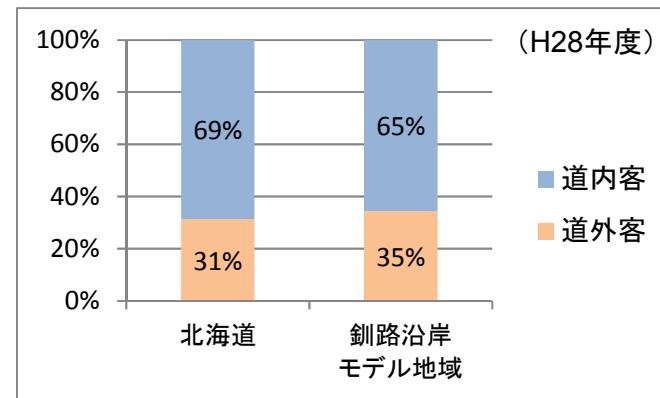
■観光入込の推移



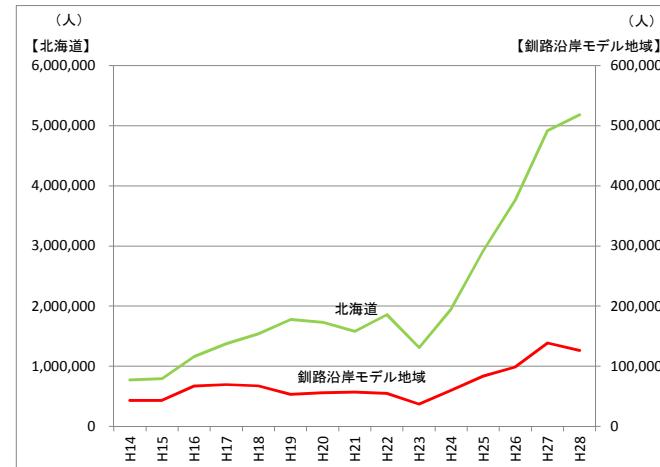
■日帰り・宿泊の割合



■道外客・道内容客の割合



■外国人宿泊客数の推移



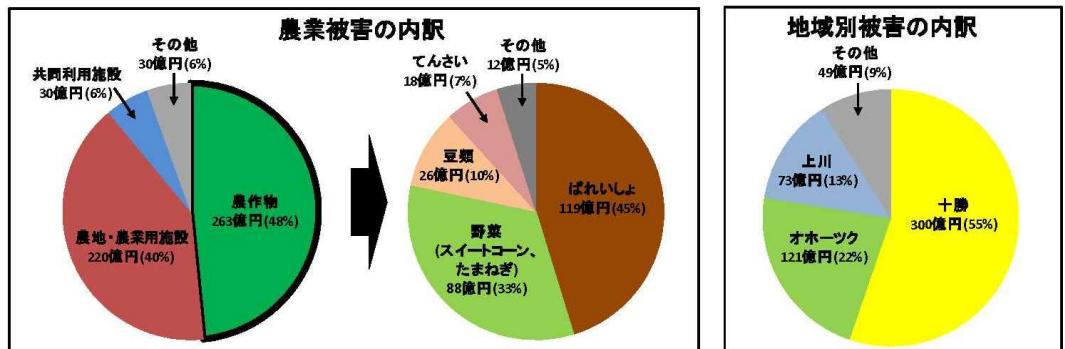
3 安全・安心な社会基盤の形成(近年の気象と出水状況)

- 時間雨量30mmを超える短時間強雨の発生件数が約30年前の約1.9倍に増加するなど、短時間強雨の発生回数が増加している。
- 平成28年 8月北海道で発生した大雨災害では、多数の道路や橋梁のほか、鉄道の被災等により交通網が途絶するとともに、広範囲に及ぶ農地被害や食品加工場の被災により日本の食料供給に影響を与えるなど、大規模かつ広域的な被害が発生した。
- 平成28年8月北海道大雨激甚災害では、釧路湿原に雨による洪水を貯留し、釧路市街地の水位上昇を抑える効果が見られた。

道内アメダス100地点当たり30mm以上の降雨発生回数



平成28年北海道大雨激甚災害(農業の被害状況)



農業被額は543億円に及び農作物や食品加工場等の被災により、供給が滞った結果、ばれいしょ(全国シェア:85%)や秋にんじん(全国シェア:92%)が全国の主要市場で品薄となり、野菜価格の高騰を招き、その影響は全国に及んだ。

平成28年8月北海道大雨激甚災害を踏まえた水防災対策検討委員会資料より

平成28年 台風による被災状況等



釧路湿原の治水効果 ～平成28年8月洪水の貯留～

釧路湿原は、一週間降り続いた雨による洪水を貯留し、貯留した水は1ヶ月近く掛けて緩やかに下流へ流れ、下流の釧路市街地の水位上昇を抑える効果が見られた。



平成27年7月8日



平成28年8月24日

■専門家コメント

・釧路湿原は天然の防災インフラであり貯留能力が非常に高く、自然の生態系である湿原を健全な形で保全することにより、未来に対しても機能を果たしている。

3 安全・安心な社会基盤の形成(津波防災地域づくりに関する法律)

- 東日本大震災では、巨大な地震・津波が発生、内陸の奥域まで浸水域が拡大し、甚大な被害が発生。
- 将来起こりうる最大クラスの津波災害の防止・軽減のため、平成23年12月「津波防災地域づくりに関する法律」が成立、また同年同月、津波防災地域づくり法に基づく津波防災地域づくりを総合的に推進するための基本的な方向を示すため基本指針が策定されている。
- 平成29年12月、千島海溝沿いでは、今後30年以内に7~40%の確立でM9級の地震が発生すると公表された。

1. 津波防災地域づくりの推進に関する基本的な事項

- 東日本大震災の経験や津波対策推進法を踏まえた対応
- ハード・ソフトの施策を総動員させる「多重防御」
- 最大クラスの津波が発生した際も「なんとしても人命を守る」
- 津波に対する住民等の意識を常に高く保つよう努力

津波防災地域づくりにおける津波防護施設のイメージ



平成23年 東日本大震災発生時(釧路市)



釧路川沿川が津波で冠水



市内は避難車両で大渋滞

昭和樋門



東日本大震災時に 釧路
川の昭和樋門において遠
隔操作を行ったことにより、
堤内地への急激な水位上
昇を未然に防止



【津波到達前(遠隔
操作による閉扉)】



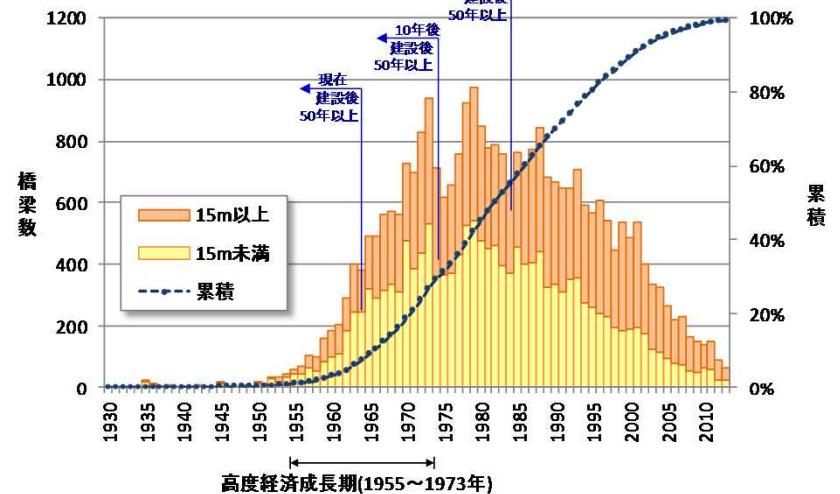
樋門閉鎖後、河川遡上津波に
による急激な水位上昇

3 安全・安心な社会基盤の形成(インフラの老朽化:橋梁の例)

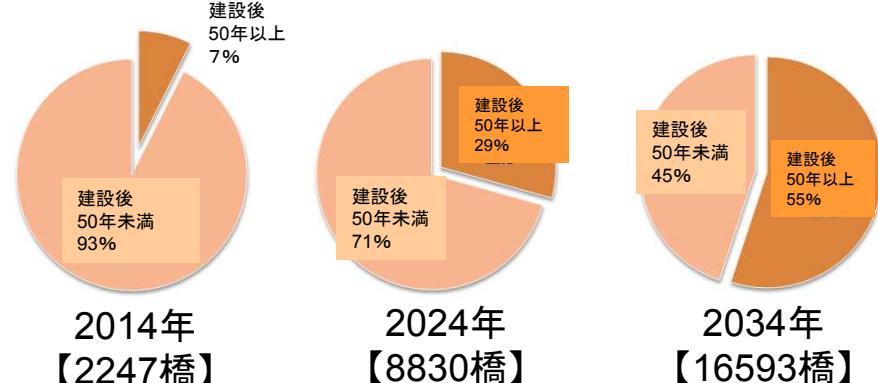
- 道路橋は高度経済成長期を中心に多く建設されており、今後これらの橋梁の高齢化が一気に進み、建設後50年以上を経過した橋梁箇所数の割合は大幅に増加する見込み。
- 各管理者で定めている長寿命化修繕計画を基に、定期点検による状態の把握、予防的な修繕及び計画的な架け替えが必要。
- 市町村においては、予算、職員が減る中、どのようにインフラを維持していくのかが課題。

■北海道の橋梁老朽化の現状(国・地方公共団体管理)

架設年次別の橋梁箇所数分布



経過年数別橋梁数(橋長2m以上)

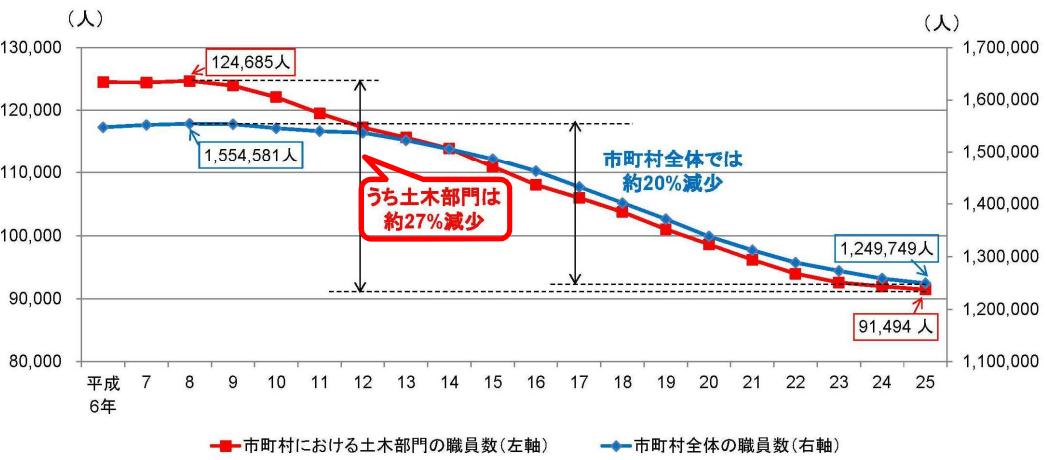


■全国市町村における土木費の推移



資料：地方財政統計年報を基に作成

■全国市町村における職員数の推移



資料：地方公共団体定員管理調査結果を基に作成

所得・雇用の確保

- ・人口減少・高齢化が著しく生産空間の無人化が進行
- ・札幌市・道外への流出が多い
- ・生産年齢人口の社会減抑制
- ・農業・漁業就業人口の減少、高齢化が進行する中での、生産力維持・高付加価値化
- ・生産性向上

地域の魅力向上

- ・道外からの観光客や宿泊客の誘致
- ・地域一体となり連携した資源活用・魅力づくり
- ・生産空間に分布している自然、体験施設の活用
- ・子育て世代に対応した環境づくり

生活機能・集落機能の確保

- ・生産空間から圏域中心都市へのアクセスを含め、沿岸地域間、道内と圏域を結ぶ人と物流のアクセス向上
- ・公共交通機関の維持、地域住民のニーズに合わせた利便性確保・向上
- ・高齢者や要介護者に対応した環境づくり

安全・安心な社会基盤の形成

- ・気候変動により自然災害が頻発、激甚化
- ・東日本大震災では、巨大な地震・津波が発生、内陸の奥域まで浸水域が拡大
- ・巨大地震が発生する地震活動の長期評価が公表
- ・インフラ老朽化

4 釧路沿岸モデル地域の生産空間を支える取組イメージ

現状と課題

所得・雇用の確保

- ・人口減少・高齢化が著しく生産空間の無人化が進行
- ・札幌市・道外への流出が多い
- ・生産年齢人口の社会減抑制
- ・農業・漁業就業人口の減少、高齢化が進行する中での、生産力維持・高付加価値化
- ・生産性向上

生活機能・集落機能の確保

- ・医療、商業、教育施設等の維持、生産空間から圏域中心都市へのアクセスの確保・向上
- ・公共交通機関の維持、地域住民のニーズに合わせた利便性確保・向上
- ・高齢者や要介護者に対応した環境づくり

地域の魅力向上

- ・道外からの観光客や宿泊客の誘致
- ・地域一体となり連携した資源活用・魅力づくり
- ・生産空間に分布している自然、体験施設の活用
- ・子育て世代に対応した環境づくり

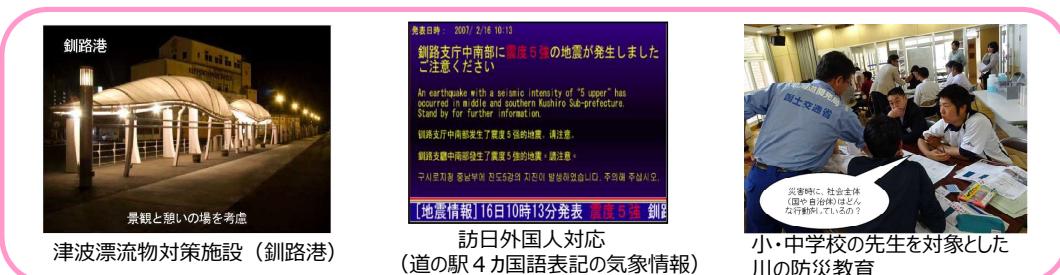
安全・安心な社会基盤の形成

- ・気候変動により自然災害が頻発、激甚化
- ・東日本大震災では、巨大な地震・津波が発生、内陸の奥域まで浸水域が拡大
- ・巨大地震が発生する地震活動の長期評価が公表
- ・インフラ老朽化

施策例

- 肥培かんがい施設、釧路港などの基盤整備
- ICTやロボット技術を活用したスマート農業
- 1次産業の高付加価値化などによる認知度・ブランド力向上
- 特产品的開発、企業進出など所得向上、雇用創出につながる取組

具体的な取組イメージ



所得・雇用の確保

- ・肥培かんがい施設、農業用排水施設の整備
- ・地域内外の認知度・高付加価値化・ブランド力向上の取組
- ・地域が一体となり、地域の魅力を発信し、食の取組を推進（くしろシーサイドグルメキャンペーン）
- ・担い手確保（酪農支援、新規就農、継承支援）
- ・スマート農業（ICT導入の効果検証）
- ・ICT農業による営農
- ・釧路港の整備などによる生乳の移出
- ・輸出力強化、品質確保の取組
- ・漁港の衛生管理対策の推進（厚岸漁港の屋根付き岸壁）
- ・育てる漁業による計画的・安定的な漁業の推進
- ・森林の維持・育成による水産資源の維持

- ・コンパクトなまちづくりの推進（福祉・医療・文化施設拠点化）
- ・立地適正化計画、地域公共交通網形成計画
- ・地域内交通の結節点としての道の駅の活用
- ・道の駅間物流ネットワーク構築（おいしい道の駅）
- ・道の駅情報拠点化
- ・公共交通への利用転換促進
- ・貨客混載
- ・市街地間のアクセス改善（バス交通の利便性、利用率向上、除排雪等）
- ・乗り合いタクシーやデマンドバスなど地域内交通の確保
- ・ICTを活用した地域医療システムの推進
- ・ドクターヘリランデブーポイントの確保（アクセス時間短縮）
- ・新エネルギー、バイオマス関連施策
- ・河川、道路管理用光ファイバの民間利用者等への開放
- ・道路ネットワークの強化（北海道横断自動車道 本別～釧路）

生活機能・集落機能の確保

※太字着色は具体的な取組イメージ例を紹介しているもの

地域の魅力向上

- ・釧路湿原自然再生の取組
- ・カヌーツーリズム
- ・クルーズ船寄港時のおもてなし
- ・北海道マリンビジョン関係の水産物直売、PR
- ・北海道アドベンチャートラベル協議会
- ・サイクリング（阿寒・摩周・釧路湿原ルート）
- ・広域観光周遊ルート（アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道）
- ・釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
- ・ウェルカム道東道！！オールくしろ魅力発信協議会
- ・観光立国ショーケースの取組
- ・観光地域づくり（日本版DMO）
- ・映画等のロケ地プロモーション
- ・アニメ・漫画による観光誘致
- ・移住・定住の取組、地域おこし協力隊による地域情報の発信
- ・インフラツーリズム、ファームツーリズム、歴史的構造物の有効活用
- ・「わが村は美しく—北海道」運動コンクール受賞者による試食販売、パネル展
- ・交付金やまちづくりについての各種支援に関する情報提供及び調整



釧路沿岸モデル地域

地域防災力向上に係る取組

- （被害軽減施設等の整備、ハザードマップ、防災訓練、防災教育等）
- ・津波対策施設の取組
- ・道の駅の防災拠点化
- ・積雪結氷時の地震・津波などの複合的な冬期災害の発生への備え
- ・雪害・暴風雪対策（パンフレット、出前講座・講演会など）
- ・北海道太平洋側港湾BCPの策定
- ・安全安心なまちづくり（北海道緊急治水対策プロジェクト等）
- ・国土強靭化に資するインフラ老朽化対策の推進

安全・安心な社会基盤の形成

- 農業の経営力強化と所得確保に向けて、酪農地帯においてかんがい排水施設の整備等を推進。
- 肥培かんがい施設及び浄化型排水施設の整備により、家畜ふん尿を有効に活用し、粗飼料の増収と営農経費の削減による所得向上が期待できる。併せて、自然環境の保全や河川の水質改善に貢献する。
- 高品質な生乳の生産により、新たなブランドの展開が可能になる。

国営環境保全型かんがい排水事業

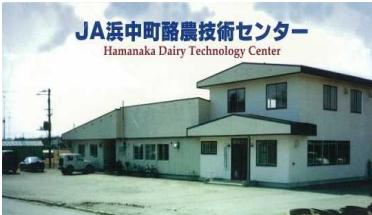


肥培かんがい施設

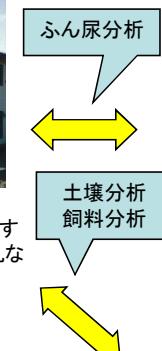


農業用排水施設

浜中町産牛乳ブランドの展開



消費者へ安全、安心な牛乳、乳製品を提供するため、各農家のふん尿、土壌、飼料、生乳などを分析し、営農指導を行っている



ふん尿を効率的に牧草畠へ還元(肥料の節減、牧草の収量向上等)



ロール状に刈り取られた牧草と牧草を
食む牛乳



浜中町産牛乳ブランドである高品質生乳は、カルピス、タカナシ牛乳、ハーゲンダッツアイスクリームに加工されています。



出典: JA浜中町
<http://www.ja-hamanaka.or.jp/highqualitymilk/>



H23までに事業が実施された浜中町では、家畜ふん尿を農地に還元する資源循環型農業が展開されています。



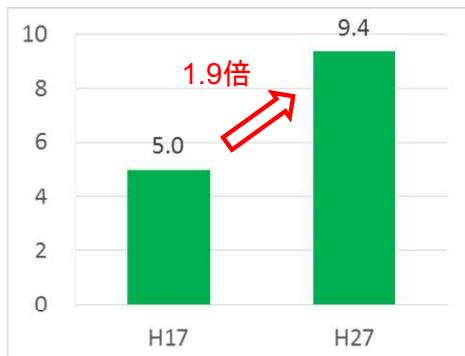
4 取組イメージ例②(高付加価値化の取組等)

〈所得・雇用の確保〉

- 冷涼な気候を活かした野菜の生産・販売が拡大している。
- 高付加価値化をめざし、農水産物の加工や販売などに取り組んでいる例がある。

野菜の生産・販売の拡大

■野菜の産出額(釧路沿岸モデル地域)
(億円)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」

■だいこんの作付面積(釧路町)
(ha)



出典:北海道農林統計協会「北海道農林水産統計年報」
釧路町は「ほくげんだいこん」としてブランド化を展開

6次産業化の取組



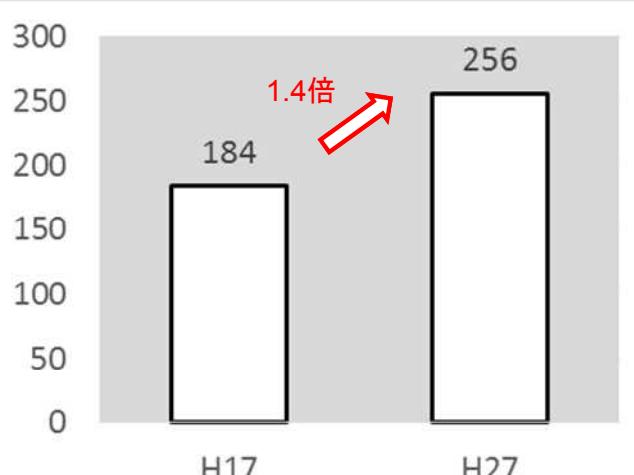
マルシェ山花 (釧路市)
新鮮野菜の直売、牛乳加工食品等の販売のほか、収穫祭の開催による交流の取組を実施しています。



昆布森漁業協同組合女性部 (釧路町)
地域特産物の昆布や魚介類を加工・販売し付加価値の向上や、料理教室の開催による普及啓発の取組を実施しています。

地域経済の基幹となる酪農

■生乳の産出額(釧路沿岸モデル地域)
(億円)



出典:農林水産省「生産農業所得統計」

チーズ工房

白糠酪農舎

ホーム 無農薬チーズづくり 商品のご案内 取り扱い切割 チーズの豆知識 取り扱いご希望の方へ



生産者 × 料理人 × あなたの
やっぱり釧路は
美味しいぜ!!

釧路食材を楽しむイベントをシリーズ開催致します。

「レストラン イオマンテ」
2018年1月26日(金)

●イベントの詳細はコチラご確認ください→

出典:白糠酪農舎HP

<http://rakukeisya.jp/>

アイスクリーム・スイーツ



牛乳・ヨーグルト



出典:別海町HP

<http://betsukai-kanko.jp/betsukai-gourmet/>

①『別海ジャンボホタテバーガー』

【全国ご当地バーガー初代日本一!】

新・ご当地グルメグランプリ北海道殿堂入り!

牛乳や乳製品等の製造・販売している釧路管内の牧場や工房を紹介しています。

○釧路市では、気象条件を生かした野菜生産工場誘致や、地元資源のふきの産業化、鯵のブランド化などが進む。
○釧路町では、冷涼な気候や水はけのよい土質を生かした野菜生、高品質なウニなど海産物の出荷・販売も盛ん。

釧路市

■パプリカ

- 冷涼な夏の気候を生かし、オランダ様式の大規模ハウスで栽培、他の国産パプリカでは難しい夏～秋にかけて出荷。
- 隣接工場からの蒸気供給、多様な物流アクセスなども強み。



■大ブキ

- 蕗の皮を使用した手漉き和紙「富貴紙」の普及促進を行っている。
- 住民組織「音別ふき蕗団」による蕗栽培の開始や、蕗のお菓子、佃煮等の商品化が検討されている。



■くしろプライド釧魚(せんぎょ)

- くしろで水揚げされる豊富な水産物の中から、特に生産者が自信と誇りをもっておすすめする「旬」の魚を月ごとにPR。
- シシャモ、トキシラズに加え、近年漁獲が増加しているサバやマイワシをブランド化(北釧鯵、北釧まいわし)
- 釧路市・イトヨー力堂が「地産地消・地場産品販路拡大に係る連携及び協力に関する協定」を締結し地場産品のPR。



出典:釧路市HP、広報くしろ

釧路町

■ほくげん大根

- 釧路町の夏場でも最高気温の平均が24°C程度と涼しい冷涼な気候と、水はけの良い「火山灰土質」を活かし釧路町と標茶町で育てられている。表面が白くなめらかで美しい見た目と、噛んだ時の果物のようなみずみずしさ・甘さも感じられる味わいが特徴。

■白かぶ

- 冷涼な気候を活かし、甘みの強い白かぶのブランド化を推進中。
- 「釧路町産」がわかるよう独自パッケージを製作予定。
- 植物工場による、ミニトマトやパプリカ等の通年での生産・出荷
- 植物工場のメリット…通年で安定的な生産が可能となる
- 釧路町のメリット…日照時間が長い、夏の冷房費削減



出典:ふるさと納税サイト



出典:釧路町HP

■昆布森産ウニ

- 昆布森産昆布を食べて成長、水っぽさが無く、身が締まり、最上級の逸品
- 釧路町ふるさと納税返礼品の中でも1位の人気
- 品質向上を図るため、殺菌塩水自動製造供給設備を導入し、鮮度を保ち、衛生的、安全な提供を図る。

■大型海産物店の進出

- 道東最大級の大型展示水槽を備え、海産物を「買う、食べる、見る」ことができる海産物販売の大型店が進出。

4 取組イメージ例④(雇用創出・ブランド化②)

〈所得・雇用の確保〉

- 各市町において、地域の気候・環境を生かして、高品質の特産品生産や食のブランド化が行われている。
- 食の分野だけでなく、工業団地や遊休地を活用したメガソーラー発電所の設置など、地域の特色を活用した产业化の取組が進んでいる。

厚岸町 ■ウイスキーづくり

- ・ 堅展実業(株)厚岸蒸溜所が北海道で80年ぶり2カ所目となるウイスキーづくり
- ・ ウイスキーの原料となる大麦の栽培試験に着手、オール厚岸産※を目指す ※大麦、ピート、樽のミズナラ材
- ・ オイスター・バーなどでの提供、蒸留所の見学ツアーや、麦芽の絞りかすを使用した牛の飼育を実施



出典:厚岸味覚ターミナル・コンキリエHP、堅展実業(株)厚岸蒸溜所HP、厚岸町地域おこし協力隊FB

■弁天かき

- ・ 東日本大震災で宮城の種苗が大打撃を受け、厚岸漁協が自前種苗生産



■ウイスキーと食の展開

- ・ コンキリエのオイスター・バーでウイスキーに合うメニューの開発・提供
- ・ ウイスキーに合う地場産品を使った加工品の開発支援を検討
- ・ ウイスキー＆カキのイベント開催の検討など

出典:広報あっけし、厚岸味覚ターミナル・コンキリエHP



出典:堅展実業(株)厚岸蒸溜所HP、厚岸味覚ターミナル・コンキリエHP

浜中町 ■養殖ウニ

- ・ 昆布だけで育てるため品質が均一で、最高級と評価
- ・ 養殖ウニの安定収入は若い後継者の力にするため、主力の昆布漁に次ぐ柱に育てる方針



出典:浜中町HP(浜中町の漁業)

釧路町

白糠町

■メガソーラー

- ・ 遊休地を活用したメガソーラー発電所「すずらん釧路町太陽光発電所」が着工(2020年1月完成予定)。蓄電池を併設、太陽電池容量が92メガワットと国内最大級(一般家庭約2万1300世帯分/年間)
- ・ ユーラスエナジー・ホールディングスが白糠町の白糠工業団地に当時道内最大規模(一般家庭約9,600世帯分/年間)メガソーラー発電所を建設

4 取組イメージ例⑤(雇用創出・ブランド化③)

〈所得・雇用の確保〉

○ふるさと納税感謝特典制度による地域の特産品生産や食のPRが行われている。

○ふるさと納税返礼品カタログは、町長や生産者の似顔絵、イラストによる特産品の説明がわかりやすく紹介されている。

白糠町

■ふるさと納税を通じた食と食材のPR

- ・ 楽天ふるさと納税すべてのお礼の品総合ランキング1位の「いくら」のほか、さけ・毛ガニ・ししゃもなどの水産物、エゾ鹿のジビエ食品、豚丼などの人気商品がラインナップされている。
- ・ エゾ鹿ハンティング体験、船釣り体験など海と山、そして食と、白糠らしい体験メニューもある。

■しそ焼酎「鍛高譚」のふるさと

- ・ 全国でも有名なしそ焼酎「鍛高譚」。白糠町は鍛高譚の原料となる「しそ」の産地で、近年は「鍛高譚の梅酒」も販売されている。



出典:白糠町HP



4 取組イメージ例⑥（地域一体となった取組）

＜所得・雇用の確保＞



○「くしろシーサイドグルメ」や「くしろ魅力ナビ」など地域一体となった活動により、地域の魅力を発信し、農水産物の販売などに取り組んでる。

北太平洋 シーサイドライン とは?

出典: [くしろシーサドクルメ](#) (釧路・阿寒湖観光公式サイトHP)

<http://ja.kushiro-lakeakan.com/s/>

**出典：オールくしろドライスガイド
(釧路総合振興局HP)**

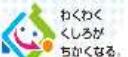
[http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/
ts/tss/doutoudou/miryoku/miryoku02.html](http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/doutoudou/miryoku/miryoku02.html)

タンチョウに大接近！くじらの魅力と楽しみ方



オールくしろ ドライブガイド

2016年3月12日 阿寒IC・麻路IC開通!!
道東自動車道 いよいよ「くしろ」へ



〈しろ魅力なび〉〈しろ魅力マップ



見る魅力など見るアリアマップ



出典：くしろ魅力なび（釧路総合振興局HP）
<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/navi/index.html>

酪農経営の安定化・新規就農の受け入れ

- 酪農経営の生産コスト低減と安定化を図るため、酪農経営の大型化、酪農機器の自動化が進んでいる。
 - 地域農業協同組合では、TMR(混合飼料)センターの整備、酪農ヘルパーや酪農技術などの支援サポート、新規就農者の受け入れとして、研修や就農先の斡旋及び當農開始後の支援を行っている。



阿寒農業協同組合
Japan Agricultural Cooperatives Akan
北海道釧路市阿寒町北新町 1-4-1

TEL 0154-66-3211
FAX 0154-66-2239

- ホーム
- JA 阿寒について
- 営農情報
- 研修生募集
- 農業関連事業者の皆様へ
- JA バンク
- JA 共済



酪農支援と 新規就農支援

新規就農への経済的支援策

- ① リース料半額助成
- ② 固定資産税相当の助成
- ③ 融資制度（北海道農業公社）

出典:JA阿寒HP

出典:JA浜中町HP

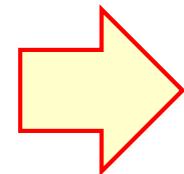
4 取組イメージ例⑧（釧路港国際物流ターミナル整備）

＜所得・雇用の確保＞

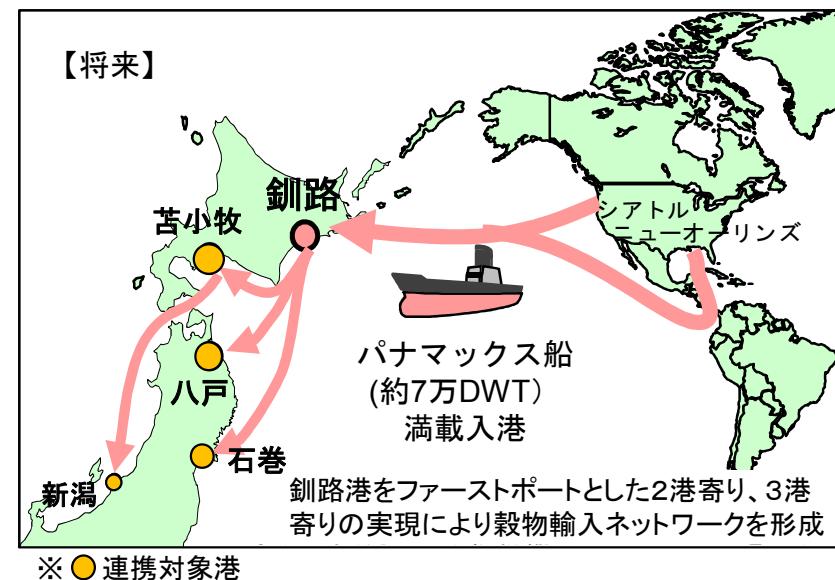
○穀物(飼料原料)の安定的かつ安価な輸送を実現することを目的として、我が国を代表する酪農地帯を背後に抱える釧路港において、大型船舶による穀物の大量一括輸送を可能とする国際物流ターミナル(水深14m)の整備を推進。 ※平成30年秋頃より供用開始予定



岸壁水深の不足により、大型船が満載で入港できない



水深14mの国際物流ターミナルを整備、大型船による穀物の一括大量輸送を可能



◇ターミナル整備に伴い、新たに飼料工場の建設や、サイロの増設、荷役機械の整備などの民間企業による投資が誘発されました。

民間事業者による新規企業立地の例

事業者：中部飼料(株)

新工場建設（配合飼料製造能力月2万トン）

平成30年5月着工予定、平成31年6月稼働予定

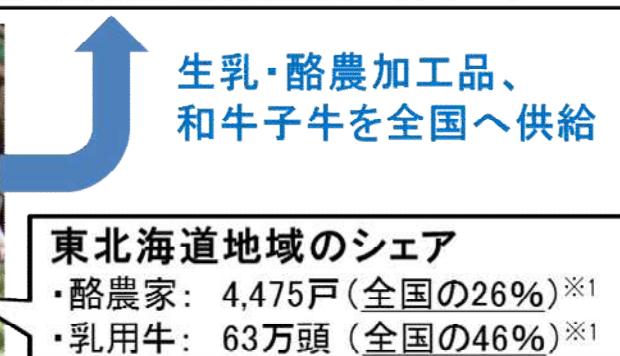
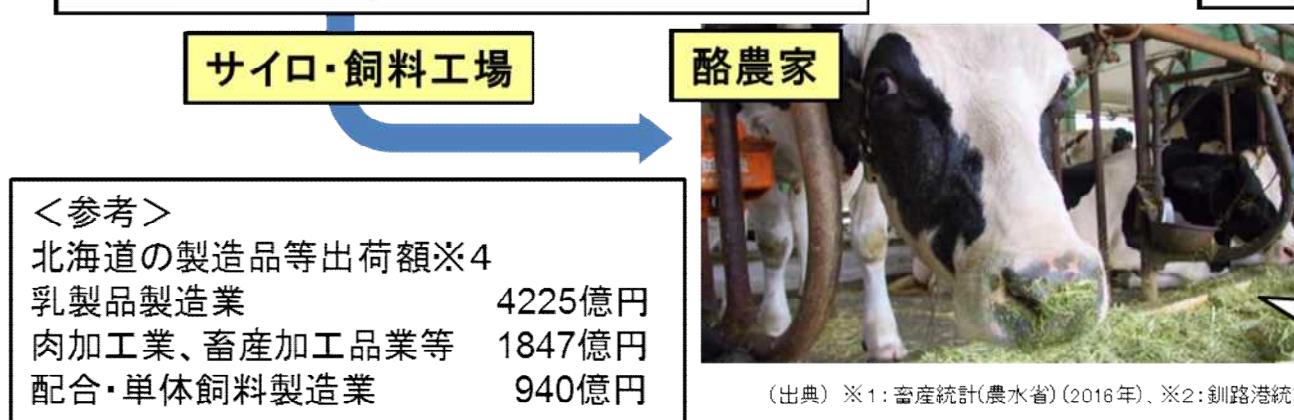
総事業費：約63億円（土地3億円、工場60億円）

雇用：約20人

完成イメージ



- 大型バルク船により穀物(とうもろこし)等を輸入、港湾背後の飼料工場で配合飼料を生産し、乳牛等を飼育。
- 東北海道地域では、生乳を年間304万トン(全国の41%)※1を生産し、RORO船により首都圏へ毎日供給。
(牛乳1㍑パックに換算して毎日46万本分、搾乳の2日後には首都圏に供給)



北海道食の輸出拡大戦略

○北海道では、世界的な日本食ブームの広がりなどを受け、成長する世界の食市場を北海道の食産業の成長につなげることを目的として平成30年に北海道からの食品輸出額1,000億円を目指した「北海道食の輸出拡大戦略」を策定し、「商流・物流網の整備」「輸出支援体制の確立」「新たな市場への展開」などを進めている。

基本戦略

品目や輸出相手国・地域に共通する基本的な施策

I 商流・物流網の整備 安全・高品質・こだわりの道産食品を確実かつ低成本で現地に届ける取組の推進

II 輸出支援体制の確立 生産・製造と販売の両面における輸出促進に向けた基盤の整備

III 新たな市場への展開 需要増加が見込まれる品目、国・地域に関する販路開拓と輸出体制の構築による新市場の獲得

展開方向

平成26年実績

水産物・水産加工品
613億円

＜主な展開方向＞
●輸出先国等の拡大
●高付加価値製品の輸出拡大
●衛生管理基準への対応
●高鮮度商材の物流対策
●北海道ブランドの浸透・保護

＜重点品目＞
ホタケガイ、サケ、高次加工品
高鮮度商材
など

＜対象国・地域＞
シンガポール、タイ、ベトナム、中国、香港、台湾、韓国、EU、アメリカ
など

平成30年目標
水産物・水産加工品
750億円

農畜産物・農畜産加工品
25億円

＜主な展開方向＞
●生産基盤の維持・拡大
●生産者団体等との連携強化
●輸出関連施設の拡大
●物流対策(鮮度保持、低成本)
●効果的なプロモーション

＜重点品目＞
コメ、青果物、牛肉
など

＜対象国・地域＞
シンガポール、中国、香港、台湾、アメリカ
など

農畜産物・農畜産加工品
100億円

その他加工食品
25億円

＜主な展開方向＞
●取組事業者の拡大
●商品の発掘・磨き上げ
●きめ細やかな企業支援
●輸出モデルの確立
●効果的なプロモーション

＜重点品目＞
菓子類、機能性食品
など

＜対象国・地域＞
シンガポール、タイ、中国、香港、台湾、韓国、ロシア、アメリカ、中東
など

その他加工食品
150億円

合計
663億円

合計
1,000億円

国・地域別展開方向(市場環境等を踏まえた重点化)、テーマ別展開方向(戦略を加速するプロジェクト)

連携・推進体制

オール北海道の関係者の連携、きめ細やかな支援体制、重点品目毎の推進プラン、実態や進捗状況を踏まえた効果的な推進

出典: 北海道食の輸出拡大戦略(北海道・平成28年)

北海道総合開発計画における施策展開

○国が策定した北海道総合開発計画においても、「世界に目を向けた産業の振興」という主要施策の中の1つ目に「農林水産業・食関連産業の振興」が位置づけられており、数値目標として平成37年までに道産食品輸出額1,500億円という数値目標が挙げられ各種取組が推進している。

視点

- ・世界的なブランド力を活かし、拡大が見込まれる世界市場で新たな需要を開拓
- ・政府目標 農林水産品等輸出額1兆円達成に貢献

基準値(H26年)

663億円

目標値(H37年)

1,500億円

●定義

北海道から函館税関を通じ、海外へ輸出された道産食品の通関額

●目標値の考え方

平成30年までは毎年85億円(H26の対前年増加額)の増加を見込み、31年以降は、輸出額全体の伸び率の1.5倍程度(毎年75億円増)の増加を見込み、目標値を算定。

【指標の推移と目標値】



望ましい姿

又は行動の指針

- ・品目毎の輸出力強化を図り、着実に輸出額が増加している状態(毎年75~85億円増)を目指す。

●主な取組

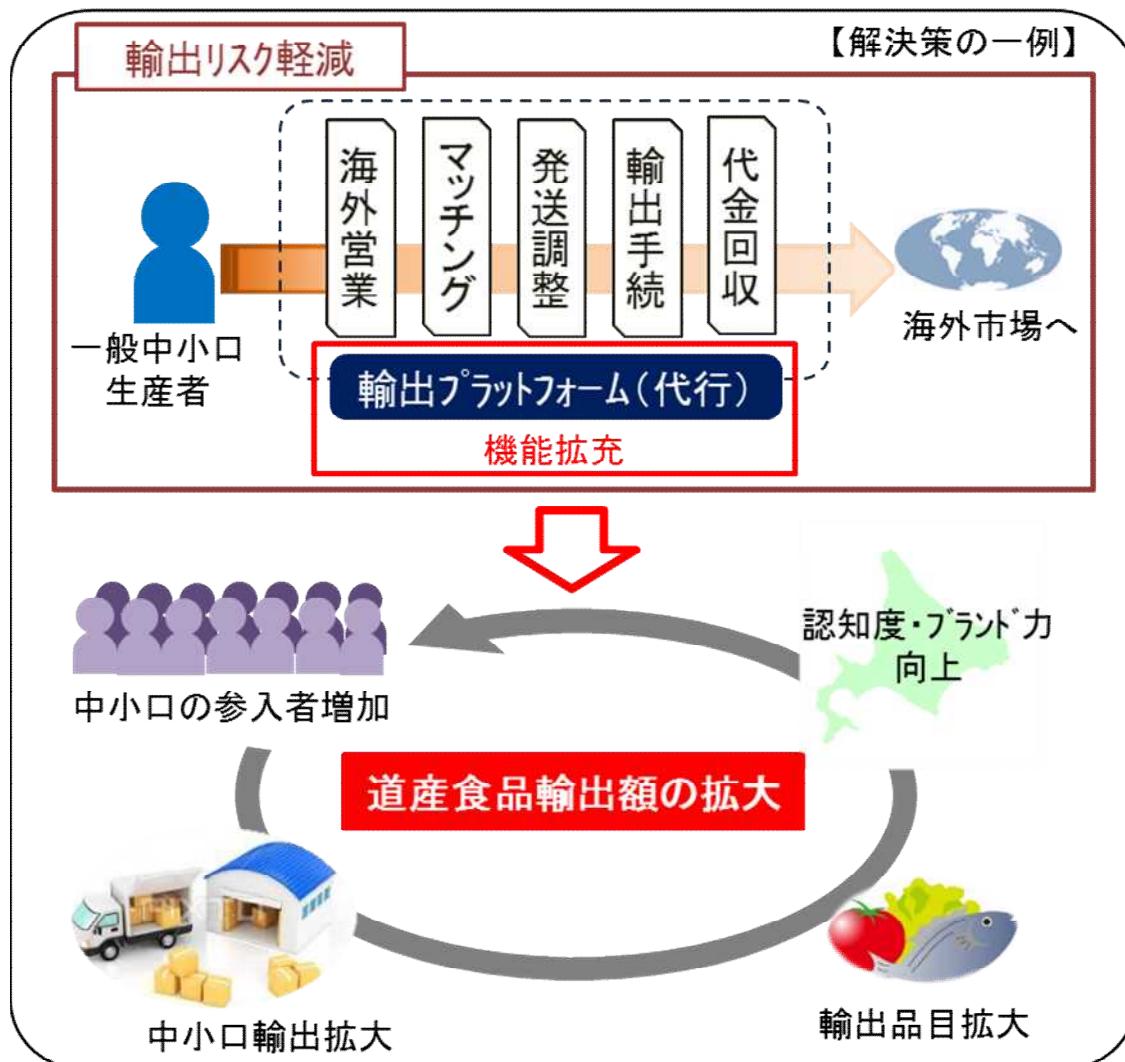
・水産物の高度衛生管理体制の推進と、農地整備等を通じた国際競争力のある農産物の生産促進等(水産物、ナガイモ、コメなど)

4 取組イメージ例⑪（輸出力強化の取組②）

〈所得・雇用の確保〉

「食」のワンストップ輸出実現に向けた調査

- 北海道産食品に係る輸出品目の裾野拡大等を促進するため、中小口貨物の輸出に関わる生産者、物流事業者、商社等が輸出リスク等に関する情報を共有し得るプラットフォームの構築・強化を図る。
- 平成30年以降、実証実験等を実施する予定。



北海道HACCP自主衛生管理認証制度

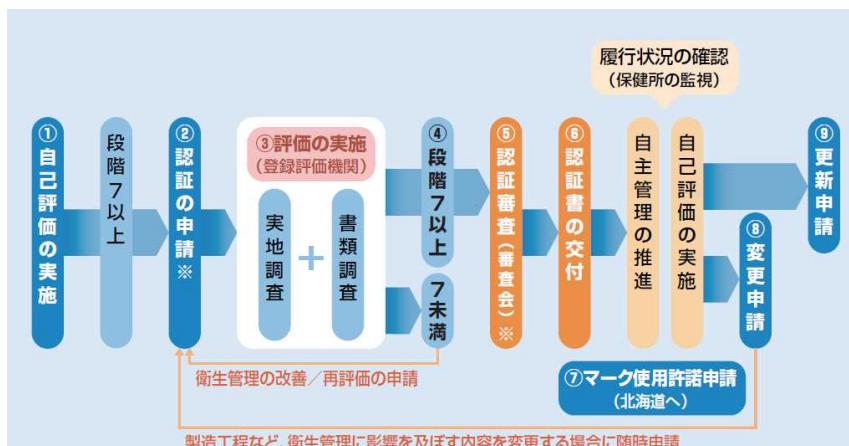
- 食品の安全を確保していくためには、食品関係営業者が自主的な衛生管理に努め、消費者に対してより安全性の高い食品を提供していくことが重要・不可欠なものとなっている。
- 北海道では、食品関係営業者の自主衛生管理をより一層推進し、道産食品の安全性確保と信頼性向上を図ることを目的とした「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」を平成19年に創設し、認証実績は年々拡大している。

■北海道HACCP自主衛生管理認証制度の評価基準

| 認証・評価の主体 | 評価段階 | 内 容 |
|---------------------|---|---|
| 登録評価機関 認証審査会 | 8 7 | HACCPに基づいた高度な自主管理を実施しています。 HACCPに基づいた自主管理に積極的に取り組んでいます。 |
| 保健所 (希望により評価を実施) | 6 : ★★★ 5 : ★★ 4 : ★ 3 : 1~2 : 1未満 : | HACCPに基づいた自主管理に取り組んでいます。 HACCPに基づいた自主管理に取り組み始めました。 自主管理ができるおりHACCPに基づいた取組みが可能です。 自主管理に積極的に取り組んでいます。 自主管理に取り組み始めました。 もう少し努力しましょう。 |

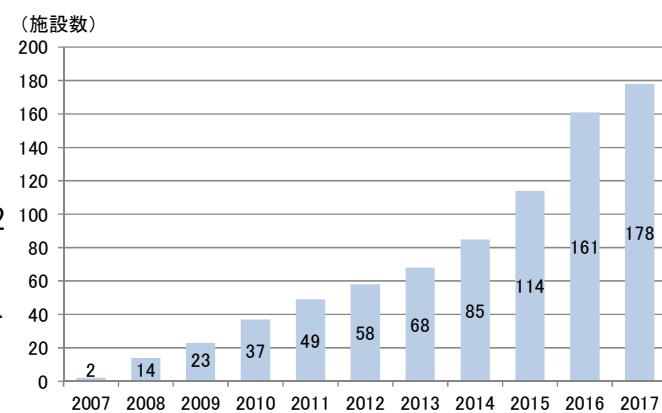
出典：北海道「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」

■北海道HACCP自主衛生管理認証制度の評価基準



出典：北海道「北海道HACCP自主衛生管理認証制度」

■これまでの認証実績 (年度別累計認証施設数)



出典：北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課調べ

■釧路沿岸モデル地域における認証施設

| 施設 | 自治体 | 対象品目 |
|------------------|-----|-------------------------|
| 大塚食品株式会社 釧路工場 | 釧路市 | 清涼飲料水(マッチ缶) |
| 小川水産株式会社 釧路工場 | 釧路市 | うに(生食用) うに(生食用)塩水パック |
| マルキ平川水産株式会社 | 浜中町 | 生うに、塩水うに |

出典：北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課HP
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kse/haccp/ninsyo-tiikibetu.htm>

○危害要因の混入リスクが高い漁港において鳥糞等の混入を防ぐための屋根付き岸壁や清浄海水導入施設を整備し、漁港の衛生管理対策を推進。現在、厚岸漁港で屋根付き岸壁を整備中。

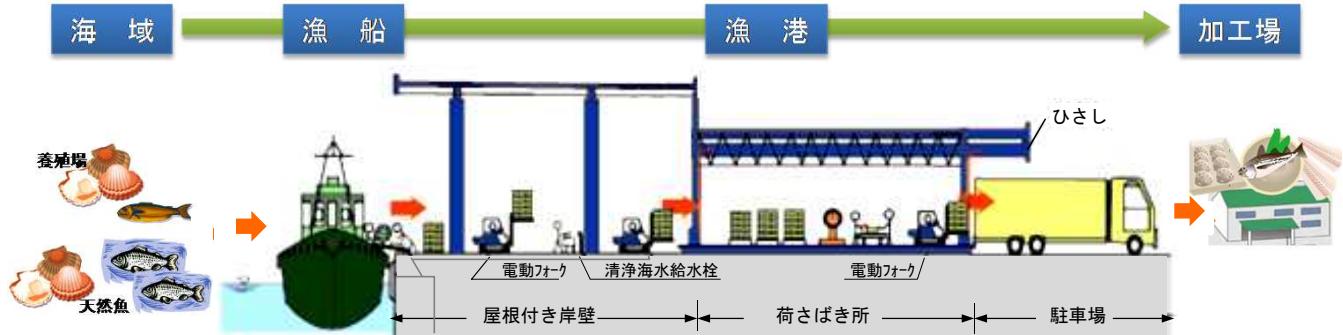
屋外の陸揚げ作業は、異物混入による危害の発生や温度上昇による品質低下等、衛生管理上大きな問題。

→ 安全・安心な水産物の供給やEU等への輸出に大きな支障



陸揚げ時における汚染を避けるため、漁港における衛生管理対策を推進し、輸出促進にも貢献。

- ・鳥糞や雨雪等の異物混入、温度上昇を防ぐ屋根付き岸壁
- ・魚体、施設の洗浄に必要な清浄海水導入施設

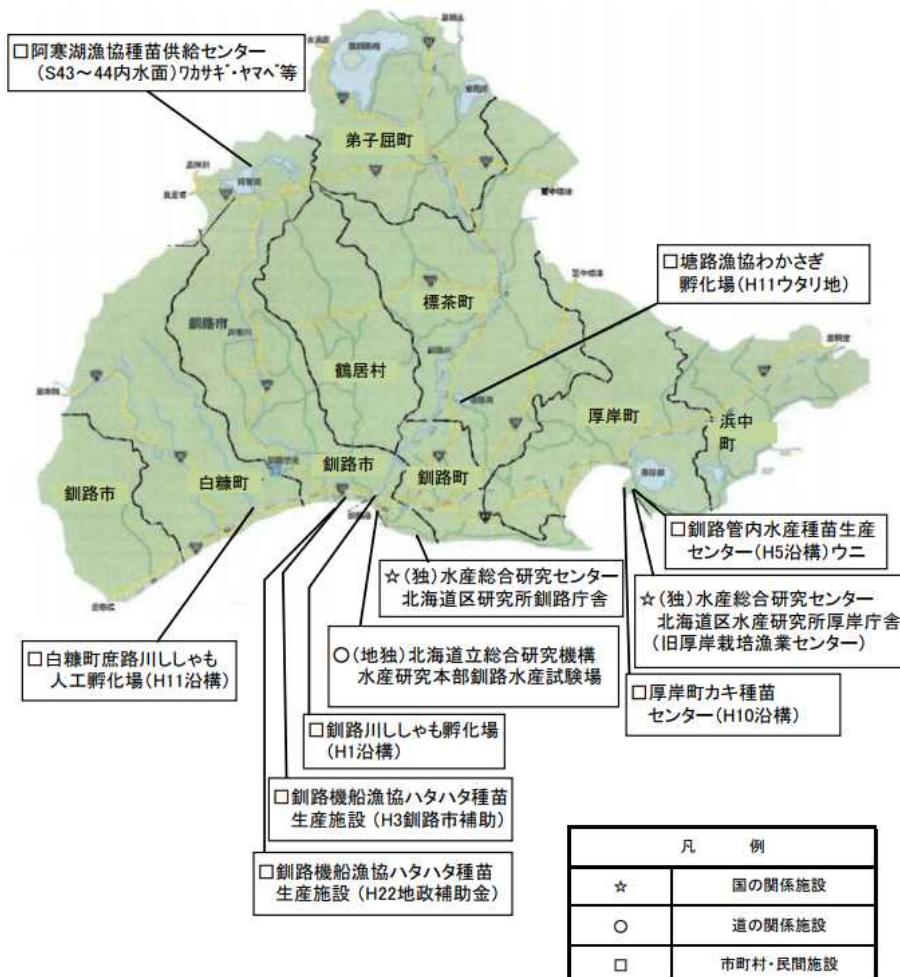


清浄海水による魚体、施設洗浄



- 海外漁場や沖合漁場主体の生産構造からの転換を図り、計画的・安定的な漁業を推進していくため、サケ・マツカワ・ハタハタ・シシャモ・ウニなどの釧路管内の海域特性に合った資源を中心に種苗の生産・放流に取り組んでいる。
 - 沿岸域における漁場造成や、地先におけるコンブ漁場の保全、資源管理を目的としたスケトウダラや毛ガニ等の主要魚種に対する漁獲許容量等を設定するなどして、総合的な栽培漁業を展開している。

管内栽培漁業関係施設位置図



■水産基盤整備事業(漁場)の概要 (H24年度以降分)

○事業主体（北海道）

| 地区名 | 漁場名 | 事業期間 | 事業内容 |
|----------|-------|----------|-------------------|
| 北海道太平洋中部 | 白糠東部 | H24～27年度 | 3.0m型FP魚礁 2,590個 |
| 北海道太平洋中部 | 釧路白糠 | H24～27年度 | クレイドルⅡ型 3,750個 |
| 北海道太平洋東部 | 釧路昆布森 | H24～27年度 | 3.0m型FP魚礁 2,590個 |
| 北海道太平洋東部 | 厚岸大黒 | H24～27年度 | 3.25m型FP魚礁 2,040個 |
| 北海道太平洋東部 | 釧路浜中 | H24～27年度 | クレイドルⅡ型 3,000個 |

○事業主体（市町及び組合）

| 地区名 | 漁場名 | 事業期間 | 事業内容 |
|------|------|----------|-------------|
| 釧路沿岸 | 釧路沿岸 | H24~27年度 | 雜海藻驅除 250ha |

資料：釧路総合振興局「平成27年度版 釧路の水産」

- の厚岸町カキ種苗センター(厚岸町)では将来の地場産種苗の安定確保を目的として、付着稚貝の時から単体で育成する「シングル・シード方式」による一千万粒規模の人工種苗生産施設を建設し、養殖用種苗として地元漁業者へ供給している。

厚岸町カキ種苗センター外観



厚岸町カキ種苗ヤンター(カキ中間育成)



資料・北海道「平成27年版 釧路の水産」<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/in/ss/sis/H27kushiroponsuisan/02-saibaiyoyouutorikumi.pdf>

資料:厚岸町<https://www.akkeshi-town.jp/shisetsu/sangyo/shubyo/>

資料:北海道立総合研究機構水産研究本部
<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/marine/o7u1kr000000dcl.html>

お魚殖やす植樹運動

- 河川上流における植樹・保育(草刈り、枝払いなど)による森林の維持・育成により、土砂流出の抑制、水源涵養、養分豊富な地下水の川への供給促し、水産資源を育むことが期待されている。
- 海岸林や河畔林をはじめとした豊かな森の存在が海の魚を育むという考え方をもとに、昭和63年から、北海道漁協婦人部を中心に、全道各地で木を植え、森や林を大事に育てる取組が行われている。



■浜中町植樹祭(お魚殖やす植樹運動と同時開催)の様子

資料:浜中町HP <http://www.townhamanaka.jp/digicame/digicame2017/2017-0530-1727-14.html>



■実施体制

- ・北海道漁協女性部連絡協議会
(北海道内の各漁協の女性部が参加)
- ・北海道信用漁業協同組合連合会
- ・北海道漁業協同組合連合会
- ・北海道森林組合連合会
- ・北海道
- ・農協
- ・流通事業者
- ・コープさっぽろ

■平成28年に植樹活動を行った漁協女性部

- 浜中漁協女性部
- 散布漁協女性部
- 厚岸漁協女性部
- 昆布森漁協女性部
- 白糠漁協女性部

資料: 北海道水産林務部「お魚殖やす植樹運動」

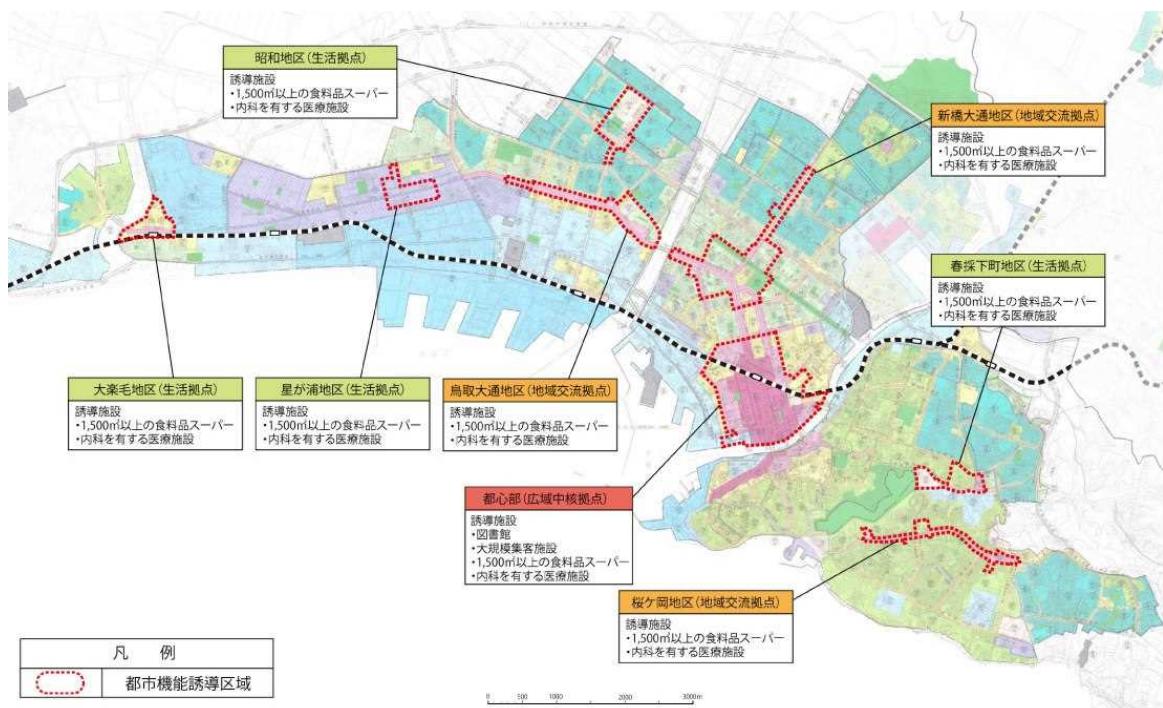
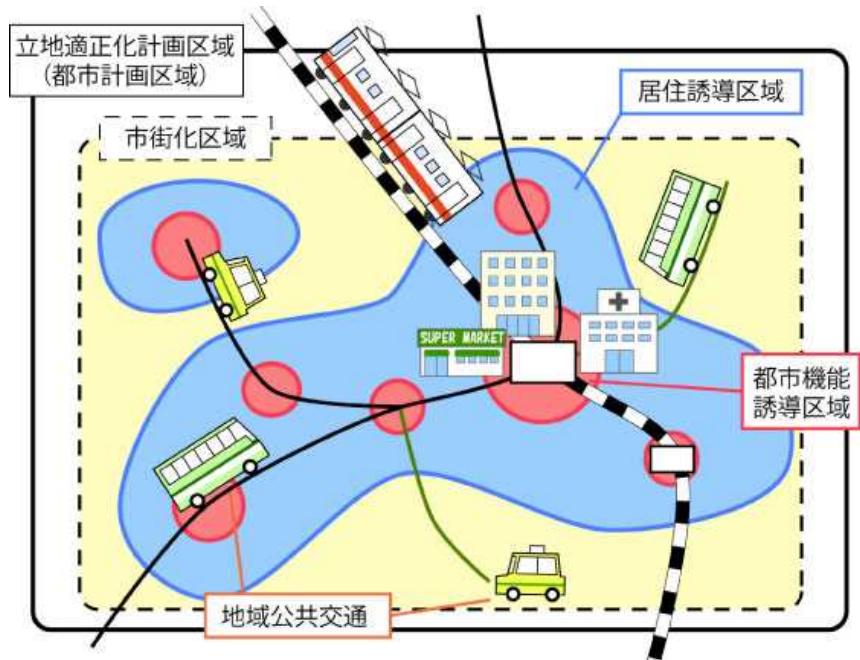
資料: 北海道水産林務部資料「お魚殖やす植樹運動」
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sky/osakanapanfu.pdf>



「立地適正化計画」コンパクトなまちづくり (釧路市)

- 釧路市では、誰もが暮らしやすい「コンパクトなまちづくり」の考え方に基づき、様々な施策を進めている。
- 将来にわたって持続可能なまちとすることを目的として、**北海道内で2番目に「立地適正化計画」が策定されている。(居住誘導区域の設定を除く)**

- 立地適正化計画は、都市全体を見渡し、居住の機能や、商業・医療・福祉といった都市の機能の立地、公共交通の充実などについて包括的に考えていく計画。
- 計画では、市街地の中に新たな区域設定を行い、これまでの都市計画制度による土地利用規制とあわせて、届出制度や補助金・融資などの誘導施策を行うことで、コンパクトなまちづくりを具体的に進めることができる。



- 釧路市では、拠点となる8つの地区を「都市機能誘導区域」に設定し、その周辺に都市機能や居住を集積させ、公共交通の利便性を高めることで、歩いて便利な生活を送ることができる持続可能なコンパクトシティの形成を目指している。

有機的・総合的な取組例 (「道の駅」への機能集約・強化)

地域の交通・物流拠点

路線バスやデマンド交通などの乗り換え拠点、路線バスによる貨客同時輸送の積み替え拠点、として「道の駅」を活用



- 期待される効果
- ・都市間バス・地域内交通の結節点化
 - ・道の駅を貨客混載の拠点とした物流体制の構築

地域の交流拠点

地域の産直品の販路拡大・高付加価値化、地域住民に向けた買い物利便の提供、観光客への産直品のPR等の拠点として「道の駅」を活用



道の駅間での産直品の輸送・相互販売実験イメージ

- 期待される効果
- ・地方部での生活を支える日常買物の利便性向上
 - ・持続可能な道の駅間物流ネットワークの構築
 - ・地域資源を活かした新しい地域コミュニティ創出や他地域との交流促進

地域の情報拠点

地域の防災・観光情報等を提供・発信する拠点として「道の駅」を活用



事業者との連携による自動販売機を通じた防災情報の発信



無料公衆無線 LAN



- 期待される効果
- ・道路情報の提供
 - ・地域の防災・観光情報等の発信



〔例〕「おいしい道の駅」実証実験



地域の高校(三笠高校調理部)が地域の産品を活用してつくった「ふるさとピンチосス」の販売実験

※ふるさとピンチосス：複数の食材を組み合わせ、ひと口で食べられるスペイン生まれの料理



物産・お土産コーナー

新春「お魚の福袋」などの初売りの販売の実施
(白糠：恋問館)



産直カレンダーの作成

地域公共交通網形成計画（網形成計画）の取組

- 「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするマスター・プランとしての役割を果たすもの。
- まちづくりと連携し、かつ面的な公共交通ネットワークを再構築するために実施する事業を記載。

釧路市

- ・ 網形成計画策定済み、再編実施計画策定中

釧路町

厚岸町

- ・ 網形成計画策定中

白糠町

- ・ 人口減少や少子高齢化などの社会情勢に伴い、公共交通ネットワークの見直しを図り、将来的にも持続可能な交通手段の確保と住みよいまちづくりを目指し、白糠町地域公共交通活性化協議会を設置している。
- ・ 協議会は、平成30年度からの新たな公共交通ネットワークの構築を目指し、町内で運行している民間バスや町営バス、スクールバス、タクシーなど公共交通の関係機関、住民利用者及び学識経験者を構成委員として、各種調査事業や計画策定事業を実施している

基本方針

白糠町における上位・関連計画や地域・公共交通の課題を踏まえ、白糠町地域公共交通網形成計画の基本理念を次のとおり定める。

基本理念

人の交流による活性化を導く
機能的で魅力ある生活交通づくり

上記の基本理念のもとに、白糠町における公共交通網の基本方針を次のとおり定める。

| | |
|--------|-----------------------------|
| 基本方針 1 | 市街地における利便性の高い生活交通の形成 |
| 基本方針 2 | 山間部の地域特性を活かした持続可能な生活交通の確保 |
| 基本方針 3 | 地域が守り育て、将来につなぐ公共交通としての意識の醸成 |
| 基本方針 4 | 広域的な移動を支援する基幹交通の維持 |

白糠町のめざす公共交通像

基本理念

人の交流による活性化を導く
機能的で魅力ある生活交通づくり

◆町営バス路線②【運行見直し】

・現 状:二股地区と市街地を結ぶ生活路線として定時定路線で運行
・問題点:バス乗降調査では、二股や茶路学校前までの利用は2人/日と少ない利用となっているが、日6便運行と非効率的な運行
・課 題:山間部における生活交通の確保及び効率的で持続可能な運行形態の導入が必要
・再編内容:山間部住民の通学、通院、買い物利用などの生活交通を支える支線及び山間部に位置するファームレストランやキャンプ場等の観光施設へのアクセスとして予約制バスの運行を予定
・運行区間:二股↔上茶路↔白糠駅

◆スクールバス混乗【運行見直し】

・現 状:和天別地区と市街地を結ぶ生活路線としてスクールバスの住民利用を実施
・問題点:「畠農後継者の増加に伴う児童・生徒数増加や利便性を考えた、スクールバス住民利用の見直し必要
・課 題:山間部における生活交通の確保及び効率的で持続可能な運行形態の導入が必要
・再編内容:山間部住民の通学、通院、買い物利用などの生活交通を支える支線及び平成33年以降に建設を予定している道立養護学校へのアクセス路線として予約制バスや乗合タクシーの運行を予定
・運行区間:和天別↔大秋↔馬主来↔白糠駅

◆町営バス路線①【運行見直し】

・現 状:一級地区と市街地を結ぶ生活路線として定時定路線で運行
・問題点:「朝・夜の町営バス路線は、国道などの主要道路を運行しており、市街地内にあっても広大な通空空白地帯がある。
・課 題:市街地における公共交通空白域の削減及び市街地における生活交通の利便性の向上が必要
・再編内容:白糠市街地に立地している病院、商業施設、公共施設、福祉施設等を結ぶ定時定路線型のコミュニティバスの運行を予定
・運行区間:白糠市街地↔一級

◆音別線【運行見直し】

・現 状:釧路市茶室別音別駅白糠駅を結ぶ市町村生活バス路線として定時定路線で運行(平成28年10月から釧路駅まで路線延伸)
・問題点:釧路市茶室別音別駅の利用者が少なく、民間事業者が路線廃止を検討
・課 題:白糠線減便等により、釧路市へのアクセス性が低下しており、釧路圏域における安定した生活を確保するため、地域間幹線系統の維持が必要
・再編内容:現白糠線系統と統合
・運行区間:音別駅白糠駅↔音別駅



高齢者が自家用車から公共交通への転換のためには、高齢者の意識を変換することが必要

課題と解決方法

公共交通は不便



自家用車は便利

高齢者自身が自家用車から公共交通に転換するメリットを見出していない

【公共交通利用のメリット】

- ・健康に良い
- ・財布に優しい
- ・地域交流が生まれる
- ・交通事故の加害者になることの回避

経済面だけでなく多様な角度から、公共交通への転換のメリットを調査

取組内容

○高齢者の公共交通利用のメリット・デメリットの調査

公共交通へ転換するメリット・デメリットについて、健康寿命の延長、地域社会との交流の増加、交通事故の加害者となる可能性の減少、自家用車を手放すことによる経済的メリット、外出機会の喪失等の多角的な項目について調査

○グループミーティング、モビリティ・マネジメントの実施

公共交通機関を利用するもののメリット、自家用車の過度の利用が招くデメリットについて講座を開催

○免許返納を家族から働きかける方法の調査・検討

公共交通への転換を促進するため、高齢者の免許返納について、家族から働きかける方法等の調査検討

○シンポジウムの開催



乗り方教室、賢い車の使い方講座、路線バスの利用に関するグループミーティング

4 取組イメージ例②(エネルギー関連の取組)

<生活機能・集落機能の確保>



- 北海道では、庁内関係部課で組織する「バイオマス利活用推進連絡会議」を通じ、情報の共有や関係する計画や施策との連携・調整を図りながら、バイオマス関連の取組の推進に努めている。
- 釧路市・白糠町において、水素の製造・貯蔵・運搬・利用までのサプライチェーンを構築する実証実験が実施されている。

畜産系バイオガスプラントの分布

- 北海道全体では、61基の畜産系バイオガスプラントが稼働しているが、そのうち釧路総合振興局、根室振興局管内では15基が稼働している。

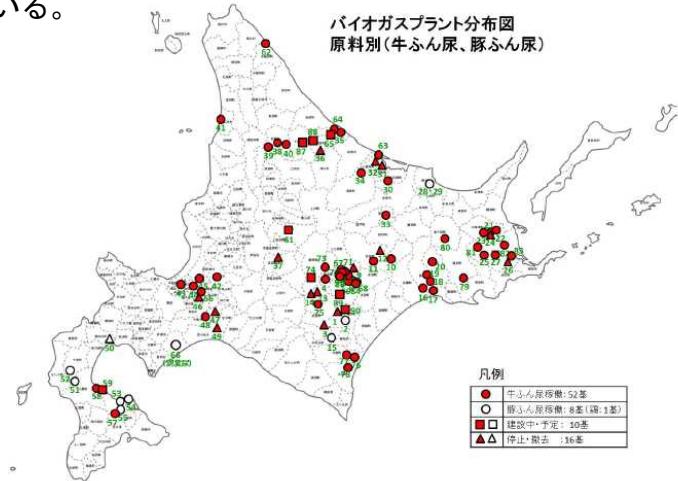


図1-1 畜産系バイオガスプラントの分布図

資料:平成27年度 北海道地域分散型エネルギーシステム普及拡大事業報告書
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kke/chiikiubunnsangatahoukokusyo1.pdf>

木質バイオマス活用の今後の予定

【白糠町 バイオマス発電所建設の取組】

- 木質チップなどを燃やして発電する「白糠バイオマス発電所」が平成30年6月に完成予定。
- 1日最大6250キロ、年間330日24時間稼働し、廃電温水を利用したシイタケなどのキノコ栽培を計画している。



▲白糠バイオマス発電所起工式の様子

畜産系バイオマス活用の先進事例

【釧路市 野村牧場】

- 売電収入は年間約250万円である。消化液はすべて自家消費している。
- 死産・奇形、乳熱、肝機能障害、関節炎等に掛かりにくくなった。
- 牛舎の臭気が劇的に改善した。
- 消化液の利用を始めてから、ミミズ・微生物の増加など土壌の変化が現れ、畑に水が溜まらなくなってきた。
- 雑草が減り、牧草の収量が増加した。化学肥料の使用量が減少した。
- 酪農は土が命。消化液を土に戻すことにより、草が変わる、牛が変わる、経営者が変わる、地域が変わる。



写真3-5 野村牧場バイオガスプラント全景

水素サプライチェーンを構築する実証実験

【釧路市・白糠町、庶路ダムの小水力発電所】

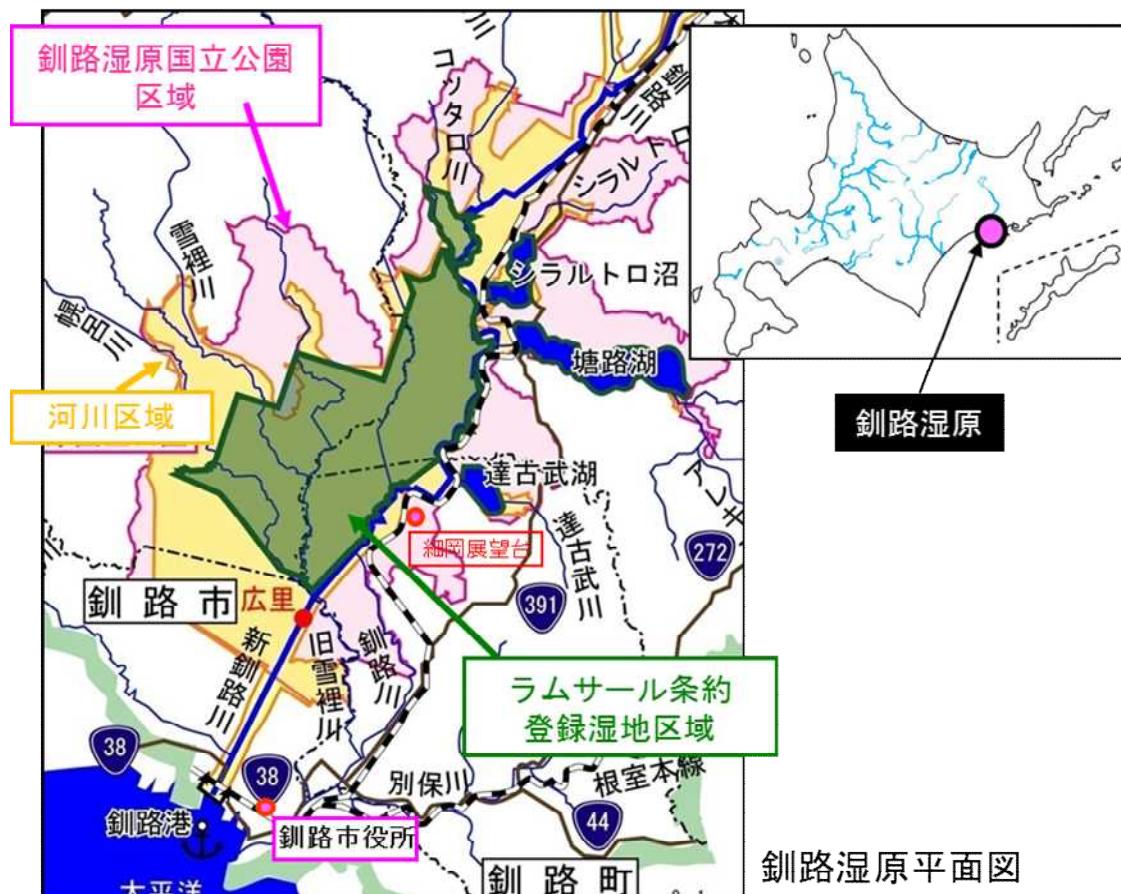
環境省・北海道水素サプライチェーン実証



資料:東芝ブスリリース20150703(https://www.toshiba.co.jp/about/press/2015_07/prj0301.htm)

釧路湿原自然再生事業 ～釧路湿原の概要～

- 国内最初のラムサール条約登録湿地(S55)、湿地単独では国内最大の国立公園(S62)で、国内最大の湿地(湿地面積:約180km²)
- 治水(遊水機能)、釧路湿原の河川環境保全のため河川区域の指定(S56指定・H12拡大指定)
- 近年、釧路湿原は面積が急速に減少し、乾燥化等による植生の変化が見られる。
- 動植物や住民等に恩恵をもたらす湿原を保全するため、国、自治体、地域住民、NPO、学識経験者等が連携・協働して、釧路湿原の保全・再生に向けた取組を実施している。



釧路湿原の魅力を活かした観光

- 旧川復元を実施した茅沼地区では、新しいカヌーコースとしての利用や環境学習の場等として活用されており、管理用通路(木道)は、旧川復元箇所の見学や散策等に利用されている。



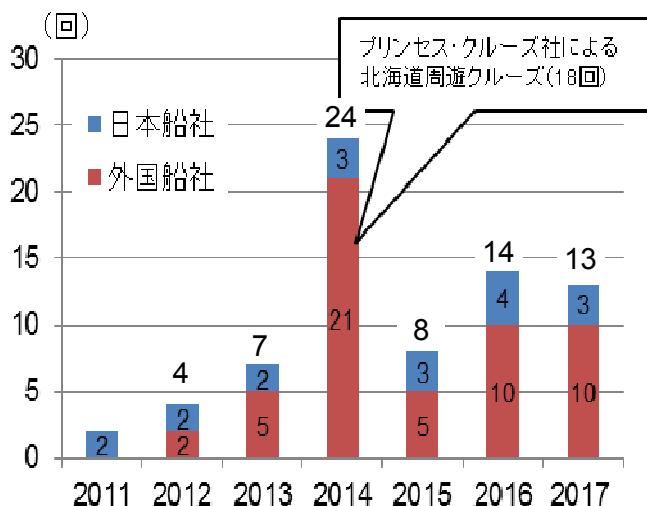
釧路港における外国クルーズ船の受入

- 2011年に供用開始した耐震・旅客船岸壁では、外国クルーズ船の寄港回数が増加し、賑わい空間を創出し、みとまち釧路の観光振興に寄与している。
- 一方、クルーズ船を受け入れている釧路港東港区北地区の岸壁は、クルーズ船が寄港した際は混雑し、また周辺には、築50年以上の老朽化した上屋が存在している。
- そのため、クルーズ旅客や地域住民の安全性・利便性の確保のため老朽化した上屋を解体撤去し、解体後のスペースをバス・タクシー等の駐車場として利用する取組を推進している。

整備イメージ



釧路のクルーズ船寄港回数の推移



クルーズ船接岸状況(東港区)

◇市民団体による旅客船のお見送りやイベントの開催等の活動により、多くの市民が耐震・旅客船岸壁に集まり賑わいが形成されています。

北海道標茶高等学校による外国人クルーズ観光客へのおもてなし活動

- 北海道標茶高等学校が 平成28年度土木学会北海道支部地域活動賞を受賞。
- 外国人クルーズ観光客へのおもてなし活動に参加し、岸壁上において英語で道案内をするほか、港湾事業により整備した全天候型緑地(EGG)において、書道や着物の着付け等を通じた英語によるおもてなし活動を行い、土木構造物を通じて地域の発展や貢献に寄与している。

釧路港に寄港するクルーズ船



折り紙での折鶴体験(EGG内)



書道の体験様子(EGG内)

釧路港 おもてなし俱楽部

- 「釧路港耐震旅客船ターミナルの利用を考える会(釧路開発建設部、釧路市共催)」を母体に市民団体等が賛同し、発足した『釧路港おもてなし俱楽部』
- クルーズ船の寄港時に、心のこもったおもてなしやイベントを展開、情報発信を行っている。

岸壁にぎやかし(活動状況)



地域マリンビジョン

- 「地域マリンビジョン」は、「北海道マリンビジョン21」で示した将来像の実現のため、漁業者だけではなく様々な関係者が集まり策定した、水産業を核とした地域振興方針。
- 各地域では、「地域マリンビジョン」に基づき、衛生管理の強化やブランド化の推進等、水産物の安定供給のための取組はもちろんのこと、食育、植樹、水産業と観光の連携等の様々な取組も行われている。

厚岸地域の目指す姿

- (1)水産業を核とした地域産業の活性化 ～水産業を基幹産業とした活力ある町づくり～
- (2)沿岸漁業の構造改善による漁業経営の強化 ～持続的沿岸漁業が営まれる町づくり～
- (3)豊かな沿岸環境の次世代への継承 ～豊かな自然を伝えていく町づくり～
- (4)自然・水産業を活かした交流と災害に強い町づくり～ふれあいと安心の町づくり～



厚岸地域マリンビジョン 協議会

■マリンビジョン協議会

行政関係者、漁業協同組合長、買受人組合長、商工会長、観光協会長、自治会連合会長、釧路太田農協組合長、厚岸翔洋高校校長

■マリンビジョン推進検討会

漁協沖合・沿岸漁業・養殖漁業各部会代表者、漁協青年部・女性部各代表、買受人組合代表、トラック協会代表、石油業協会代表、漁協各関係者、商工会代表、観光協会代表、自治会連合会代表、釧路太田農協関係者、厚岸翔洋高校代表、厚岸味覚ターミナルコンキリエ代表者、行政関係者

■オブザーバー

行政関係者

■事務局

厚岸町、漁協関係者

地域の資源等



アドベンチャートラベル

- アドベンチャートラベル(※)は、欧米を中心に2, 630億ドルの市場規模を有し、急成長中。
- 全ての要素を満たしている北海道をアドベンチャートラベルの世界的な旅行目的地に押し上げる。

※アドベンチャートラベルとは

唯一の世界的機関であるAdventure Travel Trade Association(世界80か国約1,000団体が加盟1990年設立)が提唱する旅行スタイル。自然との関連性、異文化体験、身体的活動(アクティビティ)の3つの要素のうち少なくとも2つを伴うものと定義され、欧米を中心とした巨大市場となっている。旅行者の滞在期間が長く地元への経済効果も高い。



☆H29年度の取組

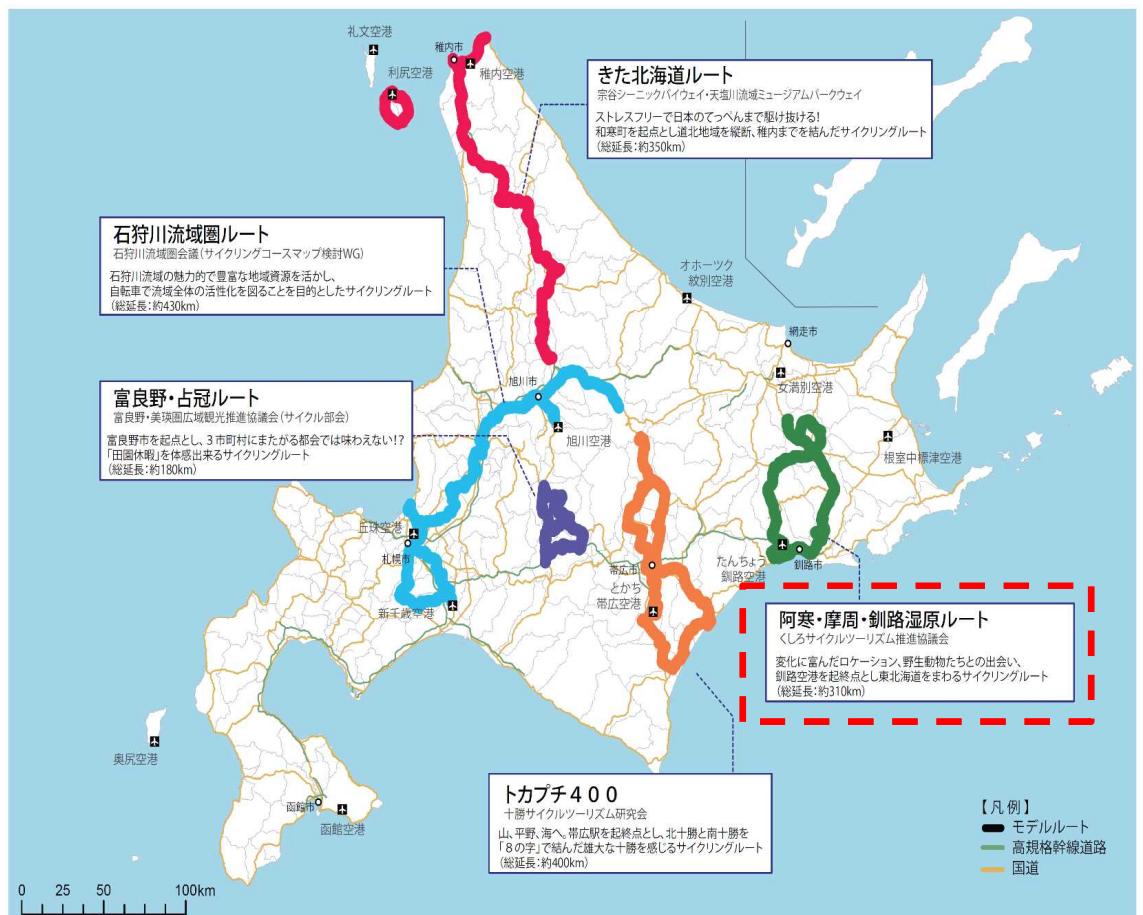
- 観光ビジョン推進北海道ブロック戦略会議
「国立公園のナショナルパークとしてのブランド化」推進チームの立ち上げ(H29.5.31)
- 北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)の設立(H29.6.21)
 - ◆74団体にのぼる産官学の連携組織
 - ◆WEBサイトの構築 <http://hokkaido-adventuretravel.com/> (H29.10)
 - ◆米国大手アドベンチャー旅行会社・メディアによる視察旅行の実施(H29.9.30-10.9)
 - ◆ATTの年次総会 Adventure Travel World Summit(アルゼンチン)への参加(H29.10.16-19)
- ATTの教育プログラム Adventure EDU を釧路で開催し87名が参加(H29.9.27-28)
 - ◆Adventure EDU の内容を拡散・共有するためのセミナー開催(H29.12-H30.1 道内4カ所)

☆H30年度の予定

- 北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)による旅行者の受入れ・誘致宣伝
 - ◆構築したWEBサイトを活用した情報発信
 - ◆旅行会社・メディアによる道内視察旅行の実施
 - ◆Adventure Travel World Summit(イタリア)への参加
- Guide Training EDU(エキスパート・ガイド育成プログラム)の実施

北海道のサイクルツーリズムの推進

- 北海道におけるサイクルツーリズムを推進するために、先進地域の取組等も踏まえつつ、自転車の走行環境、受入環境の改善・充実を図るための方策や、サイクリストも参画した効果的な情報発信の方策について、専門的見地から審議を行うため、「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」(事務局:北海道開発局・北海道)を設立し、検討を進めている。
- 検討委員会での審議結果を踏まえ、道内で5つのモデルルートにおいて取組を試行している。



モデルルートの試行により検証する内容

| 受入環境の改善 | 情報提供・サイクリストとのコミュニケーションの方策 |
|--|---|
|  <p>①休憩・宿泊施設 ②交通施設・輸送サービス ③サポート体制 ④レンタサイクル環境 等のニーズや満足度</p> |  <p>コミュニケーションサイトの使いやすさ、 わかりやすさ、ニーズ等</p> |
| 自転車走行環境の改善 | 持続的取組を進めるための体制・役割分担 |
|  <p>①路面表示の設置間隔及び位置 ②案内看板(ルート表示)の設置 間隔、位置及び高さ ③ルート診断手法</p> |  <p>①経済波及効果 ②サイクリング客数等</p> |

アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北・海・道 Hokkaido - Route to Asian Natural Treasures

○コンセプト

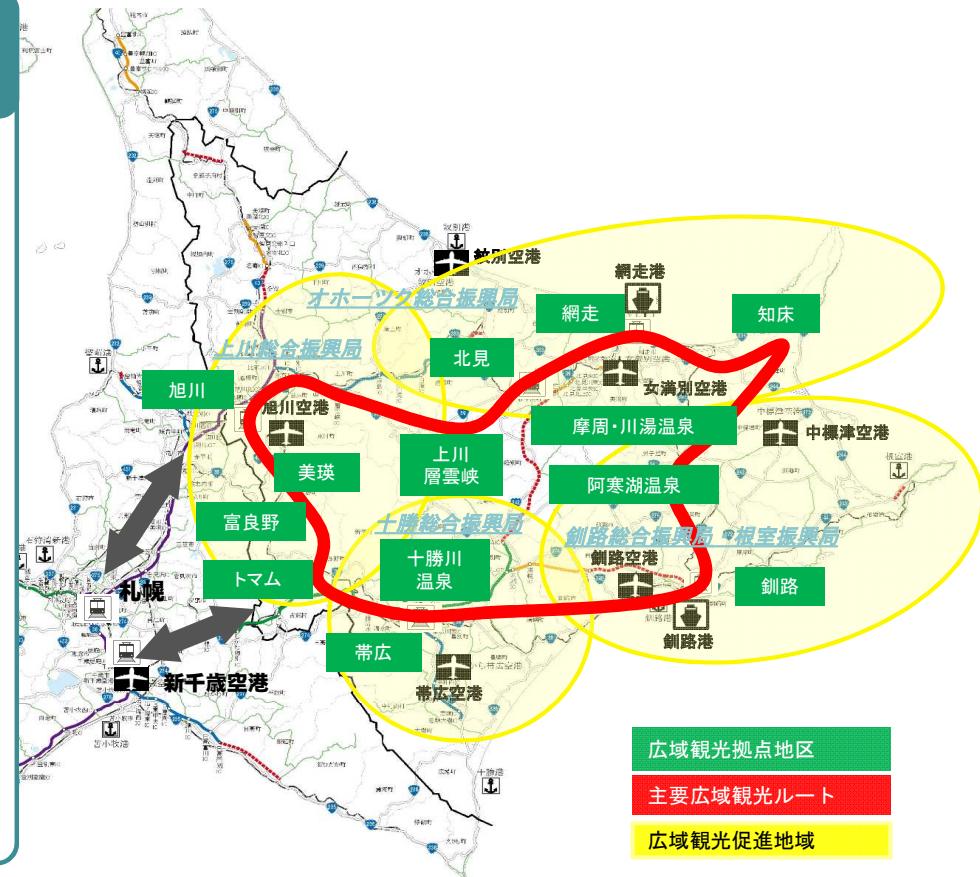
人と自然の織りなすデザインと超自然が生んだ奇跡の絶景。この道を旅する時の醍醐味は、めくるめく風景、大地から海への食に至るまで、どこまでも続くコントラスト。世界でここだけのプライムロード ひがし 北・海・道。

○主な対象市場・ターゲット

- ・アジア～台湾、香港、タイ、シンガポール、中国、韓国
+インセンティブ、ラグジュアリー層旅行
- ・欧米～米国、豪州、英国 など
- ・大人の旅／グレード／時間＆アクティブ
⇒富裕層～中間層・時間のゆとりと行動志向の旅行者

○計画期間 平成27年度から平成31年度まで

出典:観光庁HP、『プライムロード ひがし北・海・道』推進協議会 HP



(一部抜粋) モデルコース
グリーンシーズン ショートコース

釧路から東へオーシャンライン名所コース

出発 釧路市内

自動車 1時間44分 (53.4km)

2 子野日公園

自動車 9分 (4.4km)

4 琵琶瀬展望台

自動車 23分 (11.2km)

到着 釧路市内

市街地から10kmほど先には釧路湿原が広がり、野生の動植物が生命をおう歌している。釧路市は都市と自然、両方の魅力を併せ持つまちである。

1 爽冠岬

自動車 10分 (4.8km)

3 厚岸周辺の飲食店

自動車 1時間4分 (31.8km)

5 霧多布岬

自動車 2時間47分 (83.4km)

4 取組イメージ例②9

(釧路湿原・阿寒・摩周シニックバイウェイ)

〈地域の魅力向上〉

活動エリアと地域資源

- 釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園などの地域の代表的な観光地を含んだエリア
- 釧路空港から中標津空港に至るルートを軸とする
- 4つのエリアで構成(釧路湿原・阿寒湖・弟子屈・中標津)

ルート図



釧路湿原
エリア



釧路湿原エリア

《主な幹線道路》

R240、R241、R243、R272ほか

《関係市町村》

釧路市、標茶町、弟子屈町
中標津町、鶴居村、別海町

《ルート活動団体数》

15団体

4 取組イメージ例③〇(地域が連携した取組)

＜地域の魅力向上＞



○道東道の開通により、多くの方々にくしろの地を訪れ、その魅力を十分味わえるよう、地域が一体となって「ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信協議会」を立ち上げ、"くしろの魅力"を発信する取組が進められている。



ウェルカム道東道!!オールくしろ魅力発信協議会



今後の取組み(予定)

◆「オールくしろ魅力いっぱい物産展」を開催します！

- ・日時 平成30年3月10日(土)～11日(日)
- ・場所 サッポロファクトリー3条館 アトリウム
- ・主催 ウェルカム道東道!! オールくしろ魅力発信協議会
- ・内容
 - (1)くしろ地域8市町村「食」の魅力を発信
 - (2)道東自動車道の開通情報や観光情報等を発信
 - (3)ステージイベント
 - (4)体験コーナー

○道の駅厚岸グルメパーク・コンキリエの事例

「金のかき醤油」「オイスターバル」などプチ贅沢の商品投入により客単価が増え、阿寒 IC開通した平成28年度の売上高は2.8%増

出典: ホーム > 地域創生部 > 地域政策課 > ウェルカム道東道!! オールくしろ魅力発信協議会HP

○地方の潜在力、将来性を再認識し、地域の住民生活の健全な向上・発展に寄与する事を目的に、「釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム」が結成され、地域見学ツアーの開催などの取組が行われている。



釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム
つなげよう全国縦貫「高速交通ネットワーク」



現地見学会の様子(北海道横断自動車道)

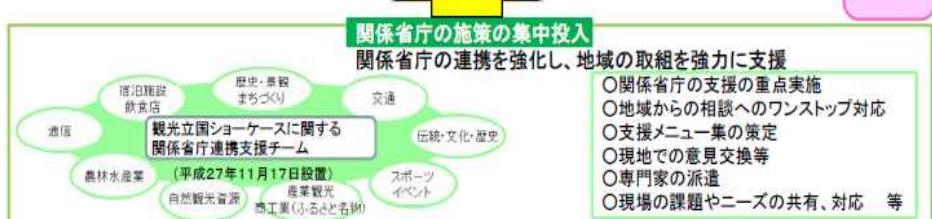
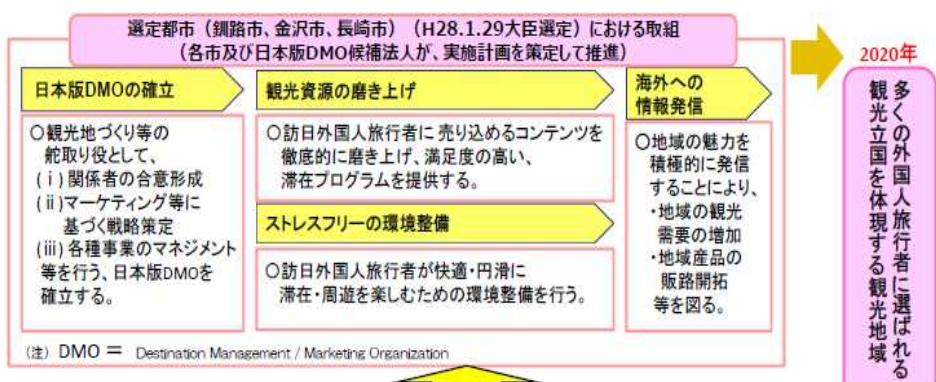
地元食材をふんだんに使用した特製弁当(昼食)



出典: 釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラムHP
<http://michi-kurashi.marimo.or.jp/index.html>

観光立国ショーケースの実現に向けた取組

- 釧路市は平成28年1月29日に「観光立国ショーケース」として観光庁より石川県金沢市、長崎県長崎市とともに選定された。
- 観光立国ショーケースとは「日本再興戦略 改定2015」（平成27年6月30日閣議決定）に基づき、多くの外国人旅行者に選ばれる観光立国を体現する観光地域をつくり、訪日外国人旅行者を地方へ誘客するモデルケースを形成しようとするもの。
- 観光立国ショーケースにおける取組と支援



- 釧路湿原遊歩道の整備等への支援
(北海道・釧路市の取組)



出典:国土交通省 観光庁HP

＜釧路市の主な取組とそのポイント＞

■欧米豪富裕層が好むアドベンチャーツーリズムへのアプローチ

- 手つかずの自然の中でのトレッキング、フィッシング、スノーシュー等の体験を良質なガイドとともに提供。



ガイドツアー
(イメージ)

■自然と共生するアイヌ文化のトータルブランド化

- アイヌ古式舞踊やアイヌアートなどにより、外国人旅行者の知的好奇心を満たす。



ユネスコ世界無形文化遺産であるアイヌ古式舞踊

■SIT(Special Interest Tour)に対応したエコツーリズムの推進に向けたガイドの充実

- 釧路湿原やマリモなどを活用した、ガイドプログラム造成



■「ストレスフリーエリア」等の完全ストレスフリー化

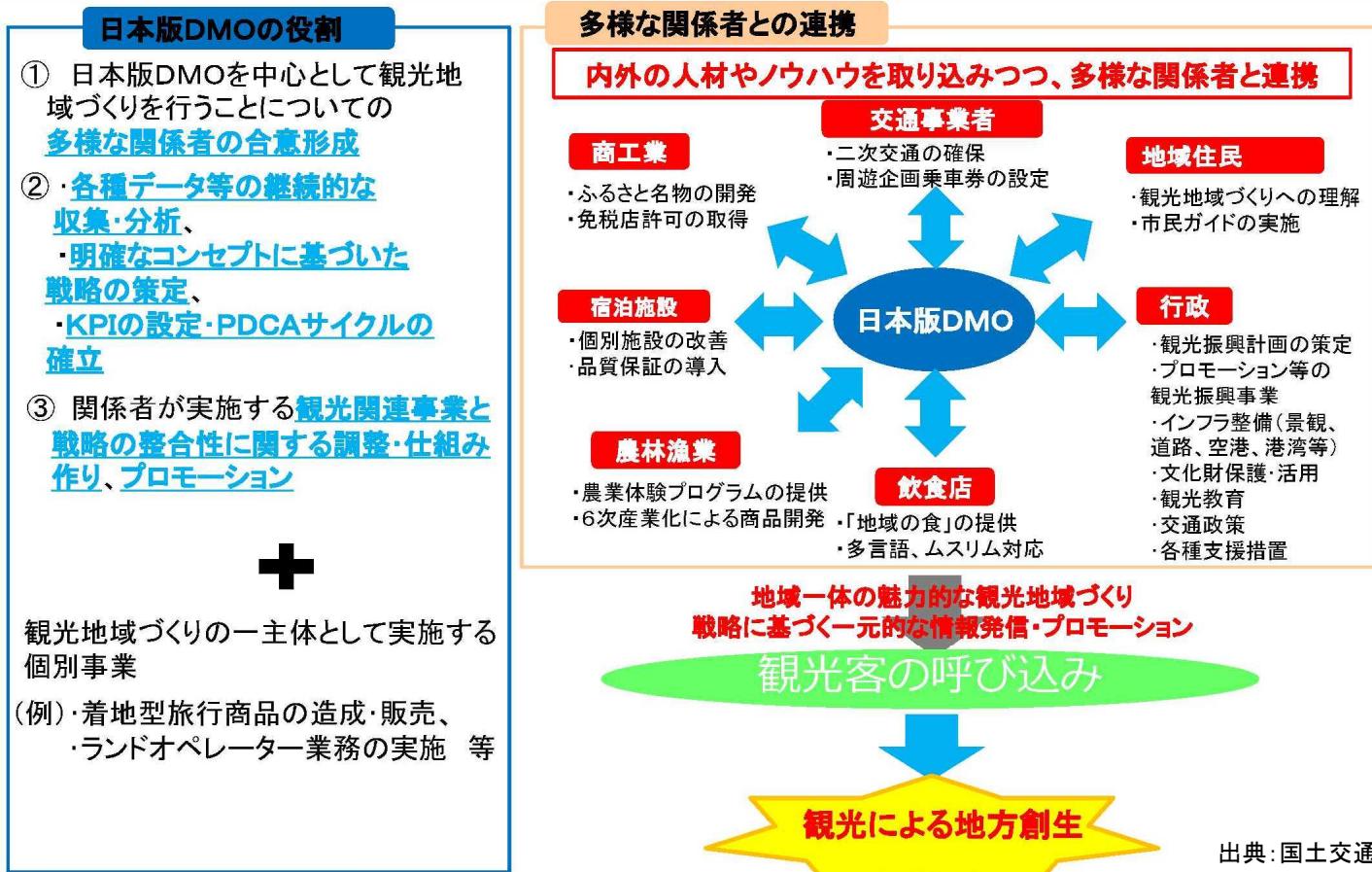
- 「ストレスフリーエリア」を設定し、公共施設等の完全なるストレスフリー化を目指す。



平成29年度、
フリーWi-Fi
環境の整備
を行う釧路川
リバーサイド

- 平成29年11月に観光庁が日本版DMOの第1弾として全国41法人の登録を行い、そのうち釧路観光コンベンション協会(地域連携DMO)、阿寒観光協会まちづくり推進機構(地域DMO)が登録。
- 日本版DMOとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役である。
- 今後は、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を担っていく。

日本版DMOの役割、多様な関係者との連携



釧路は映画やドラマロケ地の宝庫

- 釧路周辺ではこれまで小説、映画、テレビドラマなどのロケが行われており、それらを巡る観光客も増加。
- 特に2008年12月に公開された中国映画「非誠勿擾(フェイチェンウーラオ)」:邦題名「狙った恋の落とし方」は、中国人の北海道人気のきっかけともなり、ロケ地を巡るツアーなども多数催行。
- 釧路総合振興局では、映画等のロケ地情報を提供する「くしロケMAP2012」を制作し、ホームページで公開。

■釧路市及び周辺市町村を舞台とした映画・ドラマ・小説等

| | 作品名 | ロケ地・舞台 |
|-------|---|--------------------------|
| 映画 | 挽歌(1957年) | 釧路市 |
| 映画 | 仔鹿物語(1991年) | 釧路市、標茶町、別海町 |
| コミック | スミレはブルー(2001年) | 釧路市 |
| TVアニメ | ルパン三世 霧のエリューシヴ(2007年) | 浜中町 |
| 映画 | 非誠勿擾(フェイチェンウーラオ) (邦題名:「狙った恋の落とし方」、2008年) | 釧路市、弟子屈町、厚岸町、斜里町、網走市、美幌町 |
| 映画 | 釣りバカ日誌20ファイナル(2009年) | 厚岸町、中標津町、標茶町 |
| 映画 | ハナミズキ(2010年) | 釧路市、白糠町、浦幌町 |
| 映画 | 僕等がいた(2012年) | 釧路市、厚岸町、白糠町 |
| 映画 | 許されざる者(2013年) | 釧路市 |
| 小説 | ホテルローヤル(2013年) | 釧路町 |
| TVドラマ | 硝子の葦(2015年) | 釧路市 |
| 映画 | 起終点駅 ターミナル(2015年) | 釧路市 |
| 映画 | 精霊の守り人(2016年) | 釧路市、根室市 |
| TVドラマ | 氷の轍(2016年) | 釧路市 |



幣舞橋、和商市場、釧路駅など
(桜木紫乃原作の映画・ドラマロケ地)



釧路市阿寒町の阿寒湖温泉
(映画「狙った恋の落とし方」)



出世坂(映画「ハナミズキ」)

4 取組イメージ例④(アニメ・漫画による観光)

＜地域の魅力向上＞

～ 平成29年度は、ルパン三世生誕50周年 ～

○「ルパン三世」の原作者モンキー・パンチ氏の生まれ故郷である浜中町では、2011年から『ルパン三世 はまなか宝島プラン』を通した町おこしを行っている。



出典: 浜中町役場商工観光課HP
<http://www.hamanaka-lupin.com/transportation/>



昨年9月の「ルパン三世フェスティバル2017 in 浜中町」は、ルパン三世原作誕生50周年を記念して開催された。2日目は、「きりたっぷ岬まつり」との同時開催となり、2日間で1万2千人が来場した。

釧路市における移住・定住の取組

- 釧路市では、移住に向けたきっかけづくりとして、避暑等を目的とした長期滞在事業を推進。
- 北海道体験移住「ちょっと暮らし」の平成28年度実績において、平成23年度から6年連続での全道第1位。
- 地元の不動産やホテル、観光・交通事業者などで組織した「くしろ長期滞在ビジネス研究会(事務局:市)」で、長期滞在を希望する人の受け入れを積極的に行っている他、滞在中に参加できる様々な交流事業を実施。

釧路での長期滞在（ちょっと暮らし）

- マンスリーマンション、ホテルのほか、介護福祉施設でも受け入れを行っている。
- HPやパンフレット等で、物件や暮らしの情報を丁寧に提供。



| 順位 | 利用者数 | 順位 | 滞在日数 |
|----|-------|--------|----------------|
| 1 | 釧路市 | 1,311人 | 1 釧路市 22,105日 |
| 2 | 登別市 | 190人 | 2 浦河町 5,333日 |
| 3 | 上士幌町 | 151人 | 3 新ひだか町 3,167日 |
| 4 | 浦河町 | 120人 | 4 美瑛町 2,480日 |
| 5 | 中標津町 | 84人 | 5 上士幌町 2,398日 |
| 6 | 東川町 | 72人 | 6 根室市 2,191日 |
| 7 | 栗山町 | 71人 | 7 日高町 2,103日 |
| 8 | 根室市 | 69人 | 8 登別市 2,017日 |
| 9 | 美瑛町 | 61人 | 9 旭川市 1,934日 |
| 10 | 新ひだか町 | 60人 | 10 中標津町 1,864日 |

(出典)北海道体験移住「ちょっと暮らし」平成28年度実績(北海道)

コワーキングスペース

- くしろ長期滞在ビジネス研究会では、働く世代の滞在を促進するため、コワーキングスペース等の利用料の一部助成を実施。



交流事業

- 滞在を充実したものとしていただくため、イベントへの参加や地域の歴史や文化等を学ぶ講座を実施。



4 取組イメージ例③7(地域防災力向上) <安全・安心な社会基盤の形成>

地域の災害対応力の強化

- 釧路開発建設部では、河川・港湾・道路などの各事業部門において被害軽減施設等の整備を実施。
- 市町村との役割分担を行い、防災情報の共有化等の連携強化を図っている。

河川の取組



【市町村や河川利用者に情報提供】



情報掲示板による河川利用者への情報提供

港湾の取組



耐震旅客船ターミナル



道路の取組

【道路情報板への津波情報の提供】

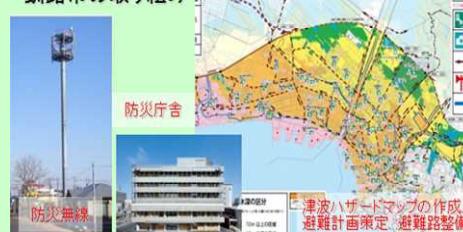


津波の注意喚起看板の設置



釧路市・釧路町の取組例

釧路市の取り組み



釧路町の取り組み

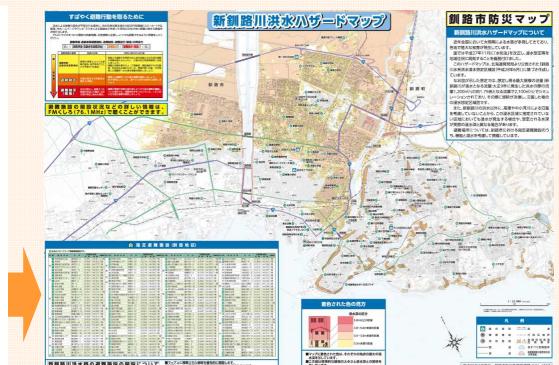
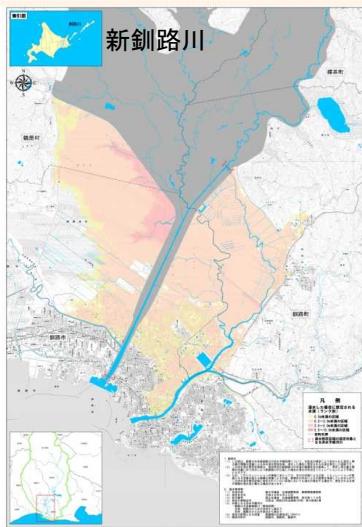


- 釧路外環状道路に面した広域避難場所(防災公園)を整備

地域の災害対応力の強化

- 想定最大規模の降雨に対応した浸水想定区域を基に、市町村が洪水ハザードマップを作成・公表するとともに、関係機関と連携した洪水、地震・津波対策に関する訓練、啓蒙活動や教育を実施するなど地域の災害対応力を強化している。

想定最大規模の洪水に対応した洪水ハザードマップ(※1)作成



↑ 新釧路川（国管理区間）の洪水浸水想定区域図公表を受け、釧路市ではハザードマップを作成
(平成29年3月公表 (釧路市)) ※1

↑ 想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域※2
(平成28年6月公表 (新釧路川・釧路川：国管理区間))

市町村が想定最大規模の浸水想定区域に対応した洪水ハザードマップを作成

※1 「洪水ハザードマップ」とは、洪水浸水想定区域図に避難場所やその他必要事項を掲載した地図。

※2 「洪水浸水想定区域」とは、想定最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域であり、浸水深、浸水継続時間等と併せて公表している。

防災訓練、防災教育等の実施

- 釧路市と河川管理者（国）が連携し初めての「洪水避難訓練」を実施（平成29年10月）



○小・中学校の先生を対象とした川の防災教育(平成29年8月)



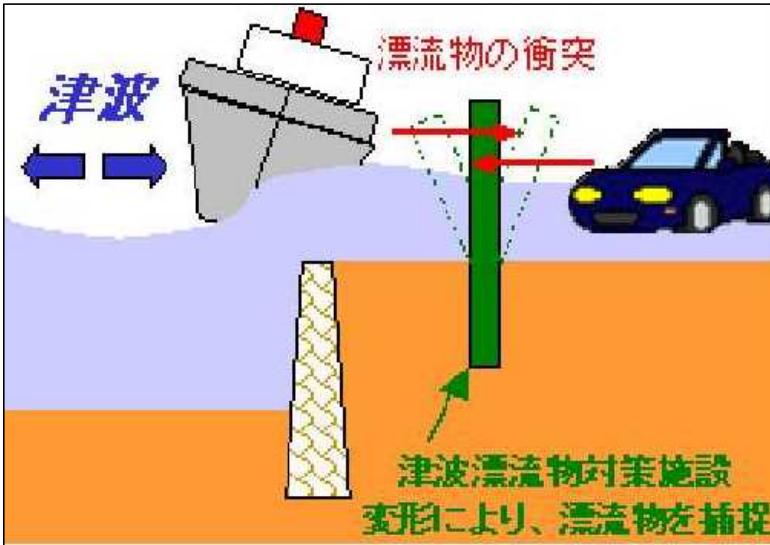
○避難所運営ゲーム（D○ハグ）の実施（釧路町）

4 取組イメージ例③9(地域防災力向上:港湾)

- 津波漂流物対策施設は、津波そのものを防御するのではなく、漂流物を捕捉し、漂流物の衝突・散乱による被害の拡大を防ぐ新しい発想の減災技術。
- 釧路港で整備された津波漂流物対策施設は、イメージのクジラの意味を感じ取れる「クーたん」と地元小学生により命名されて親しみが持たれている。



津波漂流物による被害の例（北海道南西沖地震時）



津波漂流物対策施設の機能イメージ



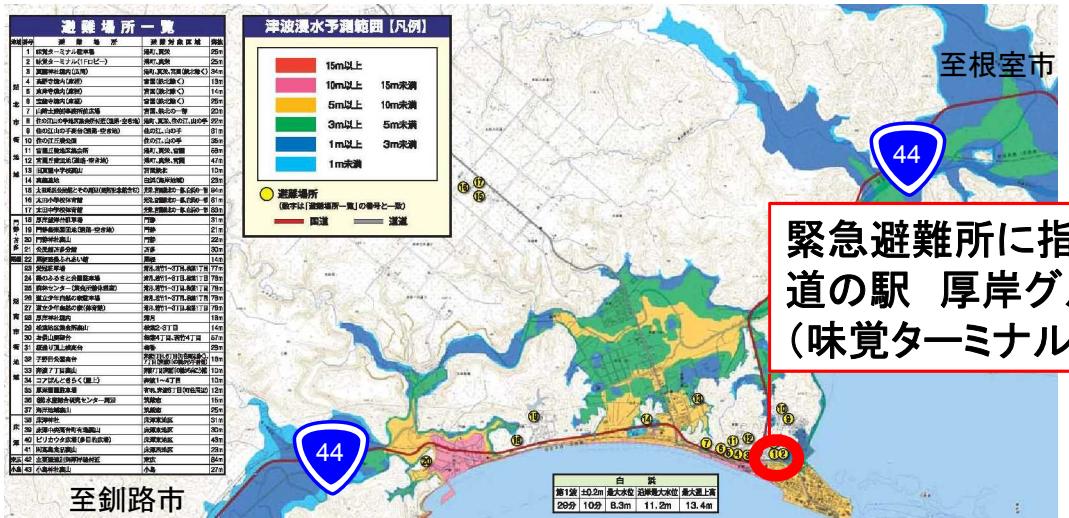
津波漂流物による被害の例（北海道南西沖地震時）



津波漂流物対策施設（釧路港）

- 厚岸町を通過する国道44号は、一部の区間が津波浸水予測区域内に含まれるため、厚岸町地域防災計画では「道の駅 厚岸グルメパーク:以下(同駅)」を、津波時の緊急避難場所に位置付けている。
- 同駅は、津波時の避難場所としてだけでは無く、災害時において同駅を拠点とし、様々な避難者の受入や情報提供等ができるように、厚岸町と釧路開発建設部が互いに連携して同駅を防災拠点化し、必要となる防災資機材等の整備を実施している。

○厚岸町における津波浸水予測図(H25.3)



緊急避難所に指定された
道の駅 厚岸グルメパーク
(味覚ターミナル・コンキリエ)

○道内の防災拠点化された道の駅の活用事例(H25.3地吹雪)



国道39号 メルヘンの丘めまんべつ

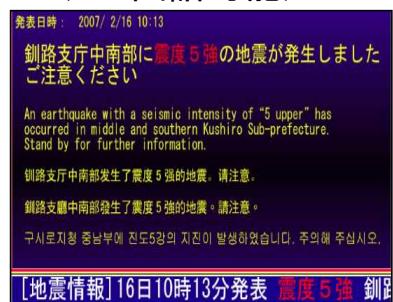
- ・避難台数 約150台、避難人数 約130人
- ・大空町が臨時の避難所として、「道の駅」施設内(和室、研修室、ロビー)を開放
- ・役場の防災倉庫から、非常食のアルファ米150食と毛布300枚を持ち込み、避難者に提供
- ・道路管理者として、通行止めや現地情報等の提供や災害用トイレ、発動発電機、バルーンライト等の防災資機材を活用

○防災資機材整備例



○情報提供施設(訪日外国人対応)

- ①大型モニターによる気象情報
- ②災害対応型自動販売機(英語表記可能)



地域の災害対応力の強化

- 積雪結氷時の地震・津波などの複合的な冬期災害の発生に備え、関係機関との連携強化に向けた取組が進められている。

釧路市強靭化計画有識者懇談会(釧路市)

- 釧路市は、釧路市強靭化計画の策定に当たり、学識経験を有する者等から幅広く意見を聴取するため、釧路市強靭化計画有識者懇談会を実施している。



釧路・根室地域の関係機関を対象としたセミナーの開催 (主催:北海道開発局 釧路開発建設部)

- 北海道特有の冬の水災害リスク、釧路地方の災害の動向、最先端の防災に関する取組として全国で注目されているタイムラインの実践的な知見について講演。

件名:防災セミナーin釧路

日時:平成30年2月1日 14:00~17:45

場所:釧路地方合同庁舎

参加:釧路総合振興局、根室振興局、釧路・根室管内市町村、警察、消防、釧路ガス、北電釧路支店、釧路地方気象台、陸上自衛隊、釧路海上保安部、釧路建設業協会(建設会社)、北海道開発局 等 約100名

冬期の避難訓練(釧路市・釧路町)

<釧路市>

- 釧路市津波避難(厳冬期)訓練を実施
(平成30年1月11日)

訓練の様子 (釧路市)



<釧路町>

- 冬期避難所体験を釧路東高校で開催
(平成30年1月20~21日)



北海道開発局の自治体支援事例



TEC-FORCEによる町道の被災状況調査
2016/9 芽室町



海水を排出する排水ポンプ車
2011/4 宮城県 東松前市



役場の通信を確保する衛星通信車
2011/4 岩手県 田野畠村



避難所へ給電支援する照明車
2012/11 登別市



救助車を先導する除雪車
2015/2 標津町



避難所へ毛布を届ける開発局職員
2012/11 登別市

雪害・暴風雪を踏まえた新たな取組

- 北海道開発局は、暴風雪時の運転に対する心構えをまとめたパンフレットの作成・配布や、出前講座・講演会の実施により、一般ユーザーへ注意を呼びかける取組を実施。
- 災害対策基本法に基づき、建設機械等の貸付を、各種会議等で広く周知を行い活用の拡大を推進する取組を実施している。



○建設機械等の地方公共団体への貸付



- ・ロータリ除雪車の貸与
(根室市)
H26.2.19～24(6日間)
- ・除雪ドーザの貸与
(大空町)
H26.3.5～7(3日間)

冬期防災訓練

- 北海道開発局では大規模な雪害が発生した際の災害対応における連携と情報共有を強化するため、関係機関と連携した防災訓練を継続して実施。

【関係機関との連携強化】

平成29年1月16日、自衛隊による救援活動を取り入れた訓練を実施し、関係機関との災害対応の連携を強化。(小樽開発建設部)



関係機関を除雪車で先導する訓練状況



立ち往生車両から救助する訓練状況



救急車による搬送の訓練状況



車両移動の訓練状況

暴風雪災害に伴う車両の移動に関する掲示

4 取組イメージ例④(地域防災力向上:津波①)

<安全・安心な社会基盤の形成>



地域の災害対応力の強化

- 北海道が検討した最大クラスの津波浸水予想図により、各市町村が想定される浸水範囲と深さのほか、避難路と緊急避難場所等の情報を掲載した津波ハザードマップを作成・公表し、地域の災害対応力を強化している。

津波浸水予測図 対象津波予報区での想定された津波(地震)における津波浸水被害の状況を予測した図 (出典: 北海道防災情報HP)



津波ハザードマップ 想定される浸水範囲と深さのほか、避難路と緊急避難場所等の情報を掲載 (出典: 各市町HP)



取組事例

- ・釧路市地域防災計画
- ・釧路市防災メール配信サービス
- ・防災庁舎、学習施設釧路市民防災センターの整備 など



取組事例

- ・白糠町地域防災計画
- ・白糠町防災訓練
- ・防災情報出前講座 など



取組事例

- ・釧路町地域防災計画
- ・総合防災訓練
- ・広報や町HPでの情報提供 など



取組事例

- ・災害対策本部機能の強化
- ・津波避難段階の整備
- ・各種防災講座の実施 など



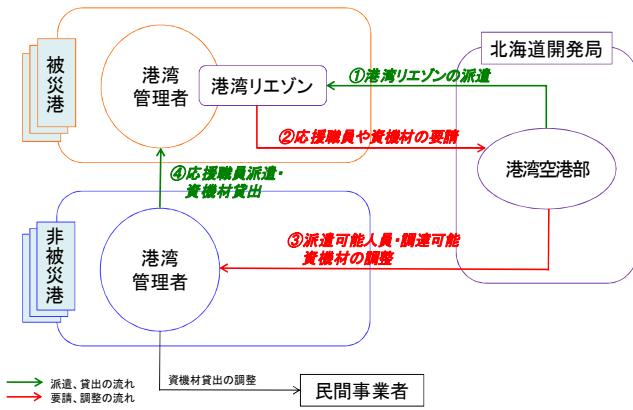
取組事例

- ・浜中町地域防災計画
- ・全国初 津波防災エクシジョン整備
- ・高台に防災機能を集約した新庁舎の移転計画 など

冬期太平洋側港湾の防災連携

- 北海道開発局では、大規模災害が発生した際ににおいても港湾物流機能を確保するため、広域的な航路啓開の進め方、応援職員の派遣や資機材の貸出、他港を利用した代替輸送に関し太平洋側港湾の港湾管理者と連携し、港湾機能を維持していくための措置に取り組んでいる。
- 災害発生時において、北海道太平洋側港湾が総体として継続的な物流機能を確保・発揮することができるよう、平成28年4月に北海道太平洋側港湾BCPが策定されている。

大規模災害発生時の太平洋側港湾相互連携イメージ



・北海道太平洋側港湾BCPの内容

①太平洋側港湾の航路啓開の進め方

(広域的な航路啓開を実施するため各種情報を連携本部(北海道開発局)が集約し、優先啓開港を決定する 等)

②応援職員の派遣や資機材の貸出

(被災港の港湾管理者へ港湾機能確保に係る情報を収集する「港湾リエゾン」の派遣や、非被災港から被災港へ応援職員の派遣や資機材の貸出等)

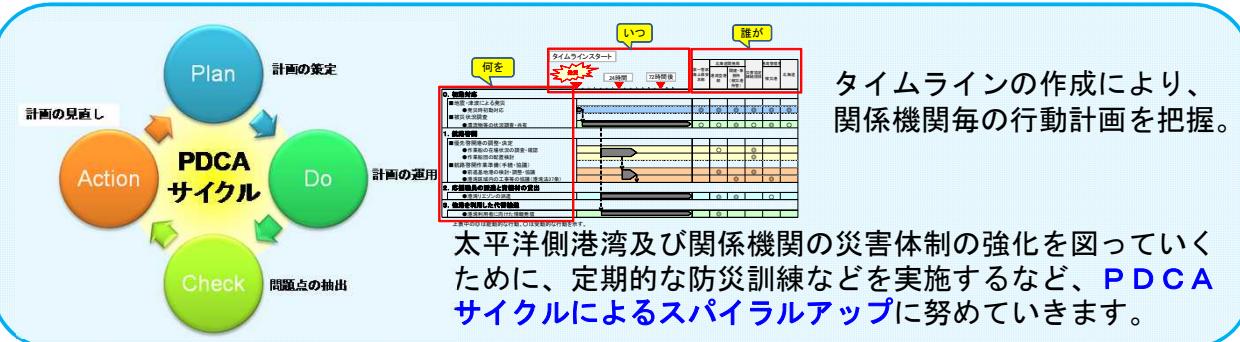
③港湾の利用が困難な場合における他港を利用した代替輸送

(被災港及び非被災港の各種情報を連携本部(北海道開発局)に集約し、一元的に発信 等)

→平成28年11月に太平洋側6港湾と開発局で
「災害時における相互応援協定」が締結され
人的支援などに関する実効性が担保。



太平洋側港湾連携による災害時における相互応援に関する協定



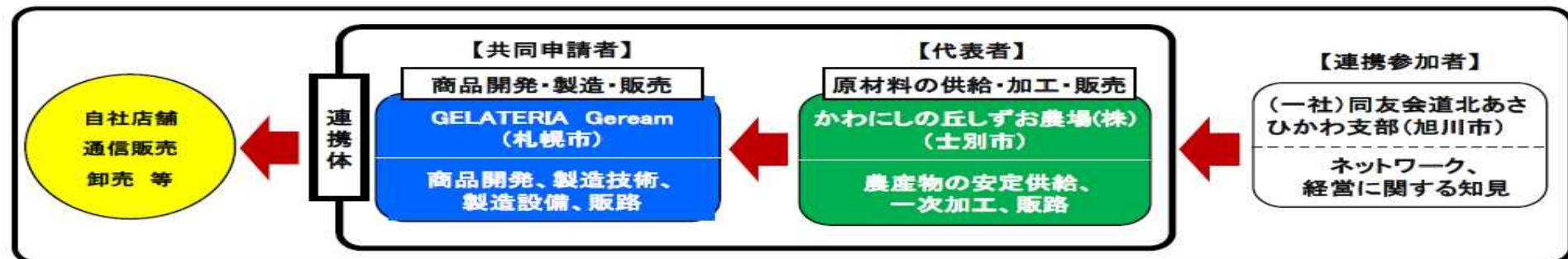
5

他の地域の取組事例

(参考資料) 他地域の事例

フルーツほおづきの特産品化 (士別市)

士別市の「かわにしの丘しずお農場」は、札幌市のジェラート専門店と連携し、農場で栽培しているフルーツほおづきなど道北の食材を使用した特産品を開発し、共同ブランドの構築による競争力強化、販路開拓を進めている。



資料: 経済産業省資料 (http://www.hkd.meti.go.jp/hoksn/h29noshoko_n1/h29_1st_02.pdf)

VIVAマルシェの法人化 (剣淵町)

剣淵町の若手生産者が組織した「VIVAマルシェ」は、トマト、ばれいしょ、かぼちゃなど約300種類の少量多品種を生産。軽トラックの荷台に積んで持ち寄り販売する「軽トラマルシェ」などを通じて消費者と直接交流を図り、地産地消や地域の活性化にも貢献。さらなる活動の充実へ向け、今年2月にけんぶち産加工研究会と合流して法人化。

【軽トラマルシェ】



【VIVAマルシェメンバー】



写真出典: VIVAマルシェHP (<http://vivamarche.com/>)

チョウザメ飼育研究施設の建設 (美深町)

チョウザメを活用した新たな産業創出に取り組んでいる美深町では、今年度、飼育研究施設の建設に着手。新たな施設の稼動により、魚肉やキャビアの安定生産を目指し、育成や生態の研究・販売戦略の検討など産学官の連携により特産品として定着させ、関連産業の雇用拡大を図ることが期待される。

【美深産チョウザメを使った料理例】



【札幌市内ホテルでの市場調査】



資料: 美深町地域資源ブランド化事業調査 (美深町・平成28年度)

フードバレーとかちの取組

○十勝では特性・優位性や蓄積されてきた産業基盤を活用し、オール十勝で「食」と「農林漁業」を柱とした地域産業政策「フードバレーとかち」が推進されています。



組織概要

| | |
|-----|--|
| 名称 | フードバレーとかち推進協議会 |
| 所在地 | 〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地 帯広市産業連携室内 TEL: 0155-65-4163 FAX: 0155-25-8254 |
| 目的 | 「食」と「農林漁業」を柱とした地域産業政策「フードバレーとかち」を推進し、産業の振興を十勝全体で図ることを目的とする。 |
| 事業 | (1) 農林漁業者、企業、団体等に対する相談支援 (2) その他、本会の目的を達成するために必要な事項 |
| 規約 | フードバレーとかち推進協議会 規約PDFファイル |

出典:フードバレーとかち推進協議会HP

フードバレーとかち推進協議会

協議会の構成

農林漁業団体

十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝地区森林組合振興会
十勝管内漁業協同組合長会

商工業団体

帯広商工会議所
北海道十勝管内商工会連合会
帯広物産協会
北海道中小企業団体中央会十勝支部
北海道中小企業家同友会とかち支部
十勝観光連盟

大学・試験研究機関

帯広畜産大学
北海道農業研究センター(芽室研究拠点)
家畜改良センター十勝牧場
北海道立総合研究機構十勝農業試験場
北海道立総合研究機構畜産試験場
公益財団法人とかち財団

金融機関

帯広銀行協会
日本政策金融公庫帯広支店
帯広信用金庫

行政機関

帯広開発建設部
十勝総合振興局
十勝町村会
帯広市
音更町
士幌町
上士幌町
鹿追町
新得町
清水町
芽室町
中札内村
更別村
大樹町
広尾町
幕別町
池田町
豊頃町
本別町
足寄町
陸別町
浦幌町

「貨客混載」の実証実験の取組

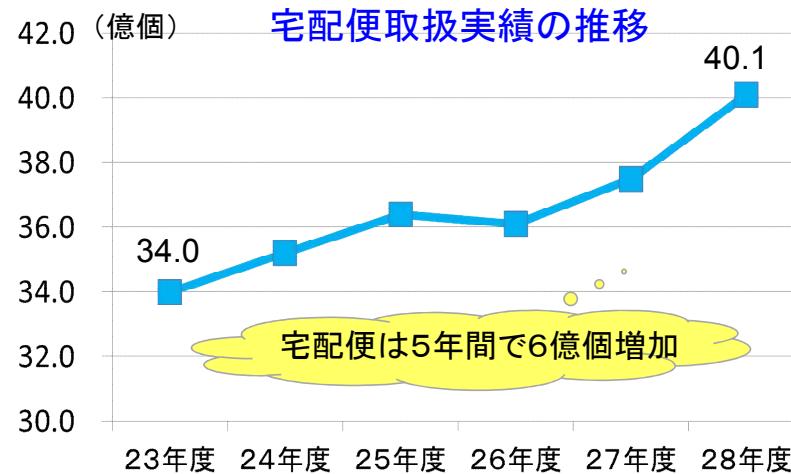
- 過疎地域における交通ネットワークの生産性向上、物流ネットワークの効率化を図る方策として、平成28年度、路線バス車両で人と物を同時に輸送する「貨客混載」の実証実験を行い、本格運行へ。
- 路線バスの空席スペースを活用し、宅配貨物の物流サービスを提供するシステムを構築。

背景

- ◆ 路線バスの利用者減少
- ◆ 過疎化の進行による物流サービスの非効率
- ◆ トラック運転者の不足

目的

- ◆ 路線バスの収益確保
- ◆ 物流サービスの維持
- ◆ CO2削減などの環境保全



実証実験に続き本格運行 (平成28年度～)

[道北地区] 3路線・名士バス(株)・士別軌道(株)
[十勝地区] 1路線・十勝バス(株)

平成29年度から本格運行

[空知地区] 6路線・空知中央バス(株)
[宗谷地区] 1路線・沿岸バス(株)
[林-ツク地区] 1路線・北紋バス(株)
[旭川地区] 1路線・旭川中央ハイヤー(株)
[北見地区] 1路線・北海道北見バス(株)



※バス車両の改造は行わない



※その他路線においても運行開始に向け調整中

乗合タクシー（区域乗合）を利用した貨客混載輸送

- 乗合タクシーを利用した旅客と貨物・同時輸送による生産性向上
- 輸送の効率化によるトラック運転者不足の解消
- CO₂排出量削減などの環境保全効果



事業概要

【導入事業者】

乗合タクシー事業者: 旭川中央ハイヤー株式会社
《一般乗合旅客自動車運送事業者(区域乗合)》

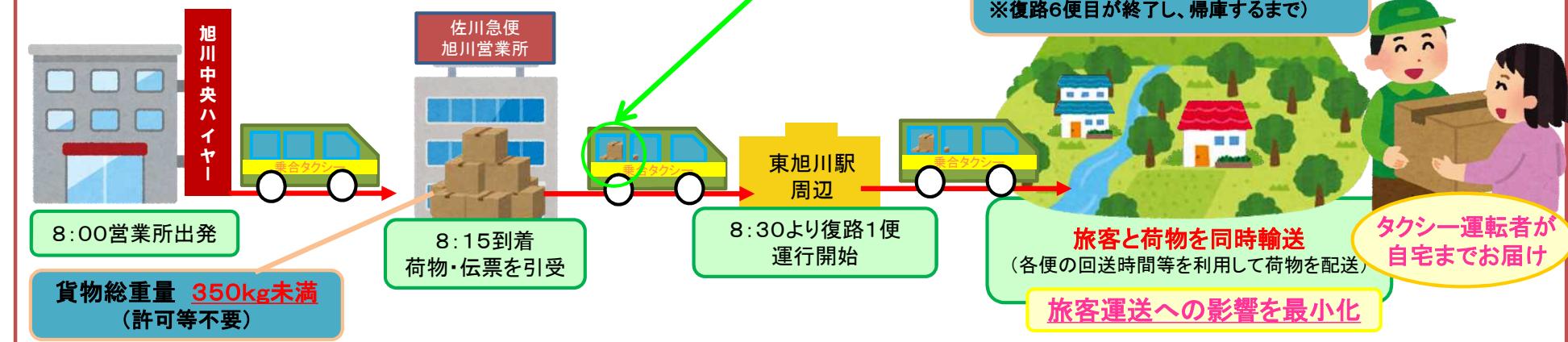
物流事業者: 佐川急便株式会社

【導入路線】

旭川市 米飯地域

【開始時期】

平成29年11月1日



導入に向けて

- 物流事業者・乗合タクシー事業者・自治体との連携・協力体制の確立
- 事業開始に向けた関係者間の調整(打合せ・現車確認等 計11回)
- 地域住民への周知(住民説明会 10月4日)

士別市 貨客混載バスを活用した買物支援

- 平成28年度より、全国一人口密度の低い北海道において、路線バスの改造を行わず低廉な費用で実施できる貨客混載システムを導入。
- 過疎地域における高齢化の深刻さを踏まえ、買物弱者に対するサポートのあり方を検討することが必要。
- 士別市朝日地区で運用されている貨客混載バスを活用した「買物支援サービス」の実証実験を行い、更なる交通ネットワークと物流ネットワークの生産性向上へ。

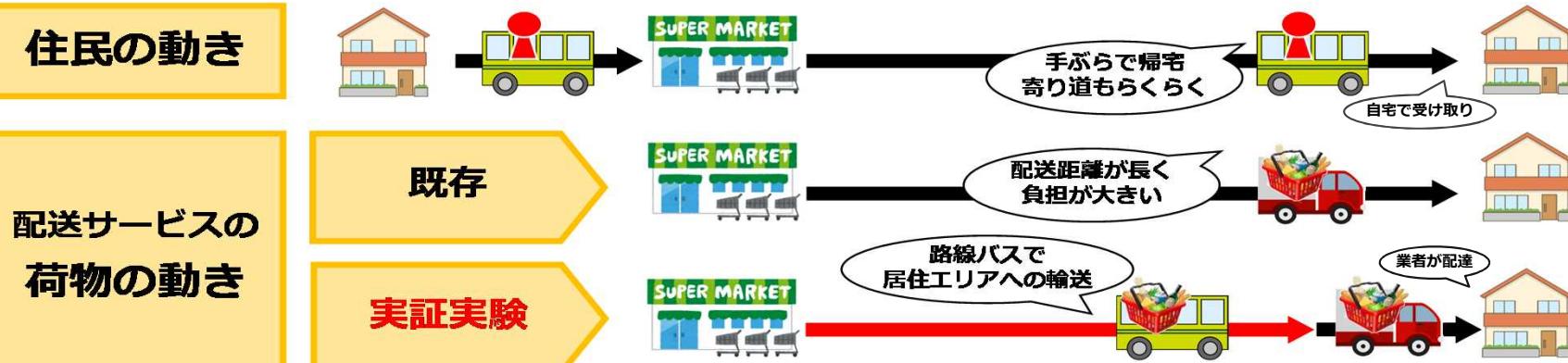
目的

- ◆ 貨客混載バスの収益確保 → 持続可能な地域公共交通の確保
- ◆ 地域の買物利便性確保 → 経済活性化及び定住環境の確保

実証実験までの流れ

- ◆ 実証実験を実施するにあたり、事業者、地域関係者による検討会を開催。
第1回検討会(29年10月10日開催済)～事業概要の説明等
第2回検討会(30年2月6日に開催済)～実証実験スキームの検討等

実証実験イメージ



実施時期等

- ◆ 実施時期: 平成30年2月
- ◆ 実施対象: 士別市朝日地区住民(士別軌道の貨客混載バスを活用)

路線バスの再生 十勝バスの取組

○地道な営業活動により、平成23年度の利用者が40年ぶりに増加(全国初)、その取組は複数の報道で紹介されたほか、ミュージカルになるなど、全国的な発進力を持つ事例となっている。



十勝バスの取組は、国際交通安全学会賞等を受賞、また全国の地方路線バス事業者が視察にくるなど注目されています。

- バス沿線の住宅訪問によるヒアリング
- バスの乗り方を説明した「おびひろバスマップ」を市内全世帯に配付
- 「あいさつ強化月間」を位置付け接客サービスを向上
- 目的別時刻表、対象者を絞った情報発信の強化



十勝バスの取組は奇跡の物語として、TEAM NACSのリーダー森崎博之が主演し、ミュージカルとして公演されました。

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

- 国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する取組を実施している。
- 地域公募により、道の駅「コスモール大樹」が実証実験実施箇所に選定され、以下をねらいとする実験を行う。
 - ・生産空間を維持するための高齢者や交通弱者の生活の足の確保、地元農産品や加工品の輸送効率化・販路拡大
 - ・宇宙のまちづくり(観光活性化)に資する来訪客のスムーズな移動の確保
 - ・積雪寒冷地においても利用できる自動運転の実現
- 実証実験走行により、①道路交通、②地域環境、③コスト、④社会受容性、⑤地域への効果を検証する。

大樹町:道の駅「コスモール大樹」

<サービスイメージ>



<実験時期> 平成29年12月10日～16日

<車両>



「レベル4」 (専用空間) +
「レベル2」 (混在交通 (公道))

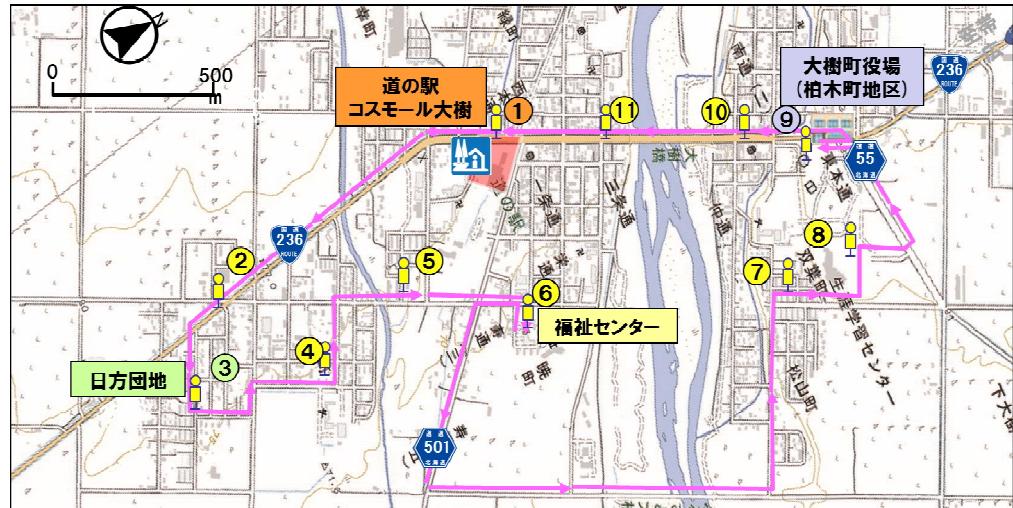
「路車連携型」技術

GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより
自車位置を特定して、既定のルートを走行

定員： 20人

速度： 35 km/h 程度

<走行ルート>



- 平成29年12月10日(日)、実験開始式を地域の方や関係者あわせて約50名出席のもと開催。
- 平成29年12月11日(月)～16日(土)、北海道内において冬期の積雪条件下では初めてとなる実証実験を実施し、モニターとして大樹町民等、約120名が乗車。

<実験開始式>

「式典風景」



「テープカット」



「実験車両試乗走行」



<実験実施状況>

「道路・交通」の検証

(自動運転に必要となる道路の管理水準)



除排雪や凍結防止剤の散布

「地域環境」の検証

(通信条件)



GPS受信感度の状況

「地域への効果」の検証

(円滑な地域内物流の支援)



道の駅から住宅への商品等の配送

宇宙のまちづくり推進事業 (H28～H30) 大樹町

- 大樹町は太平洋に面しており、東と南に海が開け、平坦な地形が約30kmも続くなど、ロケット打上げや航空機・宇宙機のライトセンターに適した世界有数の地勢を有していることから、多目的航空公園を整備し、「宇宙のまちづくり」を進めている。
- これまでの取組を基礎に、「宇宙のまちづくり」を継続させ、多目的航空公園の機能拡充により更なる企業・実験等を誘致し、航空宇宙産業を核とした、観光産業・地域商工業の活性化、新たな分野での雇用の創出、移住定住の促進、交流人口の拡大など、横の展開を進め、町の活性化を図っている。

1 多目的航空公園を活用した地域活性化策・施設整備検討調査環境影響調査

- H28 アンケート調査、文献調査、施設整備検討
- H29 現地調査、配置検討・立案など
- H30 滑走路延長、射場設計、環境影響評価



2 宇宙のまちづくりを核とした観光振興戦略策定

- H28 アンケート調査、検討会議、セミナーワークショップ
- H29 モニターツアー、地域プロモーション
- H30 プロモーションの拡大、流通チャンネルの構築



宇宙のまちづくり拠点整備事業

- 地方創生拠点整備事業(H28)SORAの拡充、展示充実、体験学習フィールド



資料:大樹町

3 テレワークを活用した地域活性化に関する調査検討

- H28 課題整理、ニーズ調査、施策メニュー検討
- H29 宇宙関連を含めたターゲット企業の選定、モニター受入環境整備、実証実験
- H30 本格運用(直営)



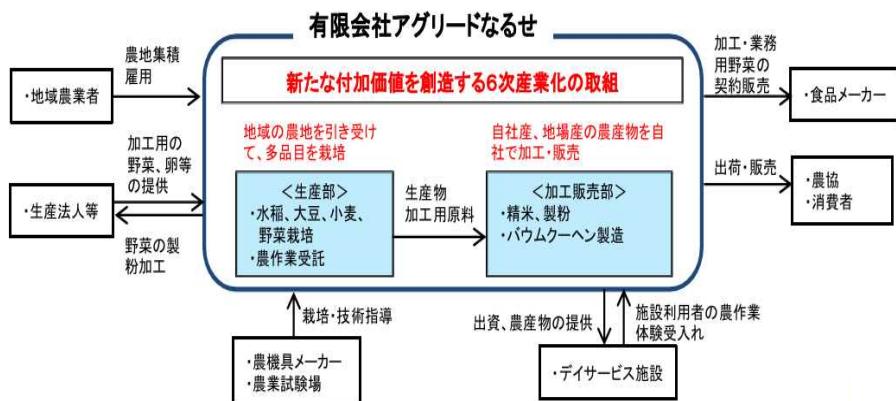
4 スペーススクール、講演会開催

- H29 スペーススクール開催(JAXA事業から町の事業へ)、講演会
- H30 スペーススクール開催、講演会、先進地視察など



新たな付加価値を創造し地域と共に発展する経営体 有限会社アグリードなるせ（宮城県東松島市）

- ・地域農業の受け皿となる組織を目指し、米・大豆等の土地利用型作物の生産を中心とした法人を平成18年に設立。
- ・実需者との連携による園芸作物の生産・販売、地域の農業者等との協力による自社産・地場産農産物を活用した加工品の開発・販売により、収益性の向上、通年雇用を実現。
- ・ディサービス施設への給食用食材の継続的供給や、同施設からの農作業体験受入れに取り組む。



出典:6次産業化取組事例集(29.2)、農林水産省

JAと道の駅の連携による食を通じた 地域貢献（美幌町）

- ・農産物のブランド化と地産地消を進めたいJAと地域の特産物が欲しい道の駅が連携し、地域住民や観光客に愛される商品づくりを企画。
- ・町内の製麺業者と連携して、地元産小麦を使ったラーメンの開発を開始。1年間で約35,000食を販売するなどし、生産者が自主的に良質麦生産のための講習会を開催するなど、生産意欲の向上につながった。



道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」

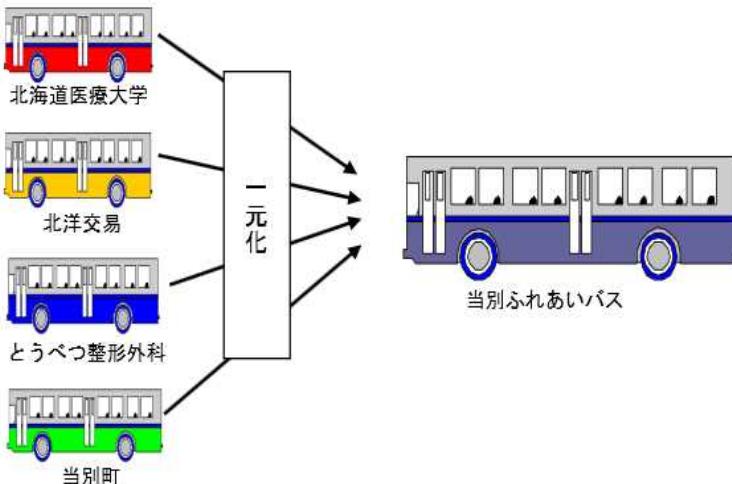
美幌小麦中太ちぢれ麺

出典:6次産業化取組事例集(29.2)、農林水産省

5 他地域の取組事例(その他)

官民共同運行コミュニティバス（当別町）

- 南北に細長く、二つの市街地の周りに広大な農地と住宅が点在している当別町では、乗り合いバスが2路線のみで総合的なバス路線が存在していなかった。
- そこで、公共交通課題解消のため、町内で独自的に運行していた官民4事業者を一元化し、「当別ふれあいバス」として平成18年より実証運行事業を実施。
- 平成19年度からは公共交通活性化協議会を設置し、全国的にも例がない「官民共同による運行」として運行している。
- 利用促進に向け、利用感謝ツアー等のイベント、モビリティマネジメントの実施、認知度を高めるため交通マップの作成やニュースレターの定期発行等に取り組んでいる。

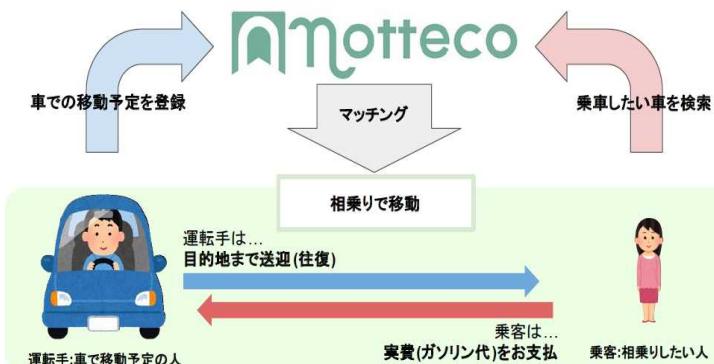


出典:当別町「当別町地域公共交通総合連携計画」

住民マイカーによるライドシェア（天塩町）

- 天塩町では、生活圏である稚内まで約70km離れており、車での移動は約1時間であるものの、直通の公共交通手段がなく、バス・電車を乗り継いで2時間以上を要し、自家用車がない町民は買い物や通院に不便をきたしていた。
- そこで、天塩～稚内間を自家用車で移動する者と、それに乗りたい者をマッチングさせ、ガソリン代等の移動にかかる費用を割り勘するコストシェア型のライドシェアを平成29年3月から実証実験を実施

相乗りマッチングサービス「notteco(のってこ)」
を通した相乗りでの移動促進



出典:株式会社notteco資料

なかとんべつライドシェア（相乗り）事業実証実験（中頓別町）

- 中頓別町では、ボランティア町民ドライバーの自家用車を利用したライドシェアの実証実験「なかとんべつライドシェア」を平成28年8月24日より実施。
- 利用者はスマホアプリ「Uber」や電話で車を手配できる。
- 実証試験を踏まえて利用者が実費分を負担することとしている。

スマホアプリ「Uber」の活用

1 車を呼びたい方は、

(1) スマホアプリから呼ぶ。

- スマートフォンやタブレットを用意します。
- ウーバー(Uber)アプリをインストールします。
- アプリから簡単な操作で配車の手配は完了です。

利用時間 365日 8:00頃～24:00頃を予定(ただし、場合によっては配車できないこともあります。)

(2) 役場に連絡をして呼んでもらう。

ライドシェア配車受付専用ダイヤル

にご連絡下さい。

* アプリのインストール方法がわからない方も、こちらへお電話下さい。

2

乗車の依頼がご依頼人の1番近くにいるドライバーさんに届きます。マッチングしたらドライバーさんがマイカーでお迎えに行きます。

3

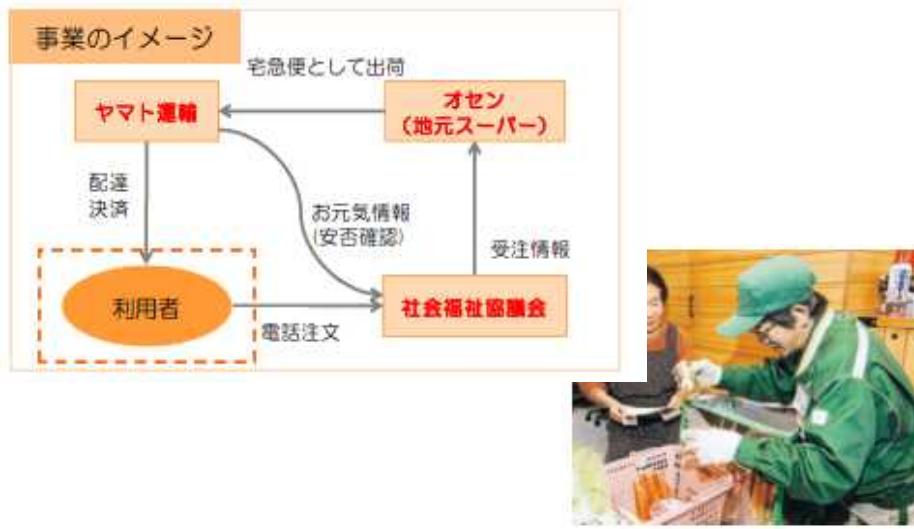
依頼人が乗車したら、あとは目的地に向かって発進!



<生活機能・集落機能の確保>

地元スーパーと宅配業者、社会福祉協議会の協働による「まごころ宅急便」(岩手県西和賀町)

- 高齢化率43%の豪雪地帯である西和賀町では、数年前に町内の移動販売が廃止。隣の秋田県から巡回してくる移動販売の停留所まで、山道を3km歩く高齢者もいた。
- そこで、始まったのが「まごころ宅急便」。登録された高齢者から町社会福祉協議会が電話で注文を受け、地元スーパーに商品準備を依頼。商品はヤマト運輸が高齢者宅まで配達する上、1人暮らし高齢者の安否を確認し社会福祉協議会に連絡。
- 過疎地に住む者の買い物を支援することで、その地域に住み続けたいという思いを支えるとともに、近隣の高齢者が宅配到着時に寄り合い、商品を分け合う「買い物待ちサロン」もできている。

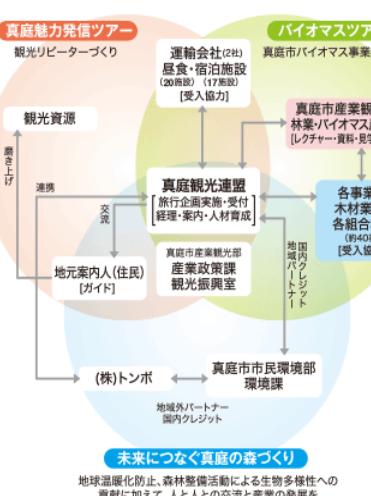


<地域の魅力向上>

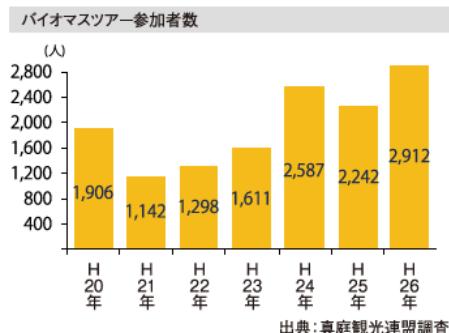
農林水産業と観光の連携 (岡山県真庭市)

- 面積の約79%を森林が占める真庭市では、市外からの視察に対応するために、平成18年に「バイオマスツアーマチ」を開始。
- 「顔の見える産業観光」をコンセプトに、技術的な側面からだけでなく、暮らしの中でのバイオマス資源がどのように利活用されているか、バイオマスの地域内循環そのものをトータルに知ることが可能。
- 視察者と真庭住民の交流が相互の新たな発見となるツアーマチを目指し民間と行政が連携して取り組み、これまで専門家から環境に興味のある人、地域づくり団体まで幅広い者が来訪。

2012年からの運営体制



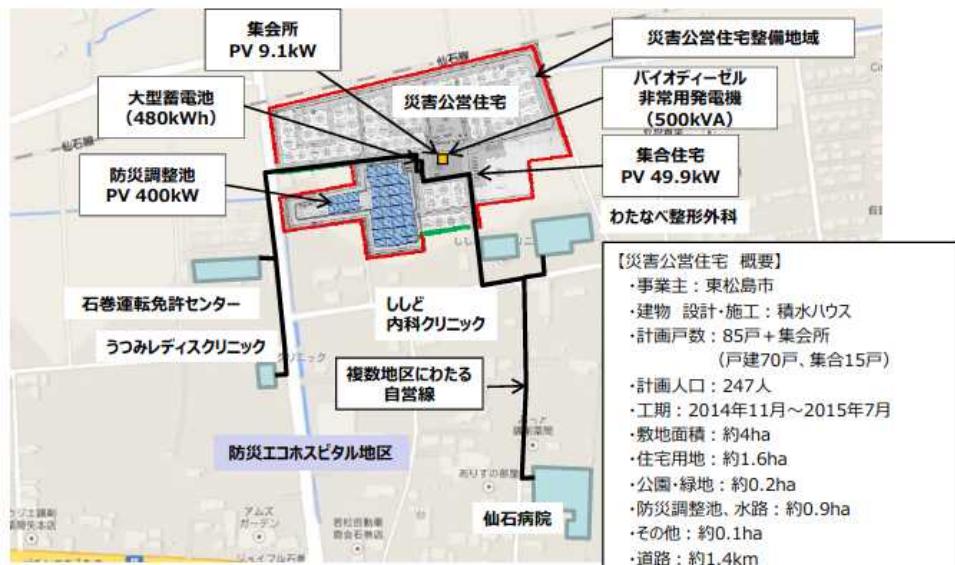
出典:真庭観光連盟HP



スマート防災エコタウン（宮城県東松島市）

- 東日本大震災からの復興計画で、安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指す東松島市では、日本初のマイクログリッド（※）により、電力を供給する電力マネジメントシステムを平成28年6月から稼働。
- 平時には太陽光発電の発電電力を、自営線によりエリア内の災害公営住宅85戸と周辺の4つの病院や公共施設に最適制御しながら供給。
- 系統電力が遮断した場合にも、タウン系統内のバイオディーゼル非常用発電機と太陽光発電、大型蓄電池を組み合わせ、最低3日間は通常の電力供給が可能。

※既存の発電所からの電力にほとんど依存しない、エネルギー供給源と消費施設をもつ小規模なエネルギーネットワーク



インフラメンテナンス国民会議

- 「インフラメンテナンス国民会議」は、社会全体でインフラメンテナンスに取り組む機運を高め、未来世代によりよいインフラを引き継ぐべく、産学官民が有する技術や知恵を総動員するためのプラットフォームとして、平成28年11月に設立。
- 具体的な施設管理者のニーズや技術の課題を明確化し、解決のシーズ技術を持つ企業の参入を促進
- 技術開発成果の社会実装を目標とし、施設管理者とさまざまな業種の企業等がオープンイノベーションにより技術開発を促進
- 技術開発にあたり企業マッチングや技術開発の実証フィールド等をコーディネート

「インフラメンテナンス国民会議」の取組

